

『クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業』
令和７年度 事業検証 報告書

独立行政法人日本芸術文化振興会
令和8年10月

本資料は、令和8年8月の事業検証委員会において使用した
『「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」に係る令和7年度成果等整理・分析及び報告書作成業務
(受託：合同会社デロイト トーマツ)報告書』をもとに、公表用として一部改編したものです。

目次

はじめに

本支援事業の概要 p.5

全体サマリー

本支援事業実施効果 p.17

事業別の主な成果 p.24

クリエイター等育成支援事業詳細資料

採択事業概要 p.37

文化施設高付加価値化支援事業詳細資料

採択事業概要 p.150

１.はじめに

本支援事業の概要

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業は、文化芸術活動基盤強化基金を活用し、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場である文化施設の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたり支援する事業である

本支援事業の背景および趣旨・目的

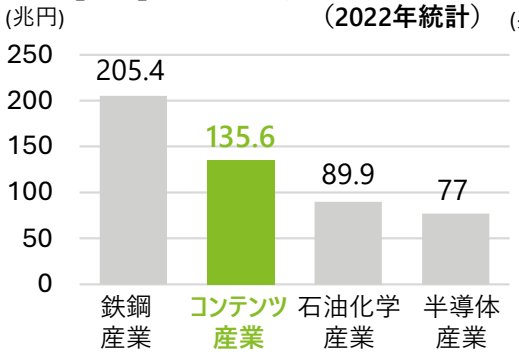
本支援事業の背景

- 日本のコンテンツ産業の海外売上は2023年で約5.8兆円と自動車産業に次ぐ規模であり「基幹産業」である
- 政府の戦略としては、「海外売り上げを2033年までに20兆円」と示されている（知財本部決定：本部長内閣総理大臣）
- 日本には1.2億人の市場があり、すでに国内市場規模も13兆円であるため、リスクを取って海外に打って出るインセンティブが生じにくい。一方で、人口減少の中、このままでは高い成長潜在力を持つコンテンツ市場の衰退の危機である
- 我が国の文化芸術の海外展開を視野に入れた若手クリエイターやアーティスト等の挑戦支援、育成体制を強化するとともに、国内活動拠点として博物館・美術館、劇場等の文化施設が新たな価値を付加できるよう機能強化し、若手クリエイター等を支える場として確立することが急務である

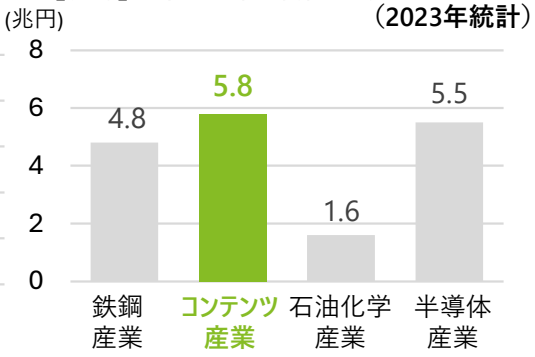
本支援事業の趣旨・目的

- 文化庁R5年度補正予算において措置された補助金により、クリエイター・アーティスト等の育成および文化施設の高付加価値化のために行う事業を実施するため、振興会に文化芸術活動基盤強化基金（通称：クリエイター支援基金、英語表記：Japan Creator Support Fund）が設立された
- 本基金を活用し、本支援事業として「クリエイター・アーティスト等育成事業」および「文化施設高付加価値化支援事業」の2事業を実施し、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場である文化施設の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたって支援する

【参考】コンテンツ産業の世界市場規模（2022年統計）



【参考】日本の産業の輸出額等の規模感比較（2023年統計）



独立行政法人 日本芸術文化振興会

文化芸術活動基盤強化基金

Japan Creator Support Fund

クリエイター・アーティスト等育成事業

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

文化施設高付加価値化支援事業

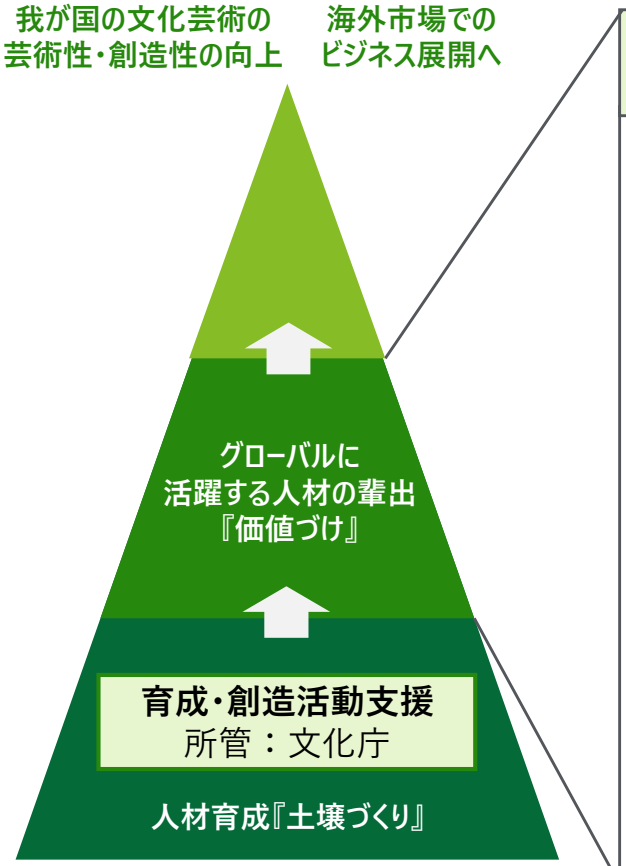
Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

出所：本業務仕様書、経済産業省「エンタメ・クリエイティブ産業戦略 中間取りまとめ（R7年5月）」、日本芸術文化振興会ウェブサイト、文化芸術活動基盤強化基金公式ウェブサイトより抜粋

本支援事業では、次代を担うクリエイター・アーティスト等の育成およびその活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたり支援することで、戦略的かつ持続的な日本のコンテンツの海外展開が可能になることを目標とする

我が国の海外展開の戦略全体構想と本支援事業の概要

我が国の海外展開の戦略全体構想



本支援事業の概要

次代を担う卓越したクリエイター・アーティスト等の育成、およびその活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、弾力的かつ複数年度にわたって支援する

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業（文化芸術活動基盤強化基金）
所管：独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁が国内で育成支援した海外で活躍が期待される若手クリエイター・アーティスト等を戦略的に選抜。世界で高い評価を得ることを目標とする

	クリエイター・アーティスト等育成事業		文化施設高付加価値化支援事業	
本事業	Japan Creator Support Fund FOR CREATORS	次世代を担うクリエイター等による、企画・交渉・制作・発表・海外展開までの一体的な活動を弾力的かつ複数年度にわたって支援	Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES	文化施設における新たな文化芸術活動に付加する活動について、弾力的かつ複数年度にわたって支援
	対象	クリエイター・アーティスト・キュレーター等	対象	文化施設
	予算	3年・45億	予算	3年・15億
	支援概要	金銭的支援・アドバイザーによる支援	支援概要	金銭的支援・アドバイザーによる支援
支援メニュー	クリエイター・アーティスト等育成事業では、2つの支援メニュー（「補助型」、「委託型」）にて実施。「補助型」は若手クリエイターの国内外での活動を一体的に支援し、振興会が伴走型支援を実施。「委託型」は人材育成を目的に、海外展開に向けた育成プログラムを委託事業として実施			

出所：文化庁公表資料、R6年4月11日実施クリエイター・アーティスト等育成事業オンライン説明会Q&Aより抜粋

クリエイター・アーティスト等育成事業および文化施設高付加価値化支援事業におけるそれぞれの採択事業数は28*1件、13件、支援する育成対象者数は総勢678名となる

各事業の採択状況

クリエイター・アーティスト等育成事業

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

海外の劇場との意欲的な共同制作や、国際的な芸術祭への参画等の、従来では申請がなかった活動を積極的に採択した

申請数	採択事業数	育成対象者数	指導者・アドバイザー数
120 件	28*1 件	計 536人	計 304人

区分	分野	採択件数	
舞台芸術	音楽	4件	オペラ、オーケストラ、ポピュラー音楽
	舞踊	3件	バレエ、現代舞踊 等
	演劇	5件	現代演劇、ミュージカル 等
	伝統芸能・大衆芸能	3件	歌舞伎、文楽、邦楽 等
	舞台芸術等	1件	舞台芸術総合
メディア芸術	メディア芸術	7*1件	マンガ、アニメ、ゲーム、映画 等
現代アート	現代アート	2件	現代アート、写真 等
分野横断的新領域		4件	特定の芸術分野に縛られない公演・展示活動

文化施設高付加価値化支援事業

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

博物館・美術館等と劇場・音楽堂等の２つの分野において、海外発信力や高付加価値化等の優れた成果が期待できる構想を採択した

申請数	採択事業数	育成対象者数	指導者・アドバイザー数
63 件	13 件	計 142人	延べ 91人

分野	区分*2	採択件数	
博物館・美術館等	大規模	3件	日本美術、建築 等
	中規模	1件	伝統工芸
	小規模	-	-
劇場・音楽堂等	大規模	-	-
	中規模	4件	パフォーミングアーツ、現代音楽 等
	小規模	5件	演劇、ダンス 等

*1 29件のプロジェクト採択後に同一事業者による2件のプロジェクトが1件に集約された
*2 プロジェクト規模で大中小の区分を設け、大規模は3億円、中規模は1.5億円、小規模は4千万円まで

出所：公表資料より抜粋

本支援事業は、事業別のロジックモデルに基づき、アウトカムおよびKPIが設定されている。各採択事業に対しては、これらを踏まえた目標の設定を求め、各年度において定量的な進捗評価を実施している

ロジックモデルとKPI（クリエイター・アーティスト等育成事業）

「クリエイター・アーティスト等育成事業」ロジックモデル

インプット	アクティビティ	アウトプット	初期アウトカム	長期アウトカム	参考アウトカム
R5年度 補正予算額 総額60億円/3年 うち ＜クリエイター・ アーティスト等育成支援＞ 45億/3年 対象分野 ・舞台芸術 ・分野横断的新領域 ・メディア芸術 ・現代アート	• 国際的な活躍が期待できる若手クリエイター等の海外派遣 • 公演等の企画・交渉から実施までの専門家による伴走型の育成 • 海外におけるプロモーション実施（PR映像の発信、国際的影響力のある批評家等の招聘） • 民間団体・企業等との連携による事業実施	• 海外での公演・展示の実施を通じた若手クリエイター等の育成 • 本支援事業を通じた海外におけるネットワークの形成 • 海外展開における優れたコンテンツの創出・発信 • 海外におけるマーケティング・プロモーションによる効果	• 若手クリエイター等の海外展開 KPI1 • 海外公演・コンテンツの展開 • 本支援事業を通じた海外ネットワーク形成 KPI2 • 海外参加者の興味・関心や、専門家等による評価の獲得 • 海外展開を通じた交流促進	• 若手クリエイター等の国際的活躍・評価の向上 KPI3 • 海外展開の拡大（国・地域）、連携体制の強化（事業提携、人材交流、拠点形成） KPI4 • 海外参加者の興味・関心や、専門家等によるさらなる評価の獲得（3年時との比較） • 海外での日本コンテンツの理解促進	• 文化芸術活動の活性化（若手クリエイター等の海外での活躍を含む） • コンテンツ市場の維持・拡大 KPI5 • 我が国の文化芸術の国際的なプレゼンスの向上 KPI6 • 海外を通じた相互理解の促進 KPI7

KPI

KPI1	若手クリエイター等（育成対象者）を企画段階から登用・育成し、世界的に認知されている芸術祭・文化施設等において高い評価を獲得したプロジェクトの件数（R8年度25件）
KPI2	国内外の団体・企業等との連携体制（連携先の団体数、事業提携数、拠点形成数等）の構築数（R8年度10件）
KPI3	若手クリエイター等（育成対象者）による国内外の著名な賞の受賞・ノミネートや世界的に認知されている国内外の芸術祭・文化施設等へ出品・出演・参画して高い評価を受ける件数（R10年20件）
KPI4	若手クリエイター等（育成対象者）が海外の芸術団体、文化施設、関係事業者等との事業連携、人材育成、拠点形成等を実現した件数（R10年10件）
KPI5	〔参考〕世界のコンテンツ市場に占める日本の割合（R5年7.98%→R15年までの平均値増）
KPI6	〔参考〕訪日外国人のうち、「舞台・音楽鑑賞」「美術館・博物館等」を目的とした人の割合（R5年度7-9月期2.8%、22.3%→R15年までの平均値増）
KPI7	〔参考〕日本と諸外国との文化交流の推進が「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり，国際関係の安定につながる」意義があると回答した人の割合（R5 年53.6%→R15年までの平均値増）

採択事業設定目標

①企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数	②国内外の団体・企業等との連携数（連携団体数、事業提携数、拠点形成数等）	③プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	④国内外で展開される公演・展示等の数（ステージ数・日数等）	⑤国内外で展開される公演・展示等の入場者数	⑥（各プロジェクト独自設定目標）

出所：公表資料より抜粋

本支援事業は、事業別のロジックモデルに基づき、アウトカムおよびKPIが設定されている。各採択事業に対しては、これらを踏まえた目標の設定を求め、各年度において定量的な進捗評価を実施している

ロジックモデルとKPI（文化施設高付加価値化支援事業）

「文化施設高付加価値化支援事業」ロジックモデル

インプット	アクティビティ	アウトプット	初期アウトカム	長期アウトカム	参考アウトカム
R5年度 補正予算額 総額60億円/3年 うち ＜文化施設 高付加価値化支援＞ 15億円/3年 対象施設 博物館・美術館等 劇場・音楽堂等	• 文化施設において、長期雇用や複数年契約等により、若手クリエイター等が継続して創造発信する場を提供 • 地域・企業・個人等の様々なステークホールダーを巻き込み、若手クリエイター等の新たな活躍の場を提供	• 世界的な活躍が見込まれる若手クリエイター等の育成 ＜博物館・美術館＞ • 育成対象者の作品のデジタル・アーカイブ化、世界に強力に発信 ＜劇場・音楽堂等＞ • 芸術性の高い作品の創作 • 国内外における公演活動 • 育成対象者を海外展開に向けて強力に発信	• 国内公演・展示プログラムの高評価の獲得 KPI1 • 文化施設が持つ価値（コンテンツ）のデジタル・アーカイブ化、発信による価値の向上 KPI2	• 若手クリエイター等の国際的活躍・評価の向上を通じた、文化施設の国際的価値の向上 KPI3 • 若手クリエイター等の国際的活躍・評価の向上 KPI4 • 支援対象文化施設の芸術文化拠点としての機能向上 KPI5	• 文化芸術活動の活性化（若手クリエイター等の海外での活動を含む） • コンテンツ市場の維持・拡大 KPI6 • 我が国の文化芸術の国際的なプレゼンスの向上 KPI7 • 海外を通じた相互理解の促進 KPI8

KPI

- **KPI1** 若手クリエイター等を企画段階から登用・育成し、作品等の企画・制作・展示等を行った結果、国内外における専門誌・専門家・批評家等により高評価を得た施設数（R8年13件）
- **KPI2** 当初計画通りにデジタル作品を発信した施設数（R8年4件）
- **KPI3** 支援対象文化施設が国内外の賞の受賞・ノミネートや世界的に認知されている国内外の芸術祭等からの招聘・出品等の依頼を受けた件数（R10年48件）
- **KPI4** 展示・公演の成功により、若手クリエイター等が新たにオファーを獲得し参加する国内外における新たなプロジェクトやコンテンツの数（R10年64件）
- **KPI5** 支援文化施設における入場者数の増加（R元年度比）
- **KPI6** 〔参考〕世界のコンテンツ市場に占める日本の割合（R5年7.98%→R15年までの平均値増）
- **KPI7** 〔参考〕訪日外国人のうち「舞台・音楽鑑賞」「美術館・博物館等」を目的とした人の割合（R5年度は7-9月期：2.8%、22.3%→R15年までの平均値増）
- **KPI8** 〔参考〕日本と諸外国との文化交流の推進が「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり，国際関係の安定につながる」意義があると回答した人の割合（R5 53.6%→R15年までの平均値増）

採択事業設定目標

① 主催事業実施本数
② 主催事業入場者数・参加者数
③ 文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）
④ デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数
⑤ （各プロジェクト独自設定目標）

出所：公表資料より抜粋

本支援事業では、海外展開に対する３つの方向性・ポイントを以下のとおり定め、各分野の海外ニーズの特性・状況を踏まえた海外展開を重視している

本支援事業の海外展開に対する方向性・ポイント

1 海外のニーズを踏まえた展開における若手育成	• 海外のニーズを踏まえた新作・新制作・演出等における若手登用（実演家、作曲家、脚本家、演出家、監督、プロデューサー等の育成） • 企画制作、コーディネーター、スタッフ等海外との交渉担当者等の育成 • ターゲットを設定した交渉・プロモーション・分析（ネット含む）
2 世界的認知度が高い場での展開・評価	• 世界的な音楽祭・芸術祭、映画祭・フェスや劇場・音楽堂、美術館・博物館等との交渉による公演・展示活動の実現 • 海外・国内の批評家、専門家等の招聘・派遣による高評価獲得（当該分野の専門家・批評家、代表的なメディア等の招聘）
3 戦略的な海外展開ネットワーク形成・人脈づくり	• 現地の人脈を生かしたプロモーション、要人等招聘（外務省、国際交流基金、JETRO等へ協力依頼、現地の邦人・企業関係者ネットワークの活用） • ショーケース・ワークショップ等に文化担当関係者（在外・在京大使館・記者等）等を通じた事業提携・人材交流・拠点形成等へ

各分野の海外ニーズの特性・状況を踏まえた展開が必須

出所：クリエイター・アーティスト支援と海外展開の戦略全体構想 より改編

本支援事業では、助成金交付に加え、事業の認知向上、国内外への発信、採択団体間の連携強化を目的として、多面的なプロモーションおよび伴走支援が実施された。これらの取組は、単なる広報にとどまらず、事業成果の最大化および海外展開基盤の形成に寄与している

本支援事業の効果最大化を目指した事業推進に資する取り組み

プロモーションに資する取り組み　　事業推進に資する取り組み

情報発信基盤整備に関する取り組み

本支援事業全体の認知と統一的発信を目的にブランド設計および情報発信基盤を構築

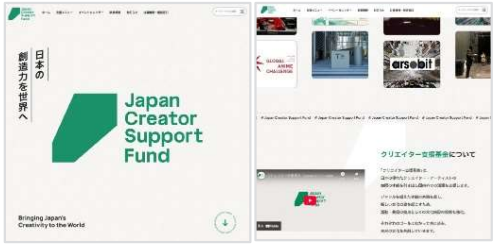
事業ネーミング・シンボルマークの策定

- 文化庁および芸文振が連携し事業名とシンボルマークを策定
- ロゴガイドライン（マニュアル）を制作することで、採択団体での活用を促進



公式サイト・ティザーサイト構築

- 公式サイトをR7年6月に公開。本支援事業概要や採択団体情報、イベント情報等を一元掲載
- 公式サイト公開前に本支援事業に関するティザーサイトを設置し、事前認知を醸成



認知拡大・理解醸成に向けた取り組み

多様なターゲットに対し、本支援事業の内容と成果の理解促進を目指したクリエイティブ制作や情報発信強化施策を実施

クリエイティブ制作の実施

- 印刷物や動画コンテンツの制作を実施
- 事業概要や育成対象者の活動を伝えるプロモーション動画は、各種イベントで上映されるとともに、英語版の公開を実施



発信強化施策の実施

- SNSでの情報発信やメディア向けのニュースレターを配信
- webメディアとのタイアップ記事を制作し、基金の認知拡大に寄与
- バナー広告・検索広告等を活用
- 進捗報告会等に合わせて事前・事後プレスリリースを配信
- 海外に向けた情報発信や、各種メディアによる記事化が実施されており、発信強化を実現



本支援事業では、助成金交付に加え、事業の認知向上、国内外への発信、採択団体間の連携強化を目的として、多面的なプロモーションおよび伴走支援が実施された。これらの取組は、単なる広報にとどまらず、事業成果の最大化および海外展開基盤の形成に寄与している

本支援事業の効果最大化を目指した事業推進に資する取り組み

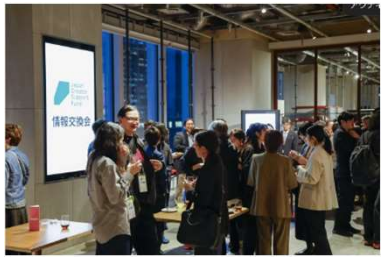
プロモーションに資する取り組み　｜　事業推進に資する取り組み

採択団体の伴走支援に関する取り組み

各プロジェクトの推進力強化とともに、本支援事業全体としての知見蓄積・相互作用を創出

連携強化・知見共有の場の設計





- 毎年1度、進捗報告会および情報交換会を実施
  2年目の報告会では分科会も併せて行った
- 進捗報告会では、複数の採択団体より代表者及び育成対象者が登壇し、成果報告を実施
- 分科会では各分野の専門的課題や分野横断における共通課題をテーマに議論の場を設置
- 情報交換会においては、採択団体、アドバイザー、文化庁関係者等、関係者が参加し、事業間での取り組みや知見共有、ネットワーク構築の場を設計
- 実施後には情報交換会・分科会それぞれ事後レポートを公式サイトに掲載

伴走支援の実施

- 各採択団体が設定する指導者・アドバイザーとは別途、事務局より20名程度の専門家にアドバイザーを依頼
- アドバイザーおよび事務局担当者による、各採択事業のより効果的な運営や成果達成に向けて伴走支援を実施

実装支援の実施（文化施設のみ）

- 文化施設の機能強化を目的に、ネットワーク構築・海外展開の広報サポート、プログラムマネジメント人材派遣を実施
- 広報サポートでは、記事掲載機会の交渉、創出および取材や会見の開催支援を実施
- ネットワーク構築サポートでは、横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)でのシンポジウムやイベントでのブース出展の支援を実施







採択3団体の中核者とゲストによるシンポジウム、ランチ・パーティーを開催(R7年12月)

本支援事業の趣旨・要件等を踏まえ、クリエイター・アーティスト等育成事業では、専門家の審査を経て28*1の事業が採択された

クリエイター・アーティスト等育成事業一覧（1/2）

#	採択事業名	採択団体名	ページ
1	国際音楽祭での新作初演と新作オペラ“The Great Wave”の国際共同制作を通じた若手育成	株式会社 KAJIMOTO	p.38~41
2	ニコニコ動画主催企画を介した若手クリエイター発掘および海外進出プロジェクト	株式会社 ドワンゴ	p.42~45
3	アーティストの好循環を創り出す ~大規模国際共同制作を通した輸出型プロモーションの試み~	公益財団法人 東京二期会	p.46~49
4	欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手育成プロジェクト	公益財団法人 読売日本交響楽団	p.50~53
5	海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト	公益財団法人 新国立劇場運営財団	p.54~57
6	次世代の国際スター創出および世界五大バレエ団達成プロジェクト	公益財団法人 日本舞台芸術振興会	p.58~61
7	世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト『Wings』	一般財団法人 セガサミー 文化芸術財団	p.62~65
8	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業	一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT	p.66~69
9	IN TRANSIT －異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト－	株式会社 precog	p.70~73
10	世界のショービジネス界で飛躍するクリエイター育成プロジェクト	株式会社 ホリプロ	p.74~77
11	世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト	株式会社 サイ	p.78~81
12	SOIL Fellowship Program	一般社団法人 緊急事態 舞台芸術ネットワーク	p.82~85
13	世界で高い評価を得られる文楽・技芸員（アーティスト）育成プロジェクト	公益財団法人 文楽協会	p.86~89
14	歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成	松竹 株式会社	p.90~93

*1 29件のプロジェクト採択後に同一事業者による2件のプロジェクトが1件に集約された

本支援事業の趣旨・要件等を踏まえ、クリエイター・アーティスト等育成事業では、専門家の審査を経て28*1の事業が採択された

クリエイター・アーティスト等育成事業一覧（2/2）

#	採択事業名	採択団体名	ページ
15	日本音楽の魅力発信プロジェクト −和の文化活動を通じた若手育成−	特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会	p.94~97
16	舞台芸術海外コーディネーター育成事業	公益社団法人 全国公立文化施設 協会	p.98~101
17	グローバル・アニメ・チャレンジ	株式会社 キネマシトラス	p.102~105
18	Manga International Network Team （MINT）	一般財団法人 出版文化産業 振興財団	p.106~109
19	Top Game Creators Academy(TGCA)	一般社団法人 コンピュータ エンターテインメント協会	p.110~113
20	WAN: Art & Tech Creators Global Network	公益財団法人 画像情報教育 振興協会	p.114~117
21	New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World	公益財団法人 画像情報教育 振興協会	p.118~121
22	Film Frontier	公益財団法人 ユニジャパン	p.122~125
23	T3: PHOTO FESTIVAL TOKYO / PHOTO ASIA / NEW TALENT	一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY	p.126~129
24	JUMP アーティスト＋キュレーター 国際協働プログラム	独立行政法人 国立美術館	p.130~133
25	『Kogei』アーティスト育成グローバル 展開プロジェクト	認定NPO法人 趣都金澤	p.134~137
26	オペラ『Super Angels』新シリーズ制作 及び海外展開に向けた領域横断型人 材育成	アタック・トーキョー 株式会社	p.138~141
27	渋谷・京都を拠点に「GAME/遊び」を 起点としたクリエイションとグローバル ネットワークを形成する404 Not Found・ art bit連携プロジェクト「ars●bit」	一般社団法人 渋谷あそびば 制作委員会	p.142~145
28	日本文化輸出プラットフォーム 『KAISEKI』	株式会社 スクリイム・ラウダア	p.146~149

*1 29件のプロジェクト採択後に同一事業者による2件のプロジェクトが1件に集約された

本支援事業の趣旨・要件等を踏まえ、文化施設高付加価値化支援事業では、専門家の審査を経て13の事業が採択された

文化施設高付加価値化支援事業一覧

#	採択事業名	採択団体名	ページ
1	大分発アートプラクティス発信事業 -竹/キュレーション・プロデュース	大分市美術館	p.151~154
2	次世代型学習コンテンツプロデューサー 育成プロジェクト	国立科学博物館	p.155~158
3	Global Exhibition Team（GET） による日本文化発信プロジェクト	東京国立博物館	p.159~162
4	グローバル・アート・プロフェッショナル 育成プロジェクト	森美術館	p.163~166
5	Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場 ダンスプロジェクト~	愛知県芸術劇場	p.167~170
6	無隣館インターナショナル	江原河畔劇場	p.171~174
7	ストリートシアター グローバル人材育成 プロジェクト“STRANGE Lab.”	SPAC -静岡県 舞台芸術センター	p.175~178
8	劇場による総合的な人材育成・ 国際発信プロジェクト	世田谷パブリック シアター	p.179~182
9	TMTギア-東京芸術劇場 クリエイター支援プロジェクト	東京芸術劇場	p.183~186
10	音楽クリエイター育成プロジェクト Tokyo & Paris to the NEXT	東京文化会館	p.187~190
11	Step into the world from Matsumoto	まつもと市民芸術館	p.191~194
12	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた 人材育成プロジェクト ”劇場と学校の時間”	山口情報芸術センター [YCAM]	p.195~198
13	ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス	ロームシアター京都	p.199~202

2.全体サマリー

（1）本支援事業実施効果

（2）事業別の主な成果

本支援事業実施2年目となるR7年度の効果は、事業の「事業の成長性」「人材育成効果」「国際展開・市場形成効果」「業界・地域・次世代への波及効果」の4つの観点から検証した

本支援事業の実施効果検証の観点

	効果検証の観点(R7年度)
事業の成長性	トップクリエイター育成を実現する基盤の形成
	複数年度支援による人材・組織基盤の形成
	多様な育成主体による人材育成プログラムの形成
人材育成効果	国際展開に繋がる創作力・実践力の向上
	世界水準の実践機会(発表機会)の創出
	国際評価の獲得
	海外展開ノウハウの蓄積
国際展開・市場形成効果	海外ネットワークの形成
	国際共同制作の促進
	日本文化のプレゼンス向上
業界・地域・次世代への波及効果	業界全体への知見共有
	文化施設の機能強化
	次世代へのロールモデル創出

本支援事業の実施効果検証の観点
「事業の成長性」| 海外展開を見据えた人材育成・施設機能強化の仕組みが機能しているか

事業の成長性

本支援事業は、複数年度にわたる柔軟な支援を通じて、クリエイター・アーティストだけでなくプロデューサー、キュレーター、技術者、批評家等を含む多様な人材の育成を推進している。2年目終了時点では、海外展開を見据えた創作活動や国際連携の基盤整備が進むとともに、分野横断的な協働や知見共有、単年度支援では実現が難しかった国際共同制作や海外発表等に取り組む機会も創出されている。こうした取組は、将来的なトップクリエイターの輩出とともに、日本のコンテンツ産業の持続的成長を支える人材層の厚みの形成に寄与しており、人材育成の好循環を生み出す基盤となりつつある

複数年度支援による持続的かつ柔軟な人材育成・施設機能強化の推進

トップクリエイター育成を実現する基盤の形成	本支援事業では、国際共同制作や海外パートナーとの連携、海外公演・展覧会等を通じて、育成対象者が世界水準の創作環境や発表機会に接続する機会が創出されている。こうした経験は、これまで挑戦が難しかった国際的な活動への第一歩となるとともに、将来的に国際的な活躍が期待されるトップクリエイターや専門人材の育成につながっている。また、こうした人材の継続的な輩出を支える基盤づくりという観点からも意義ある取組と評価できる
複数年度支援による人材・組織基盤の形成	本支援事業では、複数年度支援を活用することで、単年度では実現が難しい海外機関との信頼関係構築や創作活動の高度化を進めている。また、中長期的な視点で創作・育成・国際展開に取り組める環境が整備されたことで、これまで着手が困難であった挑戦的な活動にも取り組みやすくなっている。採択団体では海外展開に関する実務ノウハウやネットワークが蓄積されつつあり、将来的な国際共同制作や海外展開を支える組織基盤の形成に寄与する可能性がある
多様な育成主体による人材育成プログラムの形成	本支援事業では、育成対象がクリエイター・アーティストのみならず、プロデューサー、企画開発人材、国際交渉人材、マーケター、キュレーター、制作統括人材等へ広がっている。また、多様な分野・規模・専門性を有する団体がそれぞれの強みを活かした独自の育成プログラムを展開することにより、一律的な評価軸では育成が難しい多様な才能の発掘・育成が進みつつある。こうした取組は、多様な人材がそれぞれの立場から海外展開を意識しながら成長する機会となっており、国際展開を支える人材基盤の拡充と、持続的な人材輩出につながることが期待される

本支援事業の実施効果検証の観点
「人材育成」| 国際的な成果創出に繋がる人材が育成できているか

人材育成効果

各採択事業において、海外専門家との協働や国際共同制作、海外公演・展覧会への参画等を通じて、育成対象者の創作力や企画力、国際的なコミュニケーション能力の向上が図られている。また、国際的な発表機会や交流機会を通じて海外展開に必要な経験や知見が蓄積されている。多くの採択事業は現在、成果創出に向けた創作活動や関係構築の段階にありながら、受賞や海外からの評価獲得も見られ、今後の更なる成果発現が期待される

国際展開を見据えた人材育成と成果創出に向けた進捗

国際展開に繋がる創作力・実践力の向上	育成対象者は海外専門家との共同制作や試演、フィードバックを通じて、新たな表現手法や創作プロセスに挑戦、習得している。また、異なる文化的背景を持つ関係者との協働経験により、国際的な視点や実践力が養われ、海外展開を見据えた活動の高度化へと繋がっている
世界水準の実践機会(発表機会)の創出	海外フェスティバル、映画祭、展覧会、公演等への参加は、育成対象者にとって単なる研修や視察では得られない挑戦の機会となっている。世界水準の現場で自身の作品や創作活動を発信する経験は、今後の国際展開に向けてスキル・マインド両面から変化や成長に繋がる重要な機会となっている
国際評価の獲得	一部の採択事業では国際映画祭での受賞や海外専門家からの高い評価、海外での出展機会獲得等の成果が生まれている。一方で、多くのプロジェクトは創作・発表段階にあり、本格的な国際評価の獲得は今後の公演や展示、作品公開等を通じて実現されることが期待される
海外展開ノウハウの蓄積	国際共同制作や海外公演等を通じて、契約実務、知的財産権対応、国際広報、現地交渉などに関する知見が蓄積されつつある。これらの経験は各採択団体の将来的な海外展開に資するだけでなく、将来的に他事業や業界全体へ共有可能な資産であり、日本の文化芸術分野における海外展開力の底上げに寄与することが期待される

本支援事業の実施効果検証の観点
「国際展開・市場形成効果」| 海外展開に向けたネットワークの形成が進んでいるか

国際展開・市場形成効果

海外劇場、文化機関、フェスティバル等とのネットワーク形成が進み、持続的な国際連携の基盤形成が進んでいる。共同制作や海外発信に関する取組も拡大しており、出展依頼や共同事業提案など具体的な成果が現れ始めている。現時点では関係構築の初期段階のプロジェクトが多いものの、今後、若手クリエイターの継続的な挑戦機会の創出や、文化芸術分野の持続的な発展を支える国際連携へ発展していくことが期待される

持続的な海外展開を支えるネットワークと連携に向けた進捗

海外ネットワークの形成	海外フェスティバルやシンポジウム、劇場、美術館等への参加を通じて、多様な海外関係者とのネットワーク形成が進んだ。単発的な交流にとどまらず、継続的な協議や共同制作へ発展する事例も見られ、今後の国際展開を支える関係基盤が構築されつつある
国際共同制作の促進	海外ディレクターやプロデューサー等との共同制作、クリエイション、作品開発等が進展している。現時点では制作準備や関係構築の段階にある案件も多いが、将来的な海外公演や国際展開に直接的に繋がり易い創作環境の形成が進みつつある
日本文化のプレゼンス向上	海外公演や展覧会、シンポジウム、デジタルコンテンツ配信等を通じて、日本文化や作品の認知向上が図られている。一部では新たな出展依頼や出版企画、海外公演機会の創出等の成果も生まれており、今後の市場拡大につながる可能性が示されている

本支援事業の実施効果検証の観点
「業界・地域・次世代への波及効果」| その成果が業界全体へ広がっているか

業界・地域・次世代への波及効果

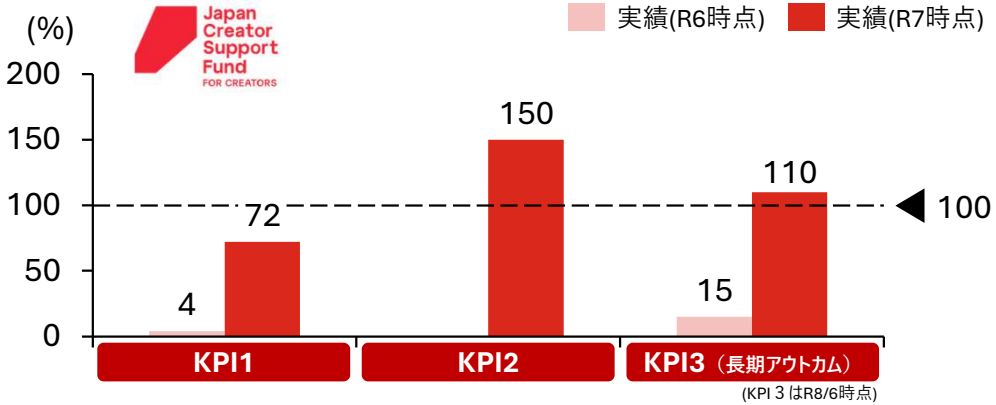
本支援事業を通じて蓄積された知見や経験は、採択団体のみならず業界や地域へも広がり始めている。特に、文化施設では人材育成や国際発信に関する機能強化が進むとともに、地域との連携を通じた新たな価値創出の事例も生まれつつある。また、海外展開に挑戦する育成対象者の存在は、次世代人材の挑戦を促すだけでなく、その経験やノウハウを体系化し、人材育成プログラムや学びの機会として還元する取組へと発展しつつある。こうした動きは、人材育成の好循環の形成と文化芸術分野の持続的な発展につながることが期待される

成果の還元と機能強化による人材育成の好循環実現への兆し

業界全体への知見共有	国際共同制作や海外展開の過程で得られた知見が、シンポジウム、ネットワーク活動、アカデミー事業等を通じて共有され始めている。これにより、海外展開の経験を持たない団体や次世代の若手人材にとっても学習機会が広がり、業界全体の発展につながることが期待される
文化施設の機能強化	文化施設では海外展開を推進する組織体制の整備や国際機関との連携構築が進んでいる。また、人材育成や創作支援、情報発信機能の強化にも取り組んでおり、施設が有する設備や人材、情報リソースを活用した地域における文化芸術活動と国際展開を結ぶ拠点機能が高まりつつある
次世代へのロールモデル創出	海外公演や国際共同制作、国際的な評価獲得に挑戦する育成対象者による成果が蓄積されている。こうした挑戦の可視化は、後に続く若手クリエイターや専門人材にとって具体的な目標を提示するとともに、新たな挑戦を促す好循環の起点となっている

KPIと達成実績

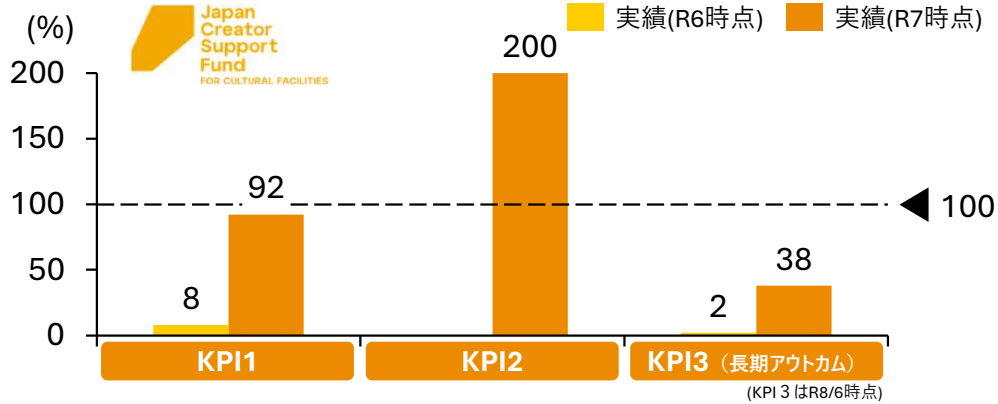
KPI1	世界的に認知されている芸術祭等において高い評価を獲得したプロジェクトの件数※
KPI2	国内外の団体・企業等との連携体制の構築数※
KPI3	著名な賞の受賞・ノミネートや芸術祭等へ出品・出演して高い評価を受けた件数※



目標値	実績(R6)	実績(R7)	目標値	時点(R7)	目標値	実績(R6)	実績(R7)
25	**1 (4%)**	**18 (72%)**	10	**15 (150%)**	20	**3 (15%)**	**22 (110%)**

- クリエイター等育成事業は、「人材育成→海外ネットワーク形成→国際的評価獲得」というロジックモデルに沿って着実に成果が積み上がっており、特に国際連携と国際評価の面では既に当初5年で達成を想定していた長期アウトカムを上回る成果を創出している
- 既に、多くのプロジェクトが海外ネットワーク形成(KPI2)を順調に進めるとともに、国際的な賞の受賞や評価獲得(KPI3)が重なっており、日本の文化芸術の国際的プレゼンス向上が示唆される
- KPI1は、海外公演や国際共同制作の実施後に発現する成果指標であり、本プロジェクト全体の進行状況を踏まえると、現在は成果創出に向けた案件形成や関係構築の段階と捉えられる
- R8年度にて、実際の発表・評価獲得段階へ移行し、更なる成果創出が見込まれる

KPI1	国内外の専門誌・専門家・批評家等により高い評価を獲得した施設数※
KPI2	当初計画通りにデジタル作品を発信した施設数
KPI3	賞の受賞・ノミネートや芸術祭等から招聘・出品等の依頼を受けた件数※



目標値	実績(R6)	実績(R7)	目標値	時点(R7)	目標値	実績(R6)	実績(R7)
13	**1 (8%)**	**12 (92%)**	4	**8 (200%)**	48	**1 (2%)**	**18 (38%)**

- 文化施設事業は、クリエイター育成事業と比較すると成果発現までにより長い期間を要する事業であるが、「施設機能強化→国際発信→国際評価」という流れが明確に確認され、R7の成果件数が大きく増加した点は、各施設の国際発信機能が着実に向上している証左と評価できる
- 特に、文化施設がデジタル作品の発信(KPI2) に積極的に取り組み、国内外へのアクセス拡大や文化資源の可視化を実現していることが示唆される
- 国際的受賞や出品依頼(KPI3)の成果の大幅な上昇も、海外機関からの関心や評価が顕在化し始めていることを示しており、文化施設が若手クリエイター等の発信拠点として機能し始めていることを示唆している
- R8年度に作品の発表や、海外での出品や出展等を控える採択事業が多く、更なる成果創出が見込まれる

※KPI全文から抜粋し改編、詳細は9~10頁を参照

２.全体サマリー

（１）本支援事業実施効果

（２）事業別の主な成果

クリエイター・アーティスト等育成事業｜アウトカム達成への貢献事例(1/4)

長期アウトカムKPI3へ貢献	主要映画祭のコンペ部門への選出 / ベルリン国際映画祭「コンペティション部門」、アヌシー国際アニメーション映画祭「長編コンペティション部門」 主要映画祭での受賞 / アヌシー国際映画祭「Contrechamp部門」での審査員賞受賞
採択事業	Film Frontier・長編アニメクリエイター支援
採択団体	委託事務局: 公益財団法人ユニジャパン





- 日本画家・四宮義俊が監督・脚本を手掛ける長編デビュー作『花緑青が明ける日に』が、世界三大映画祭のひとつである第76回ベルリン国際映画祭にて、最高賞である金熊賞を競うコンペティション部門に選出
- 日本のアニメが同部門に選出されるのは、『千と千尋の神隠し』(宮崎駿監督/金熊賞受賞)、『すずめの戸締り』(新海誠監督)に続く快挙。長編監督デビュー作が同部門に選出されるのは、日本のアニメーションとしては初
- アヌシー国際アニメーション映画祭2026ではContrechamp部門に選出され、審査員賞を受賞した
- 本作は、フランスのMiyu Productionsとの日仏共同製作のオリジナル作品。日本画ベースの繊細な色彩の世界観が国際的に高く評価された
- Film Frontierでは『花緑青が明ける日に』の海外展開を支援した。また、育成対象者である四宮氏に対して、専門家より国際映画祭の概論や海外映画祭におけるメディアへの対応などについてアドバイスを実施した





- 人気TVアニメ「オッドタクシー」を手掛けたクリエイタータッグ、木下麦監督と脚本家の此元和津也によるオリジナルアニメーション作品『ホウセンカ』が、アヌシー国際アニメーション映画祭2025にて、長編コンペティション部門に選出
- 原作のあるアニメ作品が多い中、本作はオリジナル作品で木下監督の長編デビュー作。Film Frontierでは、『花緑青が明ける日に』と同様、『ホウセンカ』では海外展開（プロモーションの強化等）を支援した
- 『ホウセンカ』は木下監督のほか、プロデューサーの伊藤裕史氏、神戸麻紀氏が育成対象者。監督だけでなく、対外的に作品を売り込んでいくプロデューサーを育成対象者とすることで、作品全体を効果的に支援することができた
- 映画祭に向けて、アドバイザーより育成対象者のプロデューサーに対して英語によるピッチトレーニングと共に、現地マーケット概論に関するアドバイス等を実施した

クリエイター・アーティスト等育成事業｜アウトカム達成への貢献事例(2/4)

長期アウトカムKPI3へ貢献	日仏による共同制作 / 第79回カンヌ国際映画祭独立部門「監督週間」に選出
採択事業	New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the world
採択団体	委託事務局: 公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS)





- 第一期推薦枠作家の矢野ほなみ氏が監督を務める『エリ』が、第79回カンヌ国際映画祭 独立部門「監督週間」に選出
- 本作品は、フランスを代表するアニメーションスタジオMiyu Productionsとの日仏共同製作
- 公募枠作家の開発中の企画も本格的な製作に入っているものもあるため、今後も完成作品の国内外での展開（映画祭への選出等）が期待される。また、新たに海外プロデューサーとの協働が期待される育成対象者の作品も出てきている
- 海外の業界関係者の中では「NeW NeW（ニューニュー）」というなじみやすい略称で着実に知名度を上げている。派遣先として予定していなかった海外の映画祭や団体等からも上映プログラムやプレゼン等で声がかかるようになり、新たな海外展開が派生的に生まれてきている

長期アウトカムKPI3へ貢献	海外での企画ピッチやラボへの選出と受賞 / プロデューサーの獲得
採択事業	Film Frontier・海外渡航支援プログラム/滞在型企画開発
採択団体	委託事務局: 公益財団法人ユニジャパン





- 「沖縄環太平洋国際映画祭Cinema at Sea」の関連事業「沖縄環太平洋映画インダストリー」の企画ピッチで受賞した太田信吾氏の企画『煙突清掃人』は海外プロデューサーを迎えた後、2年目はDMZドキュメンタリー映画祭でDMZ Docs賞を受賞。現在は企画開発を終え、日本芸術文化振興会の「日本映画製作支援」の助成を受けて本格的な製作に入っている
- 川和田恵真氏の企画は香港国際映画祭併設マーケットHAFに選出され、「La Fonte」賞受賞。同企画はベルリン国際映画祭併設マーケットのEFMでのCo-Production Marketにも選出され、積極的に開発を進めている
- そのほかの育成対象者の主な活動としては、中西舞監督がトロント国際映画祭のDirector's Lab、山下つぼみ監督がロッテルダムラボに選出され、着実に企画開発を進めている。また、海外展開に強い日本のプロデューサーが育成対象者の企画に複数関わる等、新たな展開もあった

クリエイター・アーティスト等育成事業｜アウトカム達成への貢献事例(3/4)

長期アウトカム KPI3へ貢献	継続的な海外活動基盤整備と現地機関との連携 / プリ・アルスエレクトロニカ2026「優秀賞」を受賞
採択事業	WAN: Art & Tech Creators Global Network
採択団体	委託事務局: 公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS)





- 育成対象者の花形槙氏の作品が、1987年創設の世界で最も歴史の長いメディアアート賞「プリ・アルスエレクトロニカ 2026」で、インタラクティブ・アート・プラス部門において「優秀賞」を受賞。受賞作はオーストリア・リンツで開催される「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」にて展示予定
- プロジェクトでは、アメリカ・ニューヨークの現代美術館「New Museum」が運営するインキュベーションプラットフォーム「NEW INC」内のデスクを活用し、海外関係者との継続的な活動基盤を整備。また、国内外研究機関等(ニューヨーク大、東京藝術大 等) との連携により、現地での発表機会を創出
- 既存のプラットフォームに参画することで効果的にネットワーク構築を実現しており、3年目以降も海外での出展、登壇、取材、さらには海外賞の受賞が期待されている

初期アウトカム KPI1へ貢献	カナダの代表的なコミック・コンベンションのポスタービジュアルを担当 / 複数作品の英語版出版が決定
採択事業	クリエイター等育成プログラム(マンガ) Manga International Network Team (MINT)
採択団体	委託事務局: 一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)





- カナダ・トロントで2026年6月に行われたコミック・コンベンション「Toronto Comic Arts Festival（TCAF）」のポスタービジュアルを育成対象者のばったん氏が担当。このポスタービジュアルは歴代名だたるコミック・アーティストが手掛けており、日本人のマンガ家としては松本大洋、伊藤潤二等に続き6人目の快挙
- 北米のマンガ市場をターゲットとして、2026年のTCAFの他、2025年は「Anime Expo」(米国・LA)、「Cartoon Crossroads Columbus」（米国・オハイオ）に育成対象者を派遣。渡航前は海外アドバイザーによる講座や個人面談等を行い、北米市場の特性や現地での活動・ネットワーキング等に関する助言を受けた。派遣先では、トークイベントやワークショップ等を通じて現地ファンとの交流と、業界関係者とのネットワークを構築した
- 育成対象者の作品の英語翻訳サンプル合本を作成したことが功を奏し、複数作品の北米での英語版出版が決定。着実な成果を結びつつある

クリエイター・アーティスト等育成事業｜アウトカム達成への貢献事例(4/4)

長期アウトカム KPI3へ貢献	英国ロイヤル・オペラ・ハウスにて上演 / 第26回英国舞踊批評家協会賞 受賞
採択事業	海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト
採択団体	公益財団法人新国立劇場運営財団



- 世界最高峰のダンサーだけが立つことができる舞台、英国ロイヤル・オペラ・ハウスにて「ジゼル」上演。第26回英国舞踊批評家協会賞にて、「最優秀カンパニー賞」を受賞。受賞は日本で初めての快挙
- 団体初となる海外自主公演にあたっては、現地の広報・宣伝会社と連携し、効果的な展開戦略で現地メディア関係者とのネットワークを構築。広告出稿の他、プレスランチやトークイベント等の開催によりチケット完売に繋げることができた
- 現地の複数メディアにおいて公演評が掲載され、いずれも4～5つ星の非常に高い評価を得た。また、SNSや終演後のロビー、出待ちの観客からの熱のこもった反応は育成対象者の自信にも繋がり、その後の活動の後押しになっている

初期アウトカム KPI2へ貢献	舞台芸術の海外展開のための基盤づくり / プロデューサー育成のスキームを構築
採択事業	SOIL Fellowship Program (Stage for Originally, Innovation, and Leadership)
採択団体	一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク



- 海外展開に必要なスキル獲得のため、海外フェスティバルのプロデューサーの集中講義や、個別のメンターセッション、英語研修、ピッチトレーニングなど、個人では難しいさまざまなトレーニング等を組み合わせてスキーム化した
- 海外の業界関係者が多く参加している、エディンバラ・フェスティバル・フリンジ（スコットランド）にて育成対象者 9 人がピッチを行った
- ピッチは現地関係者から高評価を受け、同時通訳の実施等や運営面での工夫の甲斐あり、コネクションづくりが活発に行われた
- その後、各国関係者から具体的な提案がされており、着実に次の展開につなげることができた

文化施設高付加価値化支援事業｜アウトカム達成への貢献事例(1/2)

初期アウトカム KPI1へ貢献	世界的デザイナーによる指導と地元メディアにより発信 / 次世代バンブー賞「優秀賞」受賞と海外展開の推進
採択事業	大分発アートプラクティス発信事業 －竹 / キュレーション・プロデュース
採択団体	大分市美術館





(左)photo by Kubo Takashi / (右)photo by Takeo Masaaki　写真提供：大分市美術館

- 育成対象者作家 長谷川絢と青柳慶子が、次世代バンブーアート賞 優秀賞を受賞した他、育成対象者作家は香港(2名)、パリ(1名)の展覧会に展示機会を獲得
- 指導者であるコシノジュンコ氏の薫陶を受けるなど、育成対象者の成長のプロセスは地元メディアを中心に注目を集めており、当プロジェクト関連の報道はNHK大分をはじめ約65件に到達
- 地元テレビ局による報道を通じて、地元・大分が誇る竹工芸への注目を集めており、R8年度の自主企画展とその後に控える海外展示会に向けて、更に期待を高めている

長期アウトカム KPI3へ貢献	海外展開活動に向けた特命組織の立ち上げ / 海外3博物館での展示を実施・34件の高評価を獲得
採択事業	Global Exhibition Team (GET) による 日本文化発信プロジェクト
採択団体	東京国立博物館







- 本基金への採択を機に、特命担当「Global Exhibition Team (GET)」を立ち上げた。GETでは、世界で活躍できる専門家の育成、さらには日本の伝統文化の国際的なプレゼンスの向上ならびに当該地域における日本文化のファン獲得・拡張を目標としている
- 組織化により、館内で「GET」及びプロジェクトの認知度が向上するとともに、海外展開に関する問い合わせ先として「GET」が機能するようになり、海外展開時のコミュニケーションスキームが組織内に確立されつつある
- これまで海外主要博物館(韓国中央博物館、中国上海博物館、インドネシア国立博物館)における展覧会を実現し、現地メディアでの高評価を獲得している

文化施設高付加価値化支援事業｜アウトカム達成への貢献事例(2/2)

長期アウトカムKPI3へ貢献	欧州での国際舞台芸術祭等に複数作品が招聘 / 現地メディア高評価獲得等
採択事業	Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~
採択団体	愛知県芸術劇場



photo by Thalia Theater/Fabian



Lessingtage2026（タリア劇場/ドイツ・ハンブルク）より

- 育成対象者 酒井はな出演の「ジゼルのあらすじ」は、2024年12月横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)における作品発表を通じて、2026年2月にはドイツ、5月にはオランダの国際舞台芸術祭にて上演機会を獲得。現地の批評家から、酒井はなの卓越したテクニック等に対し、複数の高評価を得た
- このほか、劇場ダンスアーティストによる優れたダンス作品を創造し、国内外での公演及びプロモーション活動により、2026年9月、育成対象者 Nullの新作「WITH LiMBO」が欧州文化首都・スロバキアでの公演に招聘を受けた
- 本プロジェクトの専用WEBサイトを、国内外への主要な発信プラットフォームとして位置付け、情報公開にとどまらず、ライター（育成対象者）による作品レビューやイベントレポート等を掲載・集約。本プロジェクトにて制作したダンス作品の紹介を実施。館の基盤強化として、創作と育成対象者のライターによる発信が連携することで、効果的な海外展開に寄与した

長期アウトカムKPI3へ貢献	「秋の隕石2026東京」や海外ダンスイベントに招聘 / テクノロジーを活用した作品創作による発信の有用性を示唆
採択事業	子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト “劇場と学校の時間”
採択団体	山口情報芸術センター[YCAM]



撮影：守屋友樹　提供: 山口情報芸術センター[YCAM]



提供: 韓国国立現代舞踊団

- 育成対象者 捩子ぴじん・斧田小夜、山口情報芸術センター[YCAM]スタッフらが創作した「せいせいのせんせい」は、同館での初演が好評を博し、招聘を受け、「秋の隕石2026東京」での再演が決定。本採択事業を通じ、テクノロジーを取り入れた国内外での巡回公演へのスキルを高めている
- 育成対象者 捩子ぴじん・竹下暁子は、2025年10月に韓国でのテクノロジーに関するダンスイベント「韓国国立現代舞踊団 KNCDC Dance X Technology Open Week」に招聘され、ワークショップ講師やトーク登壇の機会を得た。本採択事業によって、主にアジアの機関等との関係性の強化と、海外展開への回路が広がった
- 国内外のフェスティバル等に積極的に参加し、多くのネットワーキングを実施。著名ディレクター等との情報交換により、テクノロジーを取り入れたパフォーマンスは、海外展開のニーズに即していることを再確認した

クリエイター・アーティスト等育成事業｜第I期の設定目標に対する達成状況一覧(共通項目) (1/2)

本報告書38~93頁に各採択事業の詳細あり

#	採択事業概要	第I期（3年目）の採択事業設定成果目標に対する達成状況																			
	団体名/施設名	成果1				成果2				成果3				成果4				成果5			
		目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況
1	株式会社KAJIMOTO	10	12	120%	達成	8	13	163%	達成	8	9	113%	達成	6	6	100%	達成	4,950	6,746	136%	達成
2	株式会社ドワンゴ	5	5	100%	達成	188	281	149%	達成	100	0	0%	達成	15	12	80%	達成見込	30,000	8,599	29%	達成見込
3	公益財団法人東京二期会	14	6	100%	達成	37	10	54%	達成見込	40	13	70%	達成見込	21	10	62%	達成見込	15,000	9,872	71%	達成見込
4	公益財団法人 読売日本交響楽団	36	38	106%	達成	13	4	131%	達成	2	1	150%	達成	20	4	80%	達成見込	12,700	1,361	76%	未達見込
5	公益財団法人 新国立劇場運営財団	77	77	100%	達成	3	4	133%	達成	3	5	233%	達成	14	14	100%	達成	20,608	23,990	116%	達成
6	公益財団法人日本舞台芸術 振興会（東京バレエ団）	25	28	112%	達成	15	15	100%	達成	6	3	83%	達成見込	9	0	0%	達成見込	13,365	0	0%	達成見込
7	一般財団法人 セガサミー文化芸術財団	12	12	100%	達成	8	22	275%	達成	10	8	110%	達成	33	39	148%	達成	5,300	2,548	57%	達成見込
8	一般社団法人KYOTO EXPERIMENT	39	7	64%	達成見込	28	7	71%	達成見込	12	8	92%	達成見込	38	37	103%	達成	4,700	3,242	72%	達成見込
9	株式会社precog	15	18	120%	達成	34	51	150%	達成	16	60	375%	達成	27	8	48%	達成見込	2,163	598	54%	達成見込
10	株式会社ホリプロ	23	23	100%	達成	71	81	114%	達成	120	146	180%	達成	395	12	3%	未達見込	42,000	17,400	41%	未達見込
11	株式会社サイ	13	12	185%	未達見込	21	13	148%	達成	38	16	68%	達成見込	36	11	86%	達成見込	9,500	5,915	78%	達成見込
12	一般社団法人緊急事態 舞台芸術ネットワーク	30	9	30%	達成見込	257	278	108%	達成	13	13	192%	達成	15	10	93%	達成見込	1,000	485	108%	達成
13	公益財団法人文楽協会	9	9	133%	達成	5	7	140%	達成	5	2	60%	達成見込	23	1	4%	達成見込	4,800	0	0%	達成見込
14	松竹株式会社	8	8	100%	達成	7	22	314%	達成	10	10	100%	達成	43	22	51%	達成見込	40,000	63,790	159%	達成

クリエイター・アーティスト等育成事業｜第I期の設定目標に対する達成状況一覧(共通項目) (2/2)

本報告書94~149頁に各採択事業の詳細あり

#	採択事業概要	第I期（3年目）の採択事業設定成果目標に対する達成状況																			
	団体名/施設名	成果1				成果2				成果3				成果4				成果5			
		目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況
15	特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会	29	30	103%	達成	10	39	390%	達成	19	14	100%	達成	16	9	63%	未達見込	3,500	810	33%	達成見込
16	公益社団法人 全国公立文化施設協会	10	10	100%	達成	20	14	70%	達成	20	8	55%	達成見込	5	5	140%	達成	n/a	n/a	n/a	n/a
17	株式会社キネマシトラス	6	11	183%	達成	7	12	171%	達成	8	17	213%	達成	10	0	0%	達成見込	21,000	0	0%	達成見込
18	一般財団法人 出版文化産業振興財団	10	12	230%	達成	10	19	270%	達成	5	9	180%	達成	5	14	300%	達成	2,500	7,583	305%	達成
19	一般社団法人コンピュータ エンターテインメント協会	10	20	400%	達成	50	6	104%	達成	10	13	130%	達成	4	2	75%	達成見込	1,000,000	663,101	94%	達成見込
20	公益財団法人 画像情報教育振興協会	12	12	133%	達成	20	11	55%	達成見込	20	9	45%	達成見込	9	8	100%	達成	3,000	386	13%	達成見込
21	公益財団法人 画像情報教育振興協会	12	12	150%	達成	20	11	55%	達成	20	10	50%	達成見込	20	16	95%	達成見込	4,000	3,026	78%	達成見込
22	公益財団法人ユニジャパン	15	20	133%	達成	17	6	88%	達成見込	15	10	100%	達成	8	6	88%	達成見込	200	540	295%	達成
23	一般社団法人TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY	12	14	117%	達成	75	84	112%	達成	40	33	133%	達成	7	3	71%	達成見込	235,000	86,006	66%	達成見込
24	独立行政法人国立美術館	6	0	100%	達成	10	4	100%	達成	20	7	60%	達成見込	5	2	40%	達成見込	1,500	93	6%	達成見込
25	認定NPO法人趣都金澤	21	14	86%	達成見込	10	7	110%	達成	25	31	124%	達成	295	94	35%	達成見込	202,100	88,817	94%	達成見込
26	アタック・トーキョー 株式会社	14	14	143%	達成	21	16	124%	達成	17	13	118%	達成	10	5	60%	達成見込	890	101	68%	達成見込
27	一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会	26	16	123%	達成	28	15	93%	達成見込	20	10	115%	達成	41	28	102%	達成	1,584,600	553,373	62%	達成見込
28	株式会社 スクリイム・ラウダア	13	9	154%	達成	40	17	68%	達成見込	8	3	50%	達成見込	54	3	37%	達成見込	8,500	9	2%	達成見込

文化施設高付加価値化支援事業｜第I期の設定目標に対する達成状況一覧(共通項目)

本報告書151~202頁に各採択事業の詳細あり

#	採択事業概要	第I期（3年目）の採択事業設定成果目標に対する達成状況															
	団体名/施設名	成果1				成果2				成果3				成果4			
		目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況	目標値	R7	達成度	状況
1	大分市美術館	55	17	64%	未達見込	364,547	157,852	74%	達成見込	15	9	60%	達成見込	26	14	54%	達成見込
2	国立科学博物館	150	45	63%	未達見込	7,500,000	2,706,545	71%	達成見込	10	0	0%	達成見込	10	13	130%	達成
3	東京国立博物館	104	32	57%	未達見込	7,000,000	2,225,567	68%	達成見込	10	34	340%	達成	100	150	150%	達成
4	森美術館	34	7	53%	未達見込	1,106,000	457,781	73%	達成見込	50	50	100%	達成	30	21	73%	達成見込
5	愛知県芸術劇場	87	45	80%	達成見込	59,500	29,386	87%	達成見込	15	5	40%	達成見込	n/a	n/a	n/a	n/a
6	江原河畔劇場	33	21	97%	達成見込	13,320	4,442	62%	達成見込	20	3	15%	未達見込	n/a	n/a	n/a	n/a
7	SPAC-静岡県舞台芸術センター	252	93	72%	達成見込	102,000	32,265	62%	未達見込	3	1	33%	達成見込	2	4	200%	達成
8	世田谷文化生活情報センター（世田谷パブリックシアター）	99	29	69%	未達見込	185,900	75,226	69%	未達見込	6	3	50%	達成見込	4	0	0%	達成見込
9	東京芸術劇場	141	35	45%	未達見込	466,242	136,504	41%	未達見込	6	1	17%	達成見込	10	7	70%	達成見込
10	東京文化会館	94	32	66%	未達見込	118,230	53,190	106%	達成	5	3	60%	達成見込	250	120	49%	達成見込
11	まつもと市民芸術館	70	25	74%	達成見込	68,700	4,078	32%	未達見込	5	2	40%	達成見込	30	12	50%	達成見込
12	山口情報芸術センター[YCAM]	78	22	59%	未達見込	219,714	81,968	70%	達成見込	15	25	167%	達成	10,000	6,909	69%	達成見込
13	ロームシアター京都	125	47	72%	達成見込	183,147	55,284	69%	達成見込	4	1	25%	達成見込	n/a	n/a	n/a	n/a

本支援事業では、複数年度による活動を通じて、育成対象者が国際共同制作等に参加し、新たな表現手法や創作プロセスを実践的に学ぶ機会を得ている。また、創作を支える人材の専門的知見の蓄積にも繋がっている

成果創出に向けた活動・アプローチと創出された成果・波及効果事例(1/3)

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援　共通

創作

成果創出に向けた活動・アプローチ

国際的な創作環境での作品開発の推進

- 海外の劇場、美術館、フェスティバル等と連携し、国際共同制作や共同委嘱、アーティスト・イン・レジデンス、現地リサーチを実施した。これにより、育成対象者は国際水準の創作環境に触れながら、実践的に作品開発を進める機会を得た
- 海外のディレクターやプロデューサー等をメンターとして招聘するとともに、世界的な専門家、クリエイター、エンジニア、キュレーター等の助言を取り入れながら、作品構想の検討から試演、展示・上演準備に至るまでのプロセスを重ね、海外展開を見据えた創作手法や制作体制の構築を進めた

長期的な育成設計に基づく創作の実践

- 複数年度にわたる事業の特性を生かし、国内公演、ショーケース、ワーク・イン・プログレス、リクリエイション等の機会を通じて、作品を単発で完結させるのではなく、再演や国際展開を視野に入れながら継続的に発展・深化させる創作環境を整備した
- アーティストに加え、制作、批評、技術、広報等の多様な人材が参画する体制を構築し、創作・発表・検証・改善の循環を複数年度にわたって実践することで、持続的な人材育成を推進した

創作を支える専門知見と運営ノウハウの蓄積

- 海外共同制作や国際展開の実践を通じて、作品創作に関する知見に加え、アートマネジメント、テクニカルコーディネート、字幕対応、作品輸送、現地関係者との調整等に関する専門的知見や実務ノウハウを蓄積した
- 研修、講座、報告会、アカデミー、記録集の作成等を通じて、創作過程で得られた知見を体系的に整理し、次世代の担い手や関係者に共有・継承する仕組みの構築を進めた

創出された成果・波及効果

海外展開を見据えた作品創作の高度化と国際展開機会の創出

- 海外の専門家や異分野のクリエイターとの協働を通じて、育成対象者は新たな技術、発想、方法論を取り入れ、従来の枠を超える作品表現や創作手法の高度化につなげた
- 試演、リクリエイション、滞在制作、共同制作を重ねる中で、国際的な文脈でも通用する水準へと磨かれ、海外上演や展示に向けた質的向上が進んだ
- 一部の育成対象者については、受賞、ノミネート、海外機関からの関心獲得などを通じて、創作活動の成果が対外的な評価や新たな活動展開にも結び付いた

創作を担う人材の実践力向上

- 育成対象者は、企画立案から創作、上演、展示、調整、発信に至る一連のプロセスを経験することで、創作面だけでなく実務面を含む総合的な遂行力を高めた
- キュレーター、プロデューサー、舞台スタッフ、広報担当等も、創作現場への参画を通じて専門的な役割理解を深め、創作活動を支える人材層の拡充につながった

次世代への知見継承と創作基盤の強化

- 創作や海外展開、アートマネジメントに関する経験が講座、記録、報告会等を通じて共有され、育成対象者にとどまらない次世代人材への知見継承が進んだ
- 国際共同制作や海外展示、公演準備を通じて形成された関係性や運営ノウハウが、今後の継続的な創作活動や新たなプロジェクト創出を支える基盤となった

海外での発表機会を活用した発信と、海外関係機関との継続的なネットワーキング構築を通じて、育成対象者の活動機会の拡大が図られるとともに、今後の国際展開に向けた関係構築が進展した

成果創出に向けた活動・アプローチと創出された成果・波及効果事例(2/3)

クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援　共通

	成果創出に向けた活動・アプローチ	創出された成果・波及効果
発信	**海外での発表機会を活用した戦略的な発信** • 海外展覧会、公演、芸術祭、イベント、プレゼンテーション等の機会を活用し、作品や育成対象者、地域文化の魅力を国内外に直接発信する機会を創出した • 単なる発表にとどまらず、海外市場や現地観客を意識した見せ方や機会設計を行い、認知拡大に繋がる露出の質を高めた **多言語・デジタルによる継続発信基盤の整備** • 英語字幕付き映像、多言語サイト、SNS、活動レポート等を整備し、時間や地域を越えて情報を届ける発信体制を強化した。 • 作品紹介、活動記録、レビュー、関連コンテンツを蓄積することで、一過性で終わらない継続的な発信基盤を構築した	**海外市場における認知度向上と展開機会の拡大** • プロジェクトを通じて、作品、育成対象者、地域文化への関心が国内外で高まり、英語版出版の決定や新たなファン層の獲得など、海外展開機会の創出につながった • 展開前の段階から関係者の注目を集めることで、その後の海外公演や、海外美術館への出展等へつながる足掛かりが形成された **育成対象者の国際的視野の拡大と創作活動への波及** • 海外の専門家等との交流を通じ、多様な価値観への理解が深まり、育成対象者の国際的視野の拡大や創作姿勢の変化につながった • 地域文化資源への関心喚起や後続人材への刺激も生まれ、発信活動が次の挑戦を促す波及効果をもたらした
ネットワーキング	**海外関係者との接点形成と継続的な対話の実施** • 海外フェスティバル、見本市、国際会議、劇場、美術館等との意見交換を通じて、多くの関係者との接点を形成した • 海外プレゼンター、キュレーター、プロデューサー、研究者等との継続的な対話を重ね、単発で終わらない関係づくりを進めた **海外プラットフォームとの連携による継続的な活動基盤の構築** • 海外のインキュベーションプラットフォームや国内外の大学等との連携を進め、継続的な活動拠点や発表機会を確保するとともに、中長期的な国内外ネットワークの構築を図った **分野横断的な関係者の接続と国際展開支援** • アーティスト、研究者、キュレーター、海外フェスティバル関係者等の多様な関係者をつなぎ、分野や国境を越えた協働や情報交換を促進することで、国際展開に向けた関係構築を支援した	**共同制作・海外展開を見据えた協働基盤づくり** • 単なる交流にとどまらず、共同制作、海外公演、招聘、巡回展開等を見据えて、実務的な連携先との調整や交渉を進めた • 現地に足を運び直接対話を重ねることで、文化的背景も踏まえた信頼関係の構築を進めた **複数年にわたる国際交流を通じた創作活動・海外展開機会の拡大** • 海外でのワークショップ講師やトーク登壇、共同制作公演の実施など、複数年にわたる交流と関係構築の積み重ねにより、海外公演・展覧会だけではなく具体的かつ交流促進的な活動機会が創出された • 海外市場や海外関係者のニーズへの理解が深まり、今後の海外展開につながる知見や基盤の獲得につながった **育成対象者への海外ネットワークの共有と自立的な関係構築の促進** • 育成対象者や採択団体が継続的に海外とつながり、自ら展開機会を広げていけるような、協働の土台となるネットワークが形成されつつある

クリエイター等育成支援事業では、国際共同制作や現地の専門事業者との連携を通じて、育成対象者の海外展開を推進する成果がみられている。文化施設支援事業では、海外展開を支える組織体制の整備や地域との連携強化を通じて、文化施設の機能向上や発信力強化につながる成果が生まれている

成果創出に向けた活動・アプローチと創出された成果・波及効果事例(3/3)

		成果創出に向けた活動・アプローチ	創出された成果・波及効果
クリエイター等育成支援	発展	**海外団体・プロデューサーとの共同制作による海外展開の推進** • 海外の制作会社やプロデューサーとの対話・関係構築を進め、共同制作契約の締結や作品開発を通じて、国際的な展開を見据えた制作体制を構築した **現地専門事業者等との連携による戦略的な海外公演の実施** • 海外自主公演に際し、現地の広報・宣伝会社等と連携しながら、現地観客や関係者を意識したメディア向けイベント等、広報活動を展開した	**国際的な評価・受賞の獲得による作品価値の向上** • 国際映画祭での受賞や選出、海外公演に対する高評価を獲得し、評価獲得を通して、作品やクリエイターの認知度が向上した • 海外美術館への出展、映画祭での上映、海外公演等の新たな展開機会の獲得につながった **育成対象者の自信向上と、持続的な海外展開基盤の強化** • 海外公演や国際映画祭での成功体験を通じて育成対象者の自信や挑戦意欲が醸成された。 • 継続的な海外展開の実績蓄積により、国内クリエイターを国際市場へ接続する組織としての役割が強化され、中長期的な海外展開基盤の構築につながった
文化施設高付加価値化支援	館の機能強化	**海外展開推進に向けた専門組織の立ち上げと体制整備** • 基金事業を契機として、一部の館では海外展開を担う専門チームや窓口機能が立ち上がった。そのほか、館内の学芸、制作、技術、広報等の関係者が一丸となって、国際展開を推進する組織体制の整備を進めた **地域との接点を活かした創作・発信拠点機能の強化** • 育成対象者による滞在制作や地域イベントへの参画を通じて、地域住民等との交流を促進した • 創作活動と地域とのコミュニケーションを一体的に進めることで、劇場・美術館の新たな拠点機能や地域ブランディングの強化を図った	**海外展開を支える組織的な推進体制とノウハウの蓄積** • 専門組織の設置により、海外展開に関する問い合わせや調整を担う窓口機能が明確化された • 海外展開に必要なコミュニケーションスキームや実務ノウハウが組織内に蓄積され、継続的な国際展開を支える基盤が強化された **地域との接点の強化を通じた館のプレゼンス向上** • 館の理念や活動に共感した育成対象者が、地域に根差した創作活動を展開することで、地域住民との交流や、住民の地域文化への関心が促進された • プロジェクトに係る活動の蓄積により、館の国際展開の拠点としての認知が高まり、館のプレゼンス向上と、持続的な活動基盤としての役割を強化した

採択事業個別報告書まとめ
クリエイター・アーティスト等育成事業
文化施設高付加価値化支援事業

採択事業名

採択団体名

国際音楽祭での新作初演と新作オペラ『The Great Wave』の国際共同制作を通じた若手育成

株式会社 KAJIMOTO

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型

舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

若手作曲家の育成対象者を海外の著名な国際音楽祭に派遣し、日本国内での成果発表公演を実施する。また、新作オペラ作品の国際共同制作と世界初演を通じ、若手音楽家（育成対象者）および制作スタッフの育成を行う

活動計画

第I期 （～3年目）

- ルツェルン音楽祭への育成対象者の現地派遣
- 成果発表の立案と公演実施
- スコットランドの著名な劇場での新作オペラ「The Great Wave」上演

第II期（～5年目）

- 新作オペラ『The Great Wave』の日本初演公演およびその他海外公演に向けた準備、制作活動
- プロジェクト参加者の成果発表となる機会の創出

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 8名



スチュワート・ストラットフォード｜指揮者
トリニティカレッジ、サンクトペテルブルグ国立音楽院にて指揮法を学んだあと、キャリアを積む

2015年よりスコティッシュ・オペラの音楽監督



桑原 ゆう｜作曲家
東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了

第31回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞 —ルツェルン音楽祭から委嘱を受ける

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



斎藤 友香理｜指揮者
2015年ブザンソン国際指揮者コンクール・ファイナリスト



石川 健人｜指揮者・作曲家
ケルン音楽舞踊大学大学院在学中。第34回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞



久松 夕香｜照明家
日本照明家協会奨励賞（2022）新人賞（2016）文化庁新進芸術家海外研修員（2021）



角田 恵子｜舞台製作
ローズブルフォード演劇学校（イギリス）にて演劇および演出を学ぶ。その後もイギリスを中心にオペラおよび演劇作品も演出助手等として携わっている



田中 弘基｜作曲
R5年度新進芸術家海外派遣研修員。シュトゥットガルト音楽演劇大学ツェルトエグザメン課程に在籍中



杉山 賢｜演劇（ダンス）
日本舞踊坂東流名取 坂東賢志朗。2019年よりSPAC静岡県舞台芸術センターに参加し研鑽を積む

採択事業名

国際音楽祭での新作初演と新作オペラ『The Great Wave』の国際共同制作を通じた若手育成

採択団体名

株式会社 KAJIMOTO

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

主な活動実績

- **国際音楽祭への派遣準備と現地調査（1年目~）**
  - スイス・ルツェルン音楽祭アカデミーを下見し、作曲アカデミーの見学、記録撮影・収録、関係者との打ち合わせを通じて現地受入れ体制と本プロジェクトの認知拡大を進めた
- **成果発表公演の企画と実施（1~2年目）**
  - ルツェルン音楽祭アカデミーの成果を東京・ハクジュホールで『ルツェルン音楽祭アカデミー in Japan』として実施し、育成対象者が準備段階から企画の細部まで主体的に関わった
- **新作オペラの国際共同制作準備（1年目~）**
  - 新作オペラ『The Great Wave』について、会場となるスコットランド・グラスゴーの『シアター・ロイヤル』およびエジンバラの『フェスティバル・シアター』の下見や、共同制作者「スコティッシュ・オペラ」との打ち合わせを進め、若手スタッフの育成対象者が制作初期段階から参加した
- **新作オペラの海外上演（2年目）**
  - 新作オペラ『The Great Wave』をスコットランドで上演し、現地オペラ関係者や支援者に向けた関連企画も実施しながら、育成対象者を含めた日本の若手音楽家やクリエイターを紹介する機会を創出した
- **海外ネットワークの拡張と成果の接続（2年目）**
  - ルツェルン音楽祭での作曲セミナー参加や各国音楽家との交流を通じて知見を深めるとともに、その成果を日本公演「ルツェルン音楽祭アカデミー in Japan」や今後の国際的な展開へ接続した







今後の活動予定

- **スコットランド公演の成果分析と次期展開準備（3年目~）**
  - スコットランド公演の結果分析および効果測定を実施し、新作オペラの日本初演に向けた出演者の選定および舞台制作プランの立案、海外の他地域での公演の検討および立案を開始する
  - パリをはじめとする海外公演を検討し、海外公演および日本公演の実施を踏まえて出演者を検討するとともに、若手音楽家および若手スタッフを起用する
- **新作オペラ日本公演に向けた制作・広報展開（4年目）**
  - 日本公演へ向けた舞台制作を開始し、情報公開、ウェブサイト立ちあげ、記者会見、各種メディアへの広告宣伝、歌手・オーケストラ・合唱のリハーサルを実施する

採択事業名	国際音楽祭での新作初演と新作オペラ『The Great Wave』の国際共同制作を通じた若手育成
採択団体名	株式会社 KAJIMOTO

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 新作オペラ『The Great Wave』をスコットランドで上演し高評価を獲得したことにより初期アウトカムを 1 件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 海外派遣・公演実施等により国際的な経験やノウハウを習得した育成対象者の世界的に著名な芸術祭・コンクール等への出演を通じて長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	10	10	12	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	8	8	13	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	8	8	9	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	6	0	6	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	4,950	0	6,746	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	国際音楽祭での新作初演と新作オペラ『The Great Wave』の国際共同制作を通じた若手育成
採択団体名	株式会社 KAJIMOTO

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 個人活動の多い育成対象者が、対面での会話を通して新しいアイディアや視点・考え方を習得し、互いに好影響を与えた • 指導者も育成対象者とコミュニケーションをとり、課題に向き合うことにより、新たな着想を得て多角的な思考を生み出すことができた
2年目終了時点	• 育成対象者は国際的な制作現場や交流を経験したことで、自身の今後の活動方針やキャリアの方向性をより具体的に描くようになった • 団体内でも、文化芸術の国際展開やコンテンツ輸出を意識した情報収集やネットワーク構築への主体性が高まった

達成した点・成果が認められた点

- 作曲家は第一線の音楽家や現地有識者との実践的交流を重ね、ネットワーク形成の基盤を築いた
- 指揮者は新作オペラ制作現場で、正指揮者と同等の責任を担いながらリハーサルを主導する場面も多く、音楽的判断力と統率力を発揮し、国際的なオペラ制作の現場で通用する実践力を示した
- 新作オペラに携わった映像や照明等のクリエイターや舞台スタッフは、複数の指導者のもとで実務能力、現場対応力、国際的コミュニケーション能力を多面的に高めた





今後の取組において期待される点

- 情報共有のタイミングや役割分担をさらに整理し、育成対象者、指導者への事務局の連携をより円滑にする運営体制を構築する
- 育成対象者や指導者が求める支援内容と、団体が本事業で設定する目標や企画内容との合意形成を一層明確にする
- 育成対象者の継続的なヒアリングを通じて、個別の状況や課題、志向を把握し、それぞれに応じた機会創出を進める
- 国内外のメディアや有識者への情報発信を強化し、育成対象者の認知向上と国際的ネットワークの拡充につなげる

採択事業名
採択団体名

ニコニコ動画主催企画を介した若手クリエイター発掘および海外進出プロジェクト
株式会社 ドワンゴ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

ボーカロイド楽曲を扱う若手クリエイターを対象に、ボーカロイドやポップカルチャーのプロデューサー陣と連携し、海外進出を通じた育成支援を行う。海外有数のアニメコンベンションへのライブ出演や音楽配信プラットフォームにおけるマーケティング等の包括的支援および、アニメ等の映像作品とのタイアップを推進する

活動計画

第I期 （～3年目）

- プロモーション計画を実行し、北米最大アニメの祭典『Anime Expo』等でライブ出演を実現
- アニメ、マンガなど他コンテンツホルダーとネットワーキングし、海外展開戦略を拡大

第II期（～5年目）

- 育成対象の若手クリエイターやユニットメンバーによる海外ライブツアーを開催し、全世界でパフォーマンスを実施
- 『ボカコレ』でワークショップを実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 8名



横澤 大輔 | プロデューサー
株式会社ドワンゴ取締役。ニコニコ動画の戦略や企画を担当し、『ニコニコ超会議』統括プロデューサーや『超歌舞伎』の総合プロデューサーとして活動。小林幸子の楽曲プロデュースも手がける



田村 優 | クリエイター
株式会社インクストゥエンター代表取締役。初音ミクを用いた世界初のメジャーCDを手がけ、livetuneやsupercellを率いる。HoneyWorks原作のアニメ映画もプロデュース

主な育成対象者

育成対象者数: 15名



さたぱんP | 作詞家・作曲家・実演家
デビューからわずか2年でYouTube登録者数100万人を突破し全世界から注目を集めるボカロP。代表曲『ヤババイナ』が1,600万再生突破



picco | 作詞家・作曲家・実演家
東京拠点の音楽プロデューサー兼ボカロP。『Hyper Kawaii Music』をコンセプトに活動し、『Melty Magic』がYouTubeで400万再生突破

月が綺麗じゃなくたって。 | 作詞家・作曲家・実演家
40mPをヘッドプロデューサーに、「ボカコレ」&「歌コレ」の企画から生まれた、ボカロと歌い手による5人組ユニット。2026年8月ソニー・ミュージックレーベルズ/BEAT SEEKER MUSICよりメジャーデビュー

No Image

谷 有人 | 株式会社ドワンゴ 社員
ボカロPをはじめとしたクリエイターとのコミュニケーションを担当。ラジオやメディアを活用したクリエイターのサポートを管掌

No Image

菊池 洸志 | 株式会社ドワンゴ社員
VOCALOID楽曲投稿祭『ボカコレ』におけるレギュレーション策定や企画創出を担当

No Image

岩崎 凪 | 株式会社ドワンゴ社員
ボカコレにおける外部企業との連携施策の渉外、生放送、および「ボカコレ2026夏」で実施するワークショップを担当する

採択事業名	ニコニコ動画主催企画を介した若手クリエイター発掘および海外進出プロジェクト
採択団体名	株式会社ドワンゴ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外イベントとの関係構築と出演交渉（1年目~）**
  - 北米最大のアニメイベントAnime Expoでの出演機会の調整を関係各所と進めるとともに、AFA（Anime Festival Asia）シンガポールで視察と交渉を行い、海外イベント運営団体との関係構築を進めた
- **国内イベントを通じた発掘と育成（1~2年目）**
  - 国内にて、『The VOCALOID Collection』と『歌ってみたCollection』をオンライン実施し、新規育成対象者の発掘と登用を進めるとともに、既に育成対象者として活動しているpiccoや吉沢ぽわ、あられらの認知拡大につなげた
- **育成対象者へのガイダンスと支援体制整備（1年目~）**
  - picco、jon-YAKITORY、月が綺麗じゃなくたって。などの育成対象者に対してガイダンスを行い、全体スケジュールや海外進出に向けた支援方針を共有した
- **海外出演と楽曲展開の実施（1~2年目）**
  - AFAインドネシアにpiccoが、AFAシンガポールでは栗山夕璃とさたぱんPが出演し、DJライブパフォーマンスを行ったほか、jon-YAKITORYも視察を通じ、それぞれが今後の海外展開に向けた実践的知見を獲得した
  - 育成対象5組で計12曲のシングルと1枚のアルバムをリリースし、音楽配信プラットフォームThe Orchard等を通じた世界配信網の構築や海外PR会社と連携したマーケティングを進めた







今後の活動予定

- **国際的アニメイベントでのライブ展開と海外進出本格化（3年目）**
  - Anime ExpoやAFA等でのライブ出演を進め、アメリカ・ロサンゼルスで海外のアーティスト、プロデューサー、ソングライターとの日米楽曲共同制作を目的とした合宿やアルバムリリースを通じて海外展開を本格化する
- **アジア・北米での公演とネットワーク拡大（3~4年目）**
  - タイ・バンコク、インドネシア・ジャカルタ、アメリカ・ニューヨーク、シンガポール等で出演やネットワーキングを進め、日本の新たなカルチャーを発信する企業や団体との連携を広げる
- **海外ツアーと継続的育成体制の構築（5年目）**
  - 第1期で実績を積んだ育成対象者による海外ライブツアーを展開するとともに、『ボカコレ』等のイベントでのワークショップを通じて次世代クリエイターの発掘と育成を継続する

採択事業名 ニコニコ動画主催企画を介した若手クリエイター発掘および海外進出プロジェクト

採択団体名 株式会社ドワンゴ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 国際的なアニメイベントAnime Festival Asiaへの参加により初期アウトカムを1件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 国際的なアニメイベントのライブステージへの出演を通じ、長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	5	3	5	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	188	83	281	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	100	0	0	達成見込（３年目）	R8年度に実施するコライト楽曲制作にて、海外アーティスト・キュレーターとの連携により達成が見込まれる
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	15	0	12	達成見込（３年目）	R8年度はすでに出演枠が確定しているステージ（超会議・AX・AFA）が9件ある
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	30,000	0	8,599	達成見込（３年目）	超会議2026、Anime expo（LA）、AFA（バンコク・SG）への出演により、総来場者のうち5%、22,000人の入場が見込まれる
⑥ワークショップの参加人数	91,500	0	0	達成見込（３年目）	R8年開催予定のボカコレ2026夏・2027冬でのワークショップが決定、平均視聴者数200,000となるので算出方法より達成が見込まれる

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• アジアのアニメフェスティバル『AFA』を各地視察し日本の音楽シーンやコンテンツの現地での広まり方に課題があることを痛感した • 上記を踏まえ、「団体と一体となり事業を進められるか」という視点を最重要視しながら海外現地での連携先を選定することとした
2年目終了時点	• 育成対象者は海外でのライブステージの実践や支援体制の構築を通じて、海外進出を具体的な成長機会として捉え、グローバル展開への意欲を明確にした • 団体側でも、プロジェクトチームの再構築や実務経験の蓄積を通じて、世界に発信していくことを前提とした支援体制づくりへの意識が高まった

達成した点・成果が認められた点

- 海外コンベンション運営側との交渉やAFAでの視察を通じて、実践経験を積み、Anime Expoや日米楽曲共同制作に向けたプロジェクト進展という新たな挑戦につながる基盤を築いた
- 育成対象者1組がSMEからのメジャーデビュー決定等、国内メジャーシーンとの接続を実現した
- クリエイターの育成対象者は、実際の海外でのDJパフォーマンスや観客の反応を踏まえた改善を通じて、海外のファンに向けた積極的なパフォーマンスと、プロモーションを自分事として捉える姿勢を強めた





今後の取組において期待される点

- 団体としても初めて取り組む『Anime Expo』での観客の反応や成果指標を丁寧に検証し、グローバル展開するための作品づくりや今後の発信戦略へ接続する
- 海外イベントに向けて、各育成対象クリエイターの所属事務所と密に連携しながら渡航準備やビザ管理を前倒しで進め、海外展開の実務を安定的に運用する
- 各国・地域ごとの市場特性を踏まえ、現地法人や海外拠点と連携しながら、エリア別に最適化したマーケティング戦略を構築する
- スタッフとして登録している育成対象者についても、海外事業に実務として携わることで成長機会を広げる

採択事業名

アーティストの好循環を創り出す
～大規模国際共同制作を通した輸出型プロモーションの試み～

採択団体名

公益財団法人 東京二期会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型
舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

国内外を問わず最低年1本のオペラ作品を設定する。育成対象の声楽家と世界的歌手との共演機会の創出、それに伴うワークショップの実施、指導者からの個人稽古等を行う。あわせて次代のオペラ分野を担う演出家を含めたスタッフを育成する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 海外指導者より演出のワークショップや音楽の個人稽古等、演唱両面で指導を実施
- 三島由紀夫原作『午後の曳航』をドイツ・ハンブルクで上演

第II期（～5年目）

- 指導者の全面的なコミットメントのもと、オペラ作品を舞台上演
- モーツァルト作曲『フィガロの結婚』にてNHK交響楽団と共演

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



宮本亞門｜演出家
オペラ、ミュージカル、歌舞伎等ジャンルを問わず演出を手がける日本を代表するクリエイターのひとり。複数年にわたるプロジェクトで、この事業をバックアップする



喜多村 貫｜照明デザイナー
H4より東京バレエ団海外公演の照明チーフ、欧米歌劇場来日公演でも日本側照明チーフを多数務める。マラーホフ（バレエダンサー）やコンヴィチュニー（オペラ演出家）ら一流アーティストから指名を受け、欧州歌劇場でも照明デザインを担当

主な育成対象者

育成対象者数: 14名



彌六｜演出家
米留学中より舞台スタッフとして従事し、帰国後は新国立劇場等で演出助手



森川 太郎｜演出家
ウィーン国立音楽大学で演出を学び、現在アン・デア・ウィーン劇場等で一流演出家の助手を務める



七澤 結｜声楽家（ソプラノ）
パリ留学後、演出家からの抜擢等で国内でも多くのオペラに出演



宮下 嘉彦｜声楽家（バリトン）
二期会オペラ研修所修了直後に、東京二期会オペラ劇場『椿姫』ジェルモンの代役に抜擢。来日した指揮者からも高い評価を受ける



avecoo｜振付家
日本最大級のダンスコンテストLegendtokyo優勝。2023年『午後の曳航』振付でオペラデビュー



川瀬 賢太郎｜指揮者
名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽監督、札幌交響楽団正指揮者

採択事業名 **アーティストの好循環を創り出す**
～大規模国際共同制作を通した輸出型プロモーションの試み～

採択団体名 **公益財団法人 東京二期会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **オペラ公演と実践的育成の実施（1年目）**
  - ➢ やまぎん県民ホールでオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』を上演し、育成対象者をキャスティングしたうえで世界的アーティストとの共演機会を創出した
- **海外指導者によるマスタークラスの実施（1年目）**
  - ➢ ペーター・コンヴィチュニー（演出家）による『コジ・ファン・トゥッテ』のマスタークラスと、ロラン・ナウリ（オペラ歌手）によるフランスオペラのマスタークラスを実施し、演技面と声楽面の両方で指導を行った
- **国際共同制作による大規模公演の実施（2年目）**
  - ➢ ウィーン・フォルクスオーパーとの共同制作による『イオランタ／くるみ割り人形』公演を実施し、川瀬賢太郎が東京公演の立ち稽古から参加して研鑽を積み愛知公演で指揮を担った
- **海外劇場での欧州デビュー支援（2年目）**
  - ➢ スペイン・マエストランサ劇場『ドン・ジョヴァンニ』で宮下嘉彦がマゼット役として、河野大樹もイタリアの名門ペーザロ・ロッシーニ音楽祭でのオペラ出演を果たし、それぞれ欧州デビューを飾った
- **国内外ネットワークを活用した次年度展開の準備（2年目）**
  - ➢ 『イオランタ／くるみ割り人形』や『ドン・ジョヴァンニ』を通じた成果をもとに、次年度のハンブルク公演や各育成対象者の継続的な出演機会確保につなげた







今後の活動予定

- **日本発プロダクションの欧州展開（3年目）**
  - ➢ 東京が初演地となったカロリーネ・グルーバー演出の新制作『ルル』を再演する。また、ドイツ・ハンブルクのエルプフィルハーモニーで『午後の曳航』公演をコンサート形式で行い育成対象者の出演と中部ドイツ放送による収録の調整を進める
- **国内公演と欧州劇場連携の強化（4年目）**
  - ➢ カルッツかわさきで『フィガロの結婚』を上演し、育成対象者が最大限関われる形で実施するとともに、『午後の曳航』海外公演に向けたプレゼンテーションを進める
- **東京公演と海外展開の実施（5年目）**
  - ➢ 指導者の積極的な関与のもと、東京でオペラ作品を舞台上演し、欧州他劇場への展開につなげる

採択事業名 **アーティストの好循環を創り出す**
～大規模国際共同制作を通した輸出型プロモーションの試み～

採択団体名 **公益財団法人 東京二期会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 世界的に著名な劇場での公演が2件予定されており、3年目に初期アウトカム達成の見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ マスタークラスを受講した七澤結がリヨン国際室内楽コンクールで第3位および委嘱作品最優秀演奏賞を受賞、宮下嘉彦がイタリア・アニタ・チェルケッティ国際コンクール第３位受賞、森川太郎がザルツブルク音楽祭に招聘など長期アウトカムを3件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	14	8	6	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	37	10	10	達成見込（３年目）	R8年度の公演はいずれも多くの連携が必要となり、20件の更なる連携が見込まれている
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	40	15	13	達成見込（３年目）	R8年度に海外公演が予定されているため、必然的に関わるアーティストも増え（43人）、達成が見込まれる
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	21	3	10	達成見込（３年目）	R8年度予定の『午後の曳航』は音楽的難易度が非常に高いため、マスタークラス等公開指導の事業数が多くなり達成が見込まれる
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	15,000	804	9,872	達成見込（３年目）	R8年度に海外公演と国内オペラ公演を予定しているため、達成が見込まれる
⑥海外も含むSNSフォロワー数	20,000	15,844	16,088	達成見込（３年目）	マーケティングコンサルタントによる指導が軌道に乗り、20,000フォロワーの到達が見込まれる
⑦海外でのプロダクション参加数	3	0	2	達成見込（３年目）	計画は順調に推移しR8年度は5件の参加を見込んでいるため達成の見込み

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	アーティストの好循環を創り出す ～大規模国際共同制作を通した輸出型プロモーションの試み～
採択団体名	公益財団法人 東京二期会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 各オペラ作品への出演を通じ、役への理解と技術が向上した • マスタークラスの受講によって育成対象者一人ひとりが目指すべき次のステップへの自覚が醸成された • 育成対象者のキャリアに対する意識の高まりにより、積極的なコンクールやオーディションへの参加が見られた
2年目終了時点	• 『イオランタ／くるみ割り人形』公演を通じて、育成対象者川瀬賢太郎 が世界第一線のプランナーらから評価され、オペラ指揮者としての可能性を具体的な進路として捉えるようになった • 育成対象者宮下嘉彦 は 指導者森内剛 のコーチングを受けて、技術面に加えて欧州のリハーサル文化や出演者としての構えを学んだことで、その後の海外活動機会を自ら求める行動につながった

達成した点・成果が認められた点

- マスタークラスや海外劇場での公演機会を通じて、育成対象者が国際水準の実践経験を積んだ
- 育成対象者は事業内外を通じて、ザルツブルク音楽祭への招聘、国際コンクール入賞など、海外拠点形成や国際的な実績獲得を進めた
- スペインのマエストランサ劇場に育成対象者を派遣し、海外公演参加の実績を積み上げた
- 海外指導者や著名劇場との連携を継続し、大規模国際共同制作を進める基盤を整えた





今後の取組において期待される点

- 育成対象者に対して海外で活躍する指導者のコーチングを継続し、欧州公演出演に挑む際の技術面とメンタリティ面の成長をさらに促す
- スタッフの育成対象者については、海外公演や国際共同制作の実績を可視化し、団体や歌手の実績をアピールできる機会や発信方法を具体化する
- ハンブルク公演への事前告知や現地評価を通じて、国際的な認知度を高めていく

採択事業名 **欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 読売日本交響楽団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型

舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

2024年秋に独英8都市で演奏ツアーを開催する。団体の次世代の担い手である若手の楽員・職員が本場ヨーロッパでの演奏機会と聴衆、音楽文化に触れ、演奏活動に成果を反映させることで、事業継続に必要な力を醸成する。帰国後、ツアーを経験した育成対象者がアンサンブル公演に出演し研鑽を積む。演奏会の記録も行い、海外向けに発信する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 欧州ツアー開催を通し、楽団の海外の知名度向上を企図
- 欧州ツアー動画の発信実施
- アンサンブル公演に欧州ツアーを経験した若手が出演

第II期（～5年目）

- ステージ運営の改善に取組み、アンサンブル演奏を通じ海外への発信活動
- 客演陣のグレードアップ等、団体のプレゼンスのさらなる向上

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 11名



セバスティアン・ヴァイグレ｜指揮者

2019年から読響の第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者から指揮者に転身。リセウ大劇場、フランクフルト歌劇場の音楽総監督等を務め、世界各地の有名オケと共演を重ねている



日下 紗矢子｜ヴァイオリニスト

読響特別客演コンサートマスター。2000年パガニーニ国際コンクール2位。世界での豊かな経験をもとに、若手楽員との共演で的確なアドバイスを行いながら演奏を率いる

主な育成対象者

育成対象者数: 37名



瀧村 依里｜演奏家

東京藝術大学、ウィーン国立大学卒。2015年入団、首席第2ヴァイオリン奏者



岸本 萌乃加｜演奏家

東京藝術大学大学院修士課程修了。2021年入団、次席第1ヴァイオリン奏者



對馬 哲男｜演奏家

東京藝術大学大学院修士課程修了。2015年入団、次席第1ヴァイオリン奏者



富岡 廉太郎｜演奏家

バーゼル音楽院（スイス）修士課程修了。東京シティフィルを経て、2017年入団。首席チェロ奏者



荒木 奏美｜演奏家

東京藝術大学大学院修士課程修了。東京交響楽団を経て2023年入団。首席オーボエ奏者



葛西 修平｜演奏家

東京音楽大学卒。2017年入団、トロンボーン奏者

採択事業名 **欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 読売日本交響楽団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **欧州公演ツアーの実施（1年目）**
  - イギリス、ドイツ8都市を周遊する欧州公演ツアーを約10年ぶりに実施し、常任指揮者セバスティアン・ヴァイグレのもとで、日本人作曲家武満徹や伊福部昭を含む作品をオーケストラとして披露した
  - 助演者には若手フリーランス奏者を登用して、団内外の若手演奏家に海外演奏経験の機会を提供した
  - 準備段階から若手の制作・舞台スタッフを関与させ、海外経験のあるベテランの指導者のもとでツアーの運営やヨーロッパでの現地対応について実務経験を蓄積した
- **アンサンブル・シリーズの実施（1~2年目）**
  - 読響アンサンブル・シリーズ全4回を実施し、欧州公演ツアーに参加した育成対象者を含む楽員が、指揮者を置かない小編成作品を通じて主体的なアンサンブルづくりに取り組んだ
  - 欧州公演ツアーに参加した育成対象者のスタッフが、アンサンブル・シリーズの海外ゲスト奏者担当として事業運営を支えた
- **海外向け発信と英語コンテンツの拡充（1~2年目）**
  - 欧州公演ツアーとアンサンブル・シリーズの映像・音声記録を進め、英語版動画や英語字幕付きコンテンツを制作を通じて海外向け発信を強化した
  - 欧州公演ツアーを題材にドキュメンタリー映像やインタビュー記録の制作（英語版）を実施。育成過程そのものの発信と共に、さらなる海外展開に向けた認知拡大を狙う







今後の活動予定

- **若手主体のアンサンブル公演継続（3~5年目）**
  - 若い世代の団員を主体とし、海外経験豊かな演奏家をリーダーとする読響アンサンブル・シリーズの演奏会を年4回程度継続的に開催する
  - その模様を収録し、英語字幕を付けた映像をYouTube上に公開して海外へ知名度向上を図る
- **制作スタッフの育成と海外連携交渉の推進（3~5年目）**
  - 客演陣のグレードアップや将来の海外事業に向けて、制作スタッフの若い世代が指導を受けながら海外連携先との交渉や事業実務に参画する
- **将来の海外ツアー実施に向けた運営基盤強化（5年目）**
  - 育成した若手世代が中心となって次期海外公演ツアーの実施可否を含む検討を担い、団体内の資産形成と財務基盤強化を円滑に進める

採択事業名 欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手育成プロジェクト

採択団体名 公益財団法人 読売日本交響楽団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 欧州公演ツアーにおいて、特にフィリンゲン＝シュヴェニンゲン、ハンブルク、ロンドンなどの公演で高評価を受けており、初期アウトカムを1件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトを通じて得た海外公演の経験を活かし、育成対象者らの演奏を通じて楽団が国内外で受賞・高い評価を得ることで全体として長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	36	36	38	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	13	13	4	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	2	2	1	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	20	12	4	達成見込（３年目）	予定公演を実施できており、R8年度にはさらに4件の公演を予定している
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	12,700	8,268	1,361	未達見込	R6年度欧州公演ツアー集客不振が影響し目標未達見込だが、アンサンブルシリーズはR8年度は完売で1,500人の入場を予定している

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	欧州公演ツアーを通じたオーケストラの次世代担い手育成プロジェクト
採択団体名	公益財団法人 読売日本交響楽団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 12日間の欧州公演ツアーで食事や長距離移動を共にした楽員・職員間に信頼関係が深まったとともに、アンサンブル演奏会では高い集中力を発揮し、演奏者間にさらに強い結びつきが生まれた • 認知度不足や集客課題を認識し、英語版動画制作と発信で30万件超の視聴を達成したが、次に活かすという視点での問題意識を持つようになった
2年目終了時点	• 演奏家の育成対象者は、アンサンブル公演や演奏会制作の現場で指導者やゲストの音楽家と近い距離で関わる中で、音楽的な解釈や運営への理解を深め、演奏面・マネジメント面の双方で実践的な学びを得た • 団体と育成対象スタッフは、欧州ツアー後の国内活動を通じて、演奏・制作・舞台運営を横断して担う必要性を認識し、業務の兼務や編成会議参加などを通じて将来の楽団運営を支える視野を広げた

達成した点・成果が認められた点

- 演奏家は個性が直接表れる小編成作品への取り組みを通じて、演奏水準を高めた
- 制作・舞台スタッフはステージ業務と公演制作を横断して経験し、演奏家とのコミュニケーションや演奏会運営のノウハウを実地で習得しながら、将来のツアー実施を支える人材としての幅を広げた
- 英語での窓口対応や海外向け動画発信を通じて、海外からの来場者増加や認知拡大の手応えを得るとともに、育成過程の可視化という新たな成果の見せ方を形にした





今後の取組において期待される点

- オーケストラ運営に必要なプログラム編成、客演者選定、開催地選定、交渉、予算管理の知見を、国内の公演制作実務にて次世代へ継承する
- 中間世代の育成を進め、限られた事務局体制の中でも継続的にノウハウを継承できる運営体制を構築する
- ドキュメンタリー映像やインタビュー等を活用し、育成過程そのものの可視化を成果として整理し、対外発信につなげる

採択事業名 **海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 新国立劇場運営財団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | **舞踊** | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

新国立劇場バレエ団のダンサーを育成対象者とし、指導者陣による育成プログラムを実施する。バレエの殿堂である英国ロイヤル・オペラ・ハウスでのロンドン公演および前後の国内公演を通して国際的競争力を持つダンサーを育成する。同時に、海外での広報活動や公演の記録映像を用いたプロモーションを展開する

活動計画

第I期 （～3年目）

- バレエ『ジゼル』東京公演・ロンドン公演・国内凱旋公演を通して技術を精緻化
- ロンドン公演の教訓を踏まえたトレーニング内容の再設計
- 国際舞台での基盤を強化

第II期（～5年目）

- 海外のバレエフェスティバルへの出演も含め更なる海外公演の実施を検討
- 3年目までのトレーニングプログラムをブラッシュアップし、継続実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 13名



吉田 都 | 新国立劇場舞踊芸術監督
1995年より2010年まで英国ロイヤルバレエにて最高位プリンシパルとして活躍。04年よりユネスコ平和芸術家、12年より国連UNHCR協会国連難民親善アーティスト。07年大英帝国勲章（OBE）受賞、17年文化功労者、24年日本芸術院会員



湯川 麻美子 | バレエミストレス・リハーサルディレクター
1997年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団、2011年プリンシパル昇格。2015年よりバレエ団教師、2020年より現職。『こうもり』『カルミナ・ブラーナ』『アラジン』等で主演を務め、ニムラ舞踊賞や芸術選奨文科大臣新人賞を受賞する等高く評価される

主な育成対象者

育成対象者数: 77名



井澤 駿 | バレエダンサー
新国立劇場バレエ団に2014年に入団し、2017年よりプリンシパル



小野 絢子 | バレエダンサー
新国立劇場バレエ団に2007年に入団し、2011年よりプリンシパル



米沢 唯 | バレエダンサー
新国立劇場バレエ団に2010年に入団し、2013年よりプリンシパル

No Image

松下 友紀 | 制作
2019年入職、2022年より制作部在籍

No Image

清水 千奈美 | 広報
2015年入職、2018年より広報室在籍、2020年より制作部兼務

No Image

吉田 真悠 | 宣伝
2022年入職、2022年より営業部在籍

採択事業名 **海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 新国立劇場運営財団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国内公演を通じたダンサー育成（1年目~）**
  - ➢ 『くるみ割り人形』『眠れる森の美女』『バレエ・コフレ』等の主催事業のリハーサルと公演を通じて技術力向上を進めるとともに、「ジゼル」の稽古を並行して行い、若手ダンサーの登用機会を広げた
- **ロンドン公演に向けた制作・技術準備・広報（1年目~）**
  - ➢ 英国ロイヤル・オペラ・ハウスと総合的な連携体制を構築し、現地出演者の手配、テクニカル調整、宿泊・航空券手配、イベントコーディネートなどを進めた
  - ➢ 広報担当者がBolton & Quinn社、宣伝担当者がAKA社と連携し、イギリス現地および日本国内での広報宣伝、チケット販売に合わせた戦略立案と実行を進めた
- **『ジゼル』東京公演の実施（2年目）**
  - ➢ 1年目の研鑽の集大成として4月に『ジゼル』東京（新国立劇場）公演を実施し、ロンドン公演を見据えた最終的な舞台調整と実践機会を積み重ねた
- **英国ロイヤル・オペラ・ハウスでのロンドン公演完遂（2年目）**
  - ➢ 7月に英国ロイヤル・オペラ・ハウスで『ジゼル』ロンドン公演を実施し、ダンサーと制作・広報・宣伝スタッフが国際水準の実務と上演を経験した







今後の活動予定

- **ロンドン公演成果の国内還元（3年目）**
  - ➢ ロンドン公演の成果を踏まえて『ジゼル』凱旋公演を国内で実施し、東京以外の都市も含めて国際水準の作品を日本各地へ展開する
- **トレーニング見直しと次期海外展開の検討（3~4年目）**
  - ➢ ロンドン公演の教訓を基にダンサーのトレーニングプロセスを見直し、技術と表現力の向上を進めながら次なる海外公演の可能性を調査・策定する
- **海外公演の具体化とキャリア支援（5年目）**
  - ➢ 新たな海外公演を具体化するとともに、成果を示したダンサーの昇格や振付機会の提供を通じたようなキャリアパスを支援する

採択事業名 **海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 新国立劇場運営財団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 英国ロイヤル・オペラ・ハウスでのロンドン公演の実施により現地メディアから高い評価を獲得し初期アウトカムを1件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 英国ロイヤル・オペラ・ハウスでの上演が高く評価され、英国舞踊批評家協会賞をR8に受賞し、長期アウトカムを1件達成する

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	77	77	77	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	3	3	4	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	3	2	5	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	14	0	14	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	20,608	0	23,990	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **海外公演を通した国際的なダンサー育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 新国立劇場運営財団**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 団体全体として、英国ロイヤル・オペラ・ハウスとの協働や現地企業との連携を通じ、異文化理解や国際展開の重要性を認識した
2年目終了時点	• 指導者と育成対象者は、世界最高峰の舞台と厳しい批評に直面した経験を通じて世界基準への自覚を深め、日々の稽古や実務に対する意識と自信を高めた • 団体は、ロンドン公演を通じて招聘を待つのではなく自ら世界市場に打って出る姿勢を強め、国際展開を主体的に進める意識へと転換した

達成した点・成果が認められた点

- 英国ロイヤル・オペラ・ハウスでのロンドン公演を完遂し、現地観客の熱烈な支持と、現地メディア等から高い評価を獲得した
- 『The New York Times』紙での報道や、英国舞踊批評家協会賞の受賞など、説得力のある国際的成果を獲得した代表的な成功事例となった
- 制作・広報・宣伝の各担当者は、海外自主公演の実務や海外向け情報発信のノウハウを獲得し、組織としての国際展開力を高めた





今後の取組において期待される点

- ダンサーの食事、時差対応、コンディショニングを個人の工夫に委ねすぎず、より組織的な支援体制を整える
- 英語での交渉やロジスティクス、精算業務が特定の担当者に集中しないよう、知見共有と業務分散を進める
- 今回得られた海外自主公演の運営ノウハウを組織全体で継承できるよう、マニュアル化やバックアップ体制を強化する
- ロンドン公演で得た国際的評価を一過性の成果にとどめず、今後の海外展開や持続的な発信につなげる

採択事業名

次世代の国際スター創出および世界五大バレエ団達成プロジェクト

採択団体名

公益財団法人 日本舞台芸術振興会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | **舞踊** | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

国内外から招聘した振付家などによる指導や、海外公演での実践を通じたダンサーの育成、海外公演実施のためのスタッフ間のノウハウの継承、海外劇場や関係者とのコネクション形成に取組み、東京バレエ団の『世界五大バレエ団』入りを目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 金森穣 振付『かぐや姫』公演の海外初演を成功させる体制を構築
- 次世代の才能の育成
- スタッフのノウハウ継承

第II期（～5年目）

- 欧州のトップ劇場での海外公演を実施
- 世界とのコネクションの強化
- より広いエリアでの公演制作、上演

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



斎藤 友佳理 | 団長

1987年東京バレエ団入団、2014年芸術監督就任、2024年団長就任。ロシア・モスクワ国立舞踊学校を首席卒業し『日本のタリオーニ』と称賛。紫綬褒章受章等国内外で高い評価を得る



高橋 典夫 | 専務理事

1977年より日本舞台芸術振興会で活動し、2016年専務理事就任。世界の著名バレエ団やオペラ、オーケストラの招聘公演に携わり、総合舞台芸術のトップとして国際的な信頼を得る

主な育成対象者

育成対象者数: 28名



柄本 弾 | バレエダンサー

2008年入団、2013年プリンシパル昇格。大役を担い振付指導も行い、2024年第36回服部智恵子賞、2025年芸術選奨文部科学大臣賞受賞



沖 香菜子 | バレエダンサー

2010年入団、2018年プリンシパル昇格。ボリショイバレエ学校留学経験を持ち、2020年横浜文化・芸術奨励賞受賞



秋山 瑛 | バレエダンサー

2015年入団、2022年プリンシパル昇格。海外留学経験を持ち、タンツオリンプ銅賞や2024年に芸術選奨新人賞受賞



池本 祥真 | バレエダンサー

2018年入団、2024年プリンシパル昇格。ボリショイバレエ学校卒業、2010年ペルミ国際バレエコンクール金賞受賞



伝田 陽美 | バレエダンサー

2008年入団、2018年ファーストソリスト昇格。国内コンクールで準優勝や5位受賞の実績を持つ



金子 仁美 | バレエダンサー

2011年入団、2024年ファーストソリスト昇格。横浜バレエコンペ4位、エデュケーショナルバレエ5位受賞

採択事業名
次世代の国際スター創出および世界五大バレエ団達成プロジェクト

採択団体名
公益財団法人 日本舞台芸術振興会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

主な活動実績

- **若手ダンサーの重点登用と集中的な育成（1~2年目）**
  - 東京バレエ団創立60周年記念事業も活用しながら、育成対象者を中心に重要な役柄へ積極的に登用し、古典、コンテンポラリー、日本発オリジナル作品を通じて集中的に育成を進めた
- **国内外指導者による高度な指導の実施（1~2年目）**
  - 世界的な指導者の招聘と作品ごとの指導を通じて、育成対象者の技術と個性を磨き、海外で通用するダンサーとしての成長を促進した
- **ダンサーの主役デビューと昇格の実現（1~2年目）**
  - 育成対象者の宮川新大、生方隆之介、大塚卓、山下湧吾、中島映理子、南江祐生、長谷川琴音、伝田陽美、二山治雄らが全幕作品やバレエ団の主要作品で主役級の役柄に登用され、育成対象者の池本祥真をはじめ複数名が団内で昇格した
- **国際的評価の獲得と受賞（1~2年目）**
  - 育成対象者・秋山瑛がバレエ界の功労者を称えるロシアの権威あるブノワ賞にノミネートされ、育成対象者・柄本弾と育成対象者・宮川新大が芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど、育成成果が国内外で認知され始めた







今後の活動予定

- **『かぐや姫』公演の国内再演と海外初演（3年目）**
  - 日本を代表する演出振付家である金森穣による『かぐや姫』全幕を東京文化会館で上演するとともに、イタリア・トリノ王立歌劇場で第1幕を初めて海外上演し、2027年以降の世界展開につなげる
- **パリ・オペラ座ガルニエ宮での『かぐや姫』全幕上演（4年目）**
  - パリ・オペラ座ガルニエ宮で『かぐや姫』全幕を上演し、日本発のオリジナル・バレエと次世代アーティストを世界最高峰の舞台で発信する
- **海外展開の拡大と共同制作（5年目）**
  - スイスのローザンヌを本拠地とするモーリス・ベジャール・バレエ団との共同制作やベジャール振付の超大作『第九交響曲』の上演を通じて、スイスをはじめとする海外への新たな展開を進める

採択事業名 次世代の国際スター創出および世界五大バレエ団達成プロジェクト

採択団体名 公益財団法人 日本舞台芸術振興会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 3年目の『かぐや姫』の国内外の上演を通じて、初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトで得た知見やスキルを活かし、育成対象者2名が芸術選奨を受賞。長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	25	19	28	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	15	2	15	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	6	2	3	達成見込（３年目）	海外指導者の招聘を通じてアーティスト・指導者・振付家と連携し、作品のクオリティを高めており、R8年度も1名が参加予定
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	9	0	0	達成見込（３年目）	1~2年目を通じて、スタッフは海外劇場・エージェント等と交渉を継続。若手ダンサーの育成を経て、R8年度『かぐや姫』の国内外9公演を行う
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	13,365	0	0	達成見込（３年目）	R8年度、国内外公演にて計13,365人の入場を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	次世代の国際スター創出および 世界五大バレエ団達成プロジェクト
採択団体名	公益財団法人 日本舞台芸術振興会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 上演作品ごとに経験値の豊富な国内外の指導者を招聘することにより、育成対象ダンサーの作品理解が深まった
2年目終了時点	• 育成対象者はバレエ団内の昇格や重要な役への登用を通じて、次世代としての当事者意識を強め、3年目の『かぐや姫』国内外上演に向けて意欲を高めた • 育成対象者を明確に定めて中長期で育成する方針が具体化し、企画制作や舞台技術のスタッフを含めた次世代承継への意識が高まった

達成した点・成果が認められた点

- 育成対象者の柄本弾と宮川新大は芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。秋山瑛はブノワ賞にノミネートされるなど、次世代ダンサーの国際的評価と社会的認知を高めた。その他、生方隆之介、大塚卓、伝田陽美、二山治雄、長谷川琴音、南江祐生らは全幕作品や主要作品で主役デビューを重ね、実力を高めた
- 企画制作部の若手スタッフは海外劇場やバレエ団との交渉、重要公演の企画制作、現地窓口対応を担い、海外展開を支える実務能力と関係構築力を蓄積した





今後の取組において期待される点

- 『かぐや姫』海外展開の成果を整理・分析し、日本発作品による国際展開の意義を明確に示す
- トリノ王立歌劇場での上演で育成対象者が主演・主演級として役割を果たし、着実に成功させることで現地の高評価を得る機会を広げる
- 海外とのコネクション形成を団体固有の強みとして維持・強化するため、企画制作スタッフの渡航と交渉の機会を計画的に確保する
- 日本人振付家による日本の物語を題材とした作品の全幕上演を通じて、所属ダンサーのみならず日本人振付家の国際的な育成と発信を行う

採択事業名

採択団体名

世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト『Wings』

一般財団法人 セガサミー文化芸術財団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | **舞踊** | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

日本の若手ダンスアーティストやクリエイターが国際的な舞台で活躍する機会の拡大を目的に、創作環境の整備、海外ツアー実現のための基盤づくりを推進。運営するダンススタジオ（Dance Base Yokohama）が海外の劇場や芸術祭とのネットワークを生かしたエージェント機能を担い、国内での初演後、舞台芸術見本市での紹介や劇場、芸術祭とのマッチングを実施。優れた作品やダンサーの国際的な認知向上と文化芸術の活性化に貢献する

活動計画

第I期 （～3年目）

- スコットランド、韓国、カナダで公演を実施
- 来場者情報やアンケートを収集し、現地メディアを招待
- 近隣国のプロデューサーを招聘

第II期（～5年目）

- 第Ⅰ期で創作した作品を再構成し、ツアーを開催
- 海外劇場や芸術祭のプロデューサーとの協定を締結
- 著名な賞へのノミネートや受賞に向けてエージェント活動の強化

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 6名



唐津 絵理 | 芸術監督

2014年より愛知県芸術劇場のプロデューサーを経て4月より現職。2020年、DaBY設立を機に、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備を行う。R4年度（第73回）芸術選奨文部科学大臣賞 （芸術振興部門） 受賞



トニー ミルス | プロデューサー

約20年にわたりスコットランドでプロのダンス・アーティストとして活動。Dance Base エディンバラのアーティスティックディレクター就任以前はRoom2 Manoeuvre （R2M） のアーティスティック・ディレクターを務める

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



柿崎 麻莉子 | 振付家

イスラエル『Batsheva Dance Company ensemble』入団後、数々の受賞歴（香川県文化芸術新人賞・日本ダンスフォーラム賞）を持つダンサー/振付家。2022年にカルチャーセンターを設立



岩渕 貞太 | 振付家

舞踏や武術、老子などから触発された独自の表現方法論『網状身体』を開発し創作を続ける。2012年横浜ダンスコレクションEXで受賞しフランス滞在



阿目 虎南 | 振付家

現象学・彫刻的視座に基づく舞踏技術『Multi layered body』を研究実践。国内外でWSや公演を行う。2022年国際ゴンブロヴィッチ祭準グランプリ受賞など



田中 希 | 制作・広報

幼少期からダンスに親しむ。大学卒業後、航空会社で客室乗務員として国内外の路線に乗務。その後、地域創生に関わるIT企業にて広報を担当



丹羽 青人 | ドラマトゥルク

国立音楽大学在学中から日本に数少ないダンスドラマトゥルクとして活動。主な共演者に柿崎麻莉子、木ノ内乃々、鈴木竜、畠中真濃、ハラサオリ、岩渕貞太、藤村港平



高橋 萌登 | 振付家

クラシックバレエやストリートダンスの表現とテクニックを融合させたオルタナティブダンスを軸に創作する。MWMW主宰。2021年横浜ダンスコレクション審査員賞等を受賞

採択事業名

採択団体名

世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト『Wings』

一般財団法人 セガサミー文化芸術財団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

主な活動実績

- **作品創作に向けたリサーチと海外展開の準備（1年目）**
  - 育成対象者である各振付家や制作スタッフが作品テーマに関する調査や専門家インタビューを行い、Dance Base Yokohama（DaBY）でのワークインプログレスやワークショップを通じて創作準備を進めた
  - アジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームのひとつである横浜国際舞台芸術ミーティング（Yokohama International Performing Arts Meeting ／YPAM）で海外ディレクターを含むメンターとの打合せやショーケース、レセプションを実施し、各作品に適した芸術祭や劇場への売り込みに必要な視点を整理した
- **国内各地での初演と上演形式の検証（2年目）**
  - DaBYでの創作を経た5作品について、愛知県芸術劇場、いわき芸術文化交流館等で初演を実施し、作品特性に応じた上演形式や地域展開の可能性を検証した
- **海外上演とリクリエイションの実施（2年目）**
  - 育成対象者・鈴木竜の作品は、香港・韓国において現地ダンサーとのリクリエイション（再構成）を経て上演を行い、国内創作から国際展開への接続を実現した
- **リサーチ・批評・講義を通じた育成機能の強化（2年目）**
  - 更なる海外展開に向け、フランス・パリ、韓国・デジョン、オランダ・アムステルダム、スイス・ベルン、台湾・台中、高雄で作品創作に向けたリサーチを実施した
  - 育成対象である若手批評家による公演レビューを通じて作品評価を多角的に検証するとともに、メンターやゲストによる講義、育成対象制作者の海外芸術祭・劇場でのリサーチを通じて知見の共有とネットワーク強化を進めた







今後の活動予定

- **海外公演の本格実施（3年目）**
  - 国内公演の評価をもとに作品をリクリエイションし、必要に応じて試演を行ったうえで、カナダ・モントリオールで隔年開催される舞台芸術見本市であるCINARSや、世界最大級のスコットランドの芸術祭エディンバラ・フェスティバル・フリンジ等で海外公演を実施する
- **評価を踏まえた再演・再構成の実施（4年目）**
  - 3年目までの海外公演での評価や反応を踏まえて再演や作品の改良を行い、オファーが得られた作品は各国の劇場や芸術祭での再演や現地とのコラボレーションにつなげる
- **継続的な海外ツアーとハブ機能の確立（5年目）**
  - 本プロジェクトで創作した作品の継続的なリクリエイションを行い、海外展開を進めるとともに、海外劇場や芸術祭のプロデューサー、ディレクターとのパートナー協定を通じてダンスハウスとしてのハブ機能を確立する

採択事業名

採択団体名

世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト『Wings』
一般財団法人 セガサミー文化芸術財団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 各種海外公演の実施により、3年目に初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトで習得した技術やノウハウを生かし、育成対象者が国際的に認知されている芸術祭等に参加することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	12	12	12	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	8	4	22	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	10	3	8	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	33	10	39	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	5,300	488	2,548	達成見込（３年目）	R8年度公演で計2,270人の入場を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト『Wings』
採択団体名	一般財団法人 セガサミー文化芸術財団

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 愛知県芸術劇場との協働による各育成対象者の作品上演では、一回限りではなく再演を前提にした作品を作るという意識を関係するスタッフおよびアーティストと共有することができた
2年目終了時点	• 国内公演を経験することで、その後の再演や海外展開を前提にした創作をする視点を持つようになった • 制作および広報スタッフは、海外関係者の招聘に向けたコミュニケーション、英語での資料作成と発信を通じて、国際展開を想定した実務能力を高めた • 海外公演に向けた現地との本格的な交渉が始まり、それぞれの役割を横断して連携する体制が形成された

達成した点・成果が認められた点

- 創作から国内公演、海外公演へとつなぐ育成・展開モデルを着実に構築している
- 海外フェスティバルや劇場関係者へのプレゼンテーションの機会を設け、作品ごとの国際展開に向けた具体的な対話と交渉を開始した
- 制作および広報スタッフが海外関係者とのコミュニケーションや英語での資料作成・情報発信を通じて、国際的なプロジェクト運営の実務経験を蓄積した





今後の取組において期待される点

- 海外展開に向けたスケジュール調整や条件交渉の複雑化に対応するため、段階ごとのマイルストーン設定と進捗管理を強化する
- 作品ごとの地域適性、各国の予算規模や助成制度、社会情勢の違いを踏まえ、複数の選択肢を前提とした柔軟な展開計画と交渉力を強化する
- 海外交渉で使用する作品資料の継続的なブラッシュアップを進め、育成対象のアーティスト、制作、広報が連携して発信内容の精度と英語でのコミュニケーション能力を向上させる
- コンテンポラリーダンスの創作拠点としての機能を強化し、各国との共同創作やコミュニケーションを担うハブ機能を、実演家だけでなくスタッフを含めて拡充する

採択事業名

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業

採択団体名

一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | **演劇** | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

日本の舞台芸術界で不足する国際発信力を持つキュレーターを育成するため、KYOTO EXPERIMENTを育成の場として、①ショーケース企画を通じた育成、②海外キュレーター招聘による国際ネットワーク構築、③プロデュース作品の海外上演、④プロデューサー、テクニカルディレクター、評論家育成施策を通じ世界的に活躍する人材を育成する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 共同制作や巡演を視野にショーケース公演のキュレーションを実施
- プロデュース作品を海外で1-2か所上演
- 国内外での批評プロジェクトも引き続き実施

第II期（～5年目）

- 第I期で育成した新ディレクターのもとKYOTO EXPERIMENTを開催
- 海外共同製作を2-3作品、5-6カ所からの招聘を目指す
- 国際シンポジウムを開催し、日英記録をウェブで公開

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



川崎 陽子 | キュレーター・プロデューサー

チュージリヒ・シアター・スペクタクル2022ゲスト審査員や2023年SAAL Biennaal（エストニア）・ISPAEシンポジウム（インドネシア）登壇等海外で活躍。R5年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞



塚原 悠也 | キュレーター・演出家

第27回読売演劇大賞優秀スタッフ賞、京都市芸術新人賞を受賞。ドイツの『Forecast』メンターやアーツカウンシル東京『未来の踊りのためのプログラム』講師を務める等、多方面で活躍

主な育成対象者

育成対象者数: 26名



和田 ながら | キュレーター

2018年こまばアゴラ演出家コンクール観客賞受賞。セゾン・フェローや京都舞台芸術協会理事長として活躍。2025年よりKYOTO EXPERIMENTアシスタント・ディレクター



川口 万喜 | キュレーター

2013-2022年『アートエリアB1』理事兼事務局長、2023年『METAMETA”アルター”市場 vol.04』ディレクター



荒木 優光 | 演出家

2021年クンステン・フェスティバル・デザールで公演。2023年度セゾン文化財団セゾン・フェローとして活動



中間 アヤカ | 演出家

R4年度神戸長田文化奨励賞受賞。クンステン・フェスティバル・デザールやポンピドゥー・センターで公演



村川 拓也 | 演出家

Theaterformen（ドイツ）で公演。2016年文化庁東アジア文化交流使として中国・上海／北京に滞在



豊山 佳美 | プロデューサー

akakilike、村川拓也等の制作として、海外公演時はツアーマネジャーを務める。KYOTO EXPERIMENT広報としても活動

採択事業名

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業

採択団体名

一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

主な活動実績

- **ショーケースの企画運営・国際ネットワークの構築（1~2年目）**
  - 育成対象者の和田ながら、川口万喜、堤拓也など次代のKYOTO EXPERIMENTプログラムディレクター候補が、現ディレクターの助言のもとで芸術祭会期中に上演するショーケース公演を企画・実施した
  - 会期中に海外の劇場や芸術祭のプレゼンターを招聘し、次代プログラムディレクター候補者との関係構築を進めるとともに、舞台芸術の国際交流をテーマとしたラウンドテーブルを実施した
- **プロデュース作品の海外展開実現（1~2年目）**
  - KYOTO EXPERIMENTがプロデュースした作品の海外展開の交渉を進め、2年目には韓国、台湾、オーストラリア、ブラジル、香港等で計7か所の上演を実現した
- **批評家育成プログラムの実施（1~2年目）**
  - 国際的な批評の知見を持つメンターによる講座の実施、台湾やEUを拠点とする批評家との交流、育成対象の演出家・村川拓也の作品に対する批評の公募とそのWEB掲載を通じて、国内でこれまで支援の少なかった批評家の育成を進めた
- **演出家、プロデューサー、舞台スタッフの実践育成（2年目）**
  - 育成対象の演出家作品の海外上演に向けた各国との交渉や準備に育成対象プロデューサーや舞台スタッフが参加し、国際展開の総合的な実務経験を蓄積した







今後の活動予定

- **ショーケースの継続と海外共同制作準備（3年目）**
  - 次代プログラムディレクター候補が引き続きショーケース公演をキュレーションし、海外の有力劇場や芸術祭との関係を深めながら、4~5年目の共同制作や巡演を見据えた基盤づくりを進める
- **海外上演と成果発表の実施（3年目）**
  - アメリカ・オースティン、ドイツ・ワイマール、ドイツ・ハノーファー、インドネシア・ジャカルタ、マレーシア・ジョージタウン等で1~2か所ずつの海外上演を進め、3年間の総括として成果発表会も行う
- **新ディレクター体制への移行（4~5年目）**
  - 第1期の育成成果を踏まえてプログラムディレクター、プロデューサー、テクニカルディレクターを次世代へ移行し、国際シンポジウムや新たな共同制作の実施、海外キュレーター招聘の拡充につなげ、国際ネットワークの強化を図る

採択事業名	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業
採択団体名	一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 海外の芸術祭（台湾、オーストラリア）および韓国国立美術館ソウル館のプログラム等に参加し初期アウトカムを1件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 3年目までは海外での実地経験など育成過程の前段にあたるが、4年目以降の国際展開によって長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	39	18	7	達成見込（3年目）	R8年度に予定しているショーケース公演及び海外公演において14名を登用する予定である
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	28	13	7	達成見込（3年目）	プロデュース作品は海外上演での海外連携先を確実に広げており、R8年度は9件の連携を実施予定である
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	12	3	8	達成見込（3年目）	海外指導者はじめ、海外の著名フェスティバル等に関わるキュレーターにも関与を頂けており、R8年度はさらに4名が関与見込みである
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	38	2	37	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	4,700	146	3,242	達成見込（3年目）	R7年度公演（韓国、ブラジル）が大盛況となり、予定を大幅に上回る成果となった。R8年度公演には2,600人の入場を見込んでいる
⑥海外ネットワークにおける深い対話数	90	25	30	達成見込（3年目）	2年間は確実に実績を積み重ねており、R8年度における海外ネットワークにおける対話形成では35件を実施予定である
⑦上演作品やキュレーションに対する批評家・専門家による批評件数と内容	30	15	6	達成見込（3年目）	2年間は確実に実績を積み重ねており、R8年度における批評数は9件を見込んでいる
⑧海外キュレーターからの本事業におけるキュレーター、演出家育成に対する評価	60	20	21	達成見込（3年目）	2年間は確実に実績を積み重ねており、R8年度における海外キュレーター等による評価は20件を見込んでいる

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業
採択団体名	一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 育成対象者は、芸術祭の継承をより自分事として捉え、公演とネットワーキングの両面から今後の展開を意識するようになった • 団体・指導者は、公演や海外関係者との実践を通じて、15年以上にわたり蓄積してきたキュレーションや国際ネットワークの知見を言語化し、次世代へ継承していく意識がより強化された
2年目終了時点	• 育成対象者は、キュレーションや海外芸術関係者との交流、海外公演の経験を通じ、国際的な活動展開を実践するうえでよりビジョンが明確になった • 団体・指導者側では、舞台芸術キュレーターを育成する取組が国内外から関心を集めるなか、本プロジェクトが舞台芸術の国際発信を担う人材育成モデルとして意義を持つという認識が強まり、手ごたえを感じ始めている

達成した点・成果が認められた点

- キュレーター育成の成果として、育成対象者の和田ながらがアシスタント・ディレクターに就任した
- 海外キュレーター招聘やエクスチェンジを通じて本事業の認知を海外に広げるとともに、台湾の若手キュレーターとの交流などを行い、本プロジェクトによる次代のキュレーター育成が国際的な関心を集めた
- 育成対象演出家の海外公演は7か所で実現し、その準備、交渉、実施にプロデューサーや舞台スタッフも加わることで、総合的な国際展開人材の育成につながった





今後の取組において期待される点

- ショーケース公演の運営や実施において、育成対象者自らが判断と解決を担う場面をさらに増やし、芸術祭のディレクションの実践経験を蓄積する
- 新ディレクターの育成と体制移行を着実に進め、時代に即した国際フェスティバルとしての影響力を高める
- 育成対象の批評家の海外公演への帯同とレポート執筆を実施し、本批評家育成プロジェクトを国際的な土壌の形成へ発展させる
- 小規模活動を多数積み重ねることで、それらを個別に評価するのではなく、芸術祭の体制移行と高度化のプロセスとして整理し、KYOTO EXPERIMENT全体のストーリーとして発信する

採択事業名

採択団体名

IN TRANSIT -異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト-

株式会社 precog

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | **演劇** | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

団体としてのこれまでの20年間の国際交流実績を活かし、クリエイターや批評家、制作者を対象に研修やネットワーキングを実施。国際展開の能力を育成し、その成果を公開することで、日本の舞台芸術の国際的な基盤強化を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 海外公演に必要な字幕制作やビザ手配等の実務指導
- 新たなツアー先獲得やプロジェクト立ち上げの営業活動
- 成果発表やノウハウ共有を通じた、海外メディアとの連携

第II期（～5年目）

- 各育成対象クリエイターの国際基盤構築
- 新時代のニーズに応じた育成プログラムの強化
- グローバルサウスとの交流強化

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 10名



中村 茜 | プロデューサー

国内外90都市で劇団やダンスカンパニーの海外進出を支援。文化庁芸術選奨新人賞受賞。国東半島芸術祭やあいちトリエンナーレ等でキュレーションを手がけ、国際交流に尽力



橋本裕介 | キュレーター・ドラマトゥルク

KYOTO EXPERIMENTを企画。その後、ロームシアター京都勤務、ニューヨーク滞在を経て、現在ベルリン芸術祭「舞台芸術シーズン」芸術監督を務める。編著に『芸術を誰が支えるのか　アメリカ文化政策の生態系』

主な育成対象者

育成対象者数: 18名



上田 久美子 | 劇作家・演出家

宝塚歌劇団演出部を経て、2024年3月に自身のカンパニーprojectumïを設立

©matron2023



山本 卓卓 | 劇作家・演出家

独自の演出と脚本でアジアからも注目。岸田國士戯曲賞受賞。マレーシア等で公演・共同制作を展開

©雨宮透貴



萩原 雄太 | 劇作家・演出家

演出家・劇作家・ライター。AAF戯曲賞や利賀演劇人コンクール優秀演出家賞等を受賞



加藤 奈紬 | プロデューサー

舞台制作者・プロデューサー。豊岡演劇祭で制作統括。APPキャンプ参加等国際舞台芸術に携わる

©Nishi Junnosuke



藤田 貴大 | 劇作家・演出家

マームとジプシー主宰。岸田國士戯曲賞や読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞した演劇作家

©井上佐由紀



高嶋 慈 | 批評家

美術・舞台芸術批評。近畿大学文芸学部非常勤講師。シアターアーツ賞佳作受賞。寄稿に『百瀬文 口を寄せる』

採択事業名 **IN TRANSIT**
-異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト-

採択団体名 **株式会社 precog**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国際展開に必要な基盤構築（1年目）**
  - 海外公演に向けた資料作成、資金調達、国際事業展開にあたっての基礎知識研修、英語資料や特設ウェブサイトの整備を進め、国際展開に必要な知見、営業資料、広報体制の基盤を構築した
- **国内外プラットフォームでのネットワーキング実施（1~2年目）**
  - 国内ではKYOTO EXPERIMENTやYPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）、国外ではAsia TOPA（オーストラリア）、BIPAM（タイ）、Kunstenfestivaldesarts（ベルギー）、Festival Trans Amériques（カナダ）等の各国を代表する舞台芸術見本市やフェスティバルと積極的に連携し、市場調査、プレゼン営業、交流を通じてネットワークを拡大した
- **国外活動の実施（1~2年目）**
  - 育成対象者・牧原依里が、表現のアクセシビリティを実現する先進的な劇場として注目されるModu Art Theater（韓国）でろう者・聴者の身体性をテーマにした作品を上演。育成対象者・筒井潤の作品は、ドイツとの国際共同制作でFFTデュッセルドルフで上演された。育成対象者・上田久美子は、身体表現や実験的舞台芸術の流通のための国際的ハブとして高い影響力をもつ「La Ménagerie de Verre」のStudioLab枠に採択されパリで滞在制作、公開リハーサルを実施した
- **個別伴走型支援による活動具体化（2年目）**
  - 各育成対象者の作家性、作品形式、成熟度、展開先地域の特性に応じて団体事務局のサポート内容を調整し、個別の活動計画、資料更新、交渉、製作準備を具体化した
- **知見共有とアーカイブ発信の強化（1~2年目）**
  - 特設ウェブサイトで、各育成対象者の活動プロセス、国際活動コラム、海外プレゼンターとの対談、批評記事等を公開し、業界内に向けた知見共有と可視化を進めた







今後の活動予定

- **海外公演・レジデンシーの実装（3年目）**
  - インドネシア、フィリピン、韓国、中国、フランス等で海外公演、レジデンシー（滞在制作）、リサーチを実施し、現地専門家との信頼関係を構築する
- **次年度以降の営業活動強化（3~4年目）**
  - これまでに実施した国際活動を基に、複数都市でのツアー公演、新規プロジェクトの立ち上げや共同制作に向けた営業活動を強化する
- **共有知の発信と新たな育成への接続（4~5年目）**
  - 蓄積した知見やノウハウを体系化して広く公開し、次世代クリエイターが自立的に国際展開を進めるための共有基盤構築を強化する

採択事業名 **IN TRANSIT -異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト-**

採択団体名 **株式会社 precog**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 牧原依里が韓国のModu Art Theaterで作品を上演、筒井潤がドイツとの共同制作でFFT デュッセルドルフにおける上演を行い高評価を得るなど、初期アウトカムを4件達成。3 年目のインドネシアでの公演等でも貢献する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトで制作した筒井潤『唯一者とその喪失』およびメグ忍者『エターナル・レイバー』が第70回岸田國士戯曲賞にノミネートされ、牧原依里が第76回芸術選奨 文部科学大臣新人賞（芸術振興部門）を受賞。長期アウトカムを3件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	15	15	18	達成	-
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	34	9	51	達成	-
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	16	5	60	達成	-
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	27	5	8	達成見込（3 年目）	R8年度には国内外14件の公演を見込んでいる
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	2,163	565	598	達成見込（3 年目）	R8年度は国内外公演に1,000人の入場を見込んでいる
⑥批評家・ジャーナリストから批評記事の形でポジティブな評価を得た数	5	0	0	達成見込（3 年目）	R8年度には5件の評価を見込んでいる
⑦それぞれの個別活動とは直接関係のない、別の新たな海外展開につながった数	13	0	18	達成	-

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	IN TRANSIT -異なる文化を横断する舞台芸術プロジェクト-
採択団体名	株式会社 precog

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 育成対象アーティストは海外展開に向けたプランや資料作成を進め、批評家や舞台監督も各育成アーティストの作品への参画や海外ネットワーキングの実施により国際的視野を広げるなど、全体の意識やスキル向上が見られた
2年目終了時点	• 育成対象アーティストは、海外展開における目標を具体的な創作・上演計画へ落とし込み、字幕対応や海外輸送を前提とした作品設計や、国内外の関係者との対話を通じて自らの活動を伝える言語化能力を高めた • 育成対象プロデューサーや批評家、ならびに団体側は、国際的な文脈を踏まえた計画立案、事業運営、批評の実践、ネットワーク形成に主体的に取り組み、国際展開に必要な実務能力と体制整備を進めた

達成した点・成果が認められた点

- 団体が個々の育成対象アーティストの活動を束ねる形で、各国のプレゼンターやアーティストとのネットワーク拡大、資料整備、海外展開準備、知見共有という活動群を構築し、着実に前進させた
- 特にアジアにおける上演・ツアー計画や協働体制の具体化が進み、海外展開の実現に向けた足場が作られた
- 特設ウェブサイトでの対談、批評、コラム等の公開を通じて、個別成果の競争ではなく、プロジェクト全体としての知見共有と可視化を進めた





今後の取組において期待される点

- 育成対象者ごとの進捗や課題の変化に応じて、支援の頻度、内容、タイミングをさらに精緻に調整する
- 拡張したネットワークを、5年目までを見据えた具体的な招聘、契約、上演に結びつけるための戦略的フォローアップを強化する
- 多言語発信や広報指標の体系化を進め、事業プロセスや知見共有コンテンツの外部活用も高める
- 批評家の位置づけを単なるレビュー執筆にとどめず、アーティストや制作者との相互作用を生む企画へ発展させる

採択事業名

世界のショービジネス界で飛躍するクリエイター育成プロジェクト

採択団体名

株式会社 ホリプロ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | **演劇** | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

若手クリエイター9名（演出家、作曲家、振付家、振付家兼俳優、美術家、プロデューサー）を起用し、海外展開を見据えた公演の企画・制作の場と海外での上演機会を提供する。さらに活動を通して、海外の演劇団体との連携を強化し、ネットワーク形成を促進する。加えて、全期間を通じて国内外で活躍するクリエイターが指導者となり、世界トップレベルの公演の企画・制作を支援する

活動計画

第I期 （～3年目）

- オリジナル新作舞台の海外上演
- 若手俳優育成プログラムを実施
- 海外で活躍する専門家の招聘と作品の認知拡大

第II期（～5年目）

- 現地キャストとの海外公演の実施
- 国際的な批評家の招聘
- 新企画の立ち上げ

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



Jason Howland ｜ 作曲家、脚本家

作曲家（トニー賞ノミネート）であり、プロデューサー（グラミー賞受賞、トニー賞ノミネート）、編曲家（エミー賞受賞、トニー賞ノミネート）およびオーケストレーター。今シーズン話題のブロードウェイミュージカル『ザ・グレート・ギャツビー』では作曲およびオーケストレーター/編曲など世界的に活躍している



Philippe Decouflé ｜ 演出家、振付家、作曲家

映像、オペラ、サーカス、キャバレー、現代美術など様々なジャンルを取り入れ、伝統的なダンスの世界に革新をもたらした先鋭的なアーティスト。アルベールビル冬季オリンピックの開閉会式（1992）の演出によって国際的な注目を浴び、現在では世界的に知られるアーティストとなる

主な育成対象者

育成対象者数: 9名



井川 かおる ｜ プロデューサー

2008年ホリプロ入社。同年4月～2014年6月俳優のマネージメント業を経て、2014年7月～現在の部署に異動し、海外作品の日本版の公演や、招聘作品、日本発オリジナル作品など舞台制作に携わる。また、『デスノートTHE MUSICAL』においては立ち上げから携わり、海外プロダクションによる公演において海外との窓口として交渉等を担当する



柳本 美世 ｜ プロデューサー

大日本印刷を経て、2008年8月、株式会社銀河劇場入社。営業、広報担当。2011年ごろから制作と営業を兼務。制作として演劇、プロデューサーとして招聘公演やコンサートなどを担当した。2016年4月ホリプロに移籍し、制作部門で制作、プロデューサーとして多数作品に参加



飛田 弥咲 ｜ プロデューサー

京都大学大学院医学研究科卒業後、株式会社三菱総合研究所にて、官公庁の調査やコンサルに携わったのち、2020年に株式会社ホリプロ入社。公演事業本部にて、制作・プロデューサーとして多数の舞台作品に参加。舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』では、立ち上げ時にマーケティングディレクターを務め、マーケティング・広告宣伝の実績も有する

採択事業名 **世界のショービジネス界で飛躍するクリエイター育成プロジェクト**

採択団体名 **株式会社 ホリプロ**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外クリエイターとの活動による舞台制作ノウハウの習得（1年目~）**
  - 海外クリエイターとの創作活動や海外プロダクションとの交渉を通じて、海外で公演を行うための実践的な能力の向上を図った
- **既存作品の海外展開準備と海外公演実施（1~2年目）**
  - 過去に国内で上演歴のある作品については、海外現地プロモーターとの打ち合わせや契約締結を具体的に進めた
  - 2年目には『デスノート』コンサートバージョンの台湾公演、『中村仲蔵』上海公演、『ミセン』の韓国の演劇祭への出展を実現し、国際的な発信力を高めた
- **オリジナル新作舞台の企画・準備（1~2年目）**
  - 3年目以降の海外公演を見据えて、オリジナル新作舞台の企画・準備を継続し、海外に通用する芸術性と創造性の高い作品づくりを進めた
- **俳優育成プログラムと海外視察の継続（1~2年目）**
  - 米国作曲家Jason Howland（指導者）による若手俳優育成プログラムの準備・実施を進めるとともに、アメリカ、イギリス、オーストラリア等海外の主要劇場での作品視察を通じて各国の市場調査を実施。実演家の育成、拠点形成、各国との上演交渉を継続することで上演機会拡大のための基盤を固めた







提供：ホリプロ

今後の活動予定

- **オリジナル新作舞台の海外上演（3年目）**
  - 1~2年目で企画制作・稽古等を行ってきたオリジナル新作舞台を、シンガポール、中国、ロンドン、パリ等で海外上演する
- **海外専門家の招聘と認知拡大（3年目）**
  - これまでに培ったコネクションや拠点を活用し、海外プロデューサーや演出家等の専門家を招聘してオリジナル作品の認知拡大と新たな拠点形成を進める
- **ライセンス公演と現地キャスト上演への展開（4~5年目）**
  - 海外公演を実施したオリジナル作品について、海外プロデューサーとライセンス公演交渉を進め、現地キャストによる上演を目指す

採択事業名 世界のショービジネス界で飛躍する
クリエイター育成プロジェクト

採択団体名 株式会社 ホリプロ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■『デスノート THE MUSICAL』の韓国公演、『中村仲蔵』の上海公演により初期アウトカムを2件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトを通じて習得した舞台制作ノウハウや人的ネットワークを活用し、国際的に認知されている芸術祭や文化施設で上演することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	23	9	23	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	71	51	81	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	120	70	146	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	395	0	12	未達見込	R7年度に中国公演が中止になった。R8年度は国外375公演を実施見込み
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	420,000	0	17,400	未達見込	R7年度に中国公演が中止になった。R8年度は国外375公演にて約400,000人の入場見込み

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	世界のショービジネス界で飛躍する クリエイター育成プロジェクト
採択団体名	株式会社 ホリプロ

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目 終了時点	• 育成対象者は作品創作を通した海外クリエイターとの交流を経験し、異文化環境での創作手法やコミュニケーション手法を学んだ • 団体は中長期的な成長戦略を基盤に、組織内に国際プロジェクト推進体制を整備した
2年目 終了時点	• 育成対象者は、海外公演の実施を通じて、海外クリエイターとの実務的なコミュニケーションを行い、企画立案から上演までを見据えた国際展開への理解を深めた。また、育成対象者自らが他のスタッフへ知見共有を行う場面が増え、指導者から対象者への一方向の学びにとどまらない、組織内での相互学習が進んだ • 団体側でも、海外事業を支える組織的な成長への手応えが生まれ、国際プロジェクト推進体制の実効性が高まった

達成した点・成果が認められた点

- 初年度からの継続的な準備を経て各作品の海外公演を完遂し、育成対象者が海外展開の準備から上演までの全体を経験することで着実なスキルアップを実現した
- 現地の演劇制作会社やプロデューサーとの継続的な協議を通じて、今後の海外公演や事業拡大につながる協力関係の基盤を築いた





今後の取組において期待される点

- 育成対象者の渡航回数の差によって育成成果に偏りが出ないよう、渡航スケジュールの最適化とオンライン協議の併用を進める
- 商業演劇コンテンツの輸出という観点から、オリジナル作品の上演権を海外の劇場などに与えるライセンス公演や、現地キャストでの上演を含めた持続的な展開モデルを明確化する
- 育成対象プロデューサーやクリエイターが、具体的にどの工程を担い、何を習得したかをより詳細に可視化することで、複数作品を同時進行で海外展開するプロデュース体制全体のモデルケースとして蓄積する

採択事業名 **世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト**

採択団体名 **株式会社 サイ**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / **演劇** / 伝統芸能 大衆芸能 / **補助型**

舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

実演家、美術家、制作者などの若手クリエイターを育成対象とし、海外アーティストと協働して複数の公演や展示事業を実施することで、国際社会の多様性を知り、世界基準で時代と社会を認識する視点と力を養う。そして国際社会で活躍できる人材の育成を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 育成対象者による創作、公演、展示を実施
- インドでの滞在制作と国際イベントへの参加
- 制作者をアメリカ・メキシコ・フランスに派遣しネットワーキングを行う

第II期（～5年目）

- 海外調査やネットワーク構築の成果を基に、育成対象者を中心とした作品の企画制作を実施
- 本プロジェクトの育成者が他の若手クリエイターにその成果を波及させる

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



小池 博史 | 演出家・作家・振付家・映画監督
世界18カ国で創作、42カ国で公演、計100作品を制作。主要劇場やフェスでの上演多数。1990年代は欧州、2000年代は北米、2010年代はアジアで活動を拡大。現在は芸術を通じた世界融和を目指す



松島 誠 | パフォーマー・演出家・舞台美術家
世界中から招待を受け作品を制作、発表している。特に香港のダンス・演劇シーンでは最も知られた日本人パフォーマー

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



山上 渡 | 作家（美術）
2009年第12回岡本太郎現代芸術賞特別賞、2013年東京ミッドタウンアワード準グランプリ、オーディエンス賞受賞。2019年文化庁新進芸術家海外研修員に選任



今井 尋也 | 実演家（能役者、小鼓演奏家）
国立能楽堂研修所・東京藝術大学を卒業後、渡仏。帰国後、シルクロード能楽会を立ち上げ全ての作品の作・演出を行う



西川 壱弥 | 実演家（日本舞踊家）
2000年に宗家西川流の名取免許を取得し、当時最年少で西川壱弥を許名。2020年には宗家西川流の師範免許を取得し、門真国際映画祭で最優秀賞受賞



津山 舞花 | 実演家（舞踊家、俳優）
2011年の国民文化祭・京都2011に出演し、同年にはAIS BALLET JAPANのドイツ公演に出演。2012年にはYAGPニューヨークシティファイナルのアンサンブル部門で世界大会、第二位を獲得



池野 拓哉 | 実演家（舞踊家、俳優）
2002年からパパ・タラフマラに出演し、2012年の解散まで参加。2013年には映画『恋人たち』に出演し、2014年からパフォーマンスグループ『世界装置』に在籍



黒田麻理恵 | 制作者、マネージャー（プロジェクトマネジメント）
海外の文化団体との対応から契約交渉を行い、国際交流事業の立ち上げや共同制作事業にも関与。2019年からは主に（株）サイ／小池博史ブリッジプロジェクトの事業担当を務める

採択事業名 **世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト**

採択団体名 **株式会社 サイ**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国際共同制作による新作創作と公演（1~2年目）**
  - ➢ 『BREATH TRIPLE』『Soul of ODYSSEY』『ゼロのサーカス』『HINOTORI 火の鳥・山の神篇／火の鳥・海の神篇』の新作創作・公演を通じて、育成対象者が多国籍のクリエイターと協働する実践を重ねた
- **海外営業・ネットワーク形成の推進（1~2年目）**
  - ➢ ブラジル・サンパウロでのプレゼンテーション、CINARS（カナダ）やAPAP（アメリカ）などの舞台芸術見本市での営業活動、インドおよびインドネシアへの制作者の派遣調査を通じて、海外展開に向けたネットワーク形成と連携体制の整備を進めた
- **指導者による講義・報告会の実施（1~2年目）**
  - ➢ 各公演や派遣調査に対して指導者が助言を行い、座学講義やワークショップで身体感覚や芸能史の学びを深めた。また、成果報告会を通じて課題整理と目標設定の検討を行った
- **海外調査を踏まえた実務基盤の整備（2年目）**
  - ➢ 現地の芸術機関、大学、フェスティバル関係者との対面交渉を通じて、施設条件や受入体制、連携可能性を確認し、英語での事業説明資料の整備も進めた
  - ➢ インドネシアでは古典芸能と現代芸術の関係性に関する調査、インドでは３年目に制作予定の『Soul of ILIAD』に向けた下見と協力関係構築を進め、育成対象者に対して指導者によるフィードバックを実施した







今後の活動予定

- **インド・マレーシア等との国際共同制作の深化（3年目）**
  - ➢ 国内で舞台「世界望郷の旅」を創作・上演するとともに、インドで『Soul of ILIAD』を滞在制作し、国際演劇祭や国際イベントで上演する
- **海外制作成果の還元とアジア連携の強化（4年目）**
  - ➢ インドで制作した『Soul of ILIAD』の東京上演や『Soul of ODYSSEY』の香港上演を通じて1~3年目で得た成果を還元し、インドネシアとの共同創作事業立ち上げに向けた連携強化を進める
- **若手クリエイター中心の国際共同創作の展開（5年目）**
  - ➢ 若手クリエイターを中心とした創作・公演を実施し、日本の古典「古事記」を題材とした舞台やシンポジウム、日本インドネシア外交関係樹立70周年記念事業としての共同創作・公演を展開する

採択事業名 **世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト**

採択団体名 **株式会社 サイ**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 国際イベントでの公演が3件予定されており、3年目に初期アウトカムに貢献する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 育成対象者が個々に世界的に認知された芸術祭や文化施設等に参画することで、長期アウトカムの達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	13	12	12	未達見込	本プロジェクトに最も適した人材を選定し、12名を育成対象とした
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	21	18	13	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	38	10	16	達成見込（３年目）	海外アーティスト・キュレーター等の参画は計画に沿って進行しており、R8年度も15人の関与を見込んでいる
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	36	20	11	達成見込（３年目）	国内外での公演・展示等の展開は予定どおり進んでいる。R8年度は14公演を実施予定である
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	9,500	1,538	5,915	達成見込（３年目）	クリエイター自ら集客を行うなど積極的な活動が見られ、R8年度は2,500人の入場を見込む
⑥実施内容に対する批評、記事、国内外メディア掲載、放送等の件数	38	4	20	達成見込（３年目）	R7年度は早い段階からメディアや批評を依頼することで高い成果を獲得した。R8年度も同様に進め15件の掲載等を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **世界を現場にする次代クリエイターの育成プロジェクト**

採択団体名 **株式会社 サイ**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 国内での複数作品の上演を通じ国際的な表現力と対応力を高め、新たなアプローチを試みるようになった • 報告会の実施やレポート提出を通じて意識の共有や活動の記録・可視化が進んだ
2年目終了時点	• 継続的な創作を通じて育成対象者は互いの職能を尊重し合う強固なチームへと進化し、国際的文脈の中に自らの表現を位置づけるような変容があった • 独自のネットワークを活用して自発的に新企画を立ち上げ始めるなど、自立的な行動が見られるようになった

達成した点・成果が認められた点

- インドおよびインドネシアへの派遣調査を通じて、国際共同制作や海外展開に向けた調査、営業、ネットワーク形成を進め、施設条件や受入体制、連携可能性を具体的に確認した
- 英語での事業説明資料の整備を進めたことで、現地での説明や意見交換がより円滑になった
- インドでの滞在制作・上演に向けた下見と協力関係構築や、インドネシアでの古典芸能と現代芸術の関係性に関する調査を通じて、中長期的な海外事業展開に資する知見を蓄積した





今後の取組において期待される点

- 海外現地で得たネットワークや情報を、共同制作、公演、展示、資金調達等の具体的な実施計画へ接続する
- 相手先のニーズに応じた資料の出し分けや、予算・事業スキームを含む提案力を強化する
- 各国調査やネットワーキングの成果をプロジェクト全体の資産として整理し、公開可能な形で可視化・発信する体制を強化する
- 国・地域ごとの制作費構造、契約慣行、行政手続きへの理解を深め、構築できた関係性を実施条件の調整や事業設計に結びつける力を高める

採択事業名 **SOIL Fellowship Program**

採択団体名 **一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | **演劇** | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

次世代プロデューサーを育成し、優れた舞台芸術作品の創作・流通環境を整える。①国際的な学びを提供するプログラム、②エディンバラ・フェスティバル等の国際演劇祭に育成対象者を派遣しピッチイベントを実施 ③国内でも派遣の成果発表を行い、作品流通を促す

活動計画

第I期 （～3年目）	第II期（～5年目）
• 国内外の協力団体との関係を構築 • 海外派遣を中心とした業界交流、人材育成、機会創出のプログラム実施	• 国際的な連携の強化および、より効果的な育成プログラムの確立 • 国内で国際交流イベントを開催

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 15名



Michelle Rocha | プロデューサー

“Factory Internationalツアーリング部門責任者。パフォーミングアーツカンパニー『Quarantine』の理事会副議長。前職として、香港の西九文化区管理局でパフォーミングアーツ（音楽およびアウトドア部門）のプロデューサーを務めた



Ric Watts | プロデューサー

Factory Internationalプロデューシング＆プログラム部門のディレクター。隔年開催されるMIF、そして意欲的な国際ツアープログラムのための新作開発チームを指揮。また、チェスターにある劇場・文化団体『Storyhouse』の理事も兼任

主な育成対象者

育成対象者数: 21名



野村 善文 | プロデューサー

舞台美術家としての活動を続ける傍ら通訳・翻訳の活動等も幅広く行い、現在は公益財団法人クマ財団の事務局長を務める



高本 彩恵 | プロデューサー

劇団あはひの制作統括を務め、商業演劇やアートイベントの運営も担当。文化庁事業や講座運営に携わり、2023年にアートマネジメント研修でエディンバラを視察



坂本 もも | プロデューサー

2009年よりロロ、2011年より範宙遊泳に加入して、劇団運営と公演制作を務める。一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク（JPASN）理事



篠崎 勇己 | プロデューサー

東宝で『エリザベート』等を手がけ、TBS移籍後も制作を展開。出資作がトニー賞作品賞を受賞し、米国での作品制作やブロードウェイ出資も展開



風呂 奈津美 | プロデューサー

幼少期を日本、米国、ウィーンで過ごし、慶應義塾大経済学部卒業後、東宝に入社。帝劇営業や契約業務を経て、現在は演劇部国際室で権利交渉や輸出準備を担当



田中 えみり | プロデューサー

フリーの制作として様々な現場にて制作業務を行ったのち、ホリプロに入社。関わった主な作品に、『スクルージ~クリスマス・キャロル~』『市村正親ひとり芝居『市村座』』『ねじまき鳥クロニクル』

採択事業名 **SOIL Fellowship Program**

採択団体名 **一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外展開に向けた基盤整備（1年目）**
  - エディンバラ・フェスティバル・フリンジ（スコットランド）、CINARS（カナダ）の国際的で大規模な舞台芸術祭を視察し、現地関係者との対話を通じて本育成プロジェクトの計画をブラッシュアップするとともに、海外展開支援の具体的なプロセスを調査した
- **育成対象者の選定と機運醸成（1年目）**
  - 育成プロデューサーの募集要項の策定、国内外の専門家による選考を経て、9人の育成対象者（1期生）を決定
  - マンチェスター・インターナショナル・フェスティバル（イギリス）から有識者を招聘し、『INTERNATIONAL PRODUCERS' TRAINING』として国内のプロデューサーを広く募り、集中講義を実施した
- **育成プログラムと制作支援の実施（2年目）**
  - 育成対象者の9件の企画に対し、メンターセッション、ピッチ準備、英語研修、作品紹介資料の整備、翻訳、通訳を含む言語サポートを提供し、海外発信に向けた知識・技能・環境の整備を進めた
- **エディンバラおよびロンドンでのピッチイベント開催（2年目）**
  - 8月のエディンバラ・フェスティバル開催期間中にエディンバラおよびロンドンに育成プロデューサーを派遣し、ピッチイベント『Japan Selection by SOIL』を開催。国際展開を目指す舞台芸術作品を、育成対象者それぞれが海外の劇場関係者やフェスティバルディレクター等に紹介した
- **国内業界への成果還元とノウハウ共有（2年目）**
  - エディンバラおよびロンドン派遣後、東京国際フォーラムでの報告会、アジアで最も影響力のある舞台芸術見本市のひとつであるYPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）でのピッチイベントを実施し、国内の業界関係者へノウハウを共有。あわせて次年度のプロデューサー派遣に向けた育成対象者（2期生）の募集を進めた







今後の活動予定

- **育成の継続と海外発表（3年目）**
  - 2期生への育成プログラムを開始し、8月にエディンバラ・フェスティバル・フリンジでピッチイベントを行う。あわせて韓国、香港、カナダ、シンガポール等も視野に展開先を拡充し、3期生の募集・採択を進める
- **年度事業としての継続実施（4年目）**
  - 3期生に対する国内での育成プログラムとエディンバラでのピッチを継続し、過去3年間で築いた国内外のネットワークを基盤に、資料作成、メンターによる講義、人材派遣、報告会の一連の育成プログラムを年度事業として実施する
- **ネットワーク活用と自走的展開の促進（5年目）**
  - 4期生の育成とエディンバラ派遣を継続しつつ、蓄積したネットワークや知見を活用して、育成プロデューサーによる作品上演の自走や他国フェスティバルへの展開を促進し、広く同事業者へのノウハウ共有を進める

採択事業名 **SOIL Fellowship Program**

採択団体名 **一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■エディンバラ・フェスティバル・フリンジへの参加を通じて、3年目に初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■第1期育成プロデューサーの一人が所属する劇団鹿殺し1Shoulderpad『GALAXY TRAIN -Japanese musical theatre-』が、『Mervyn‘ s Spirit of the Fringe Awards』、Asian Art Awards Show『Highly Commended』をそれぞれ受賞し、長期アウトカムを2件達成

第I期（3年目まで）のプロジェクト設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	30	20	9	達成見込（3年目）	R8年度も新たに8名の育成者を採択予定。R7年度から合計して30名の目標値を達成予定
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	257	276	278	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	13	12	13	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	15	4	6	達成見込（3年目）	R8年度も、R7年度と同じく6件イベントを予定
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	1,000	597	485	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	SOIL Fellowship Program
採択団体名	一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• エディンバラ・フェスティバルとCINARSの視察を通じ、マーケットイベント参画がプレゼンス向上に有効であるという手ごたえを得た • マンチェスター・インターナショナル・フェスティバルの有識者による集中講義で海外知見を習得するとともに、参加プロデューサーが所属する各団体のノウハウの厚みを再認識した • 欧米圏での展開コストが上昇しているという課題を踏まえ、アジア圏での支援ニーズが具体的に顕在化した
2年目終了時点	• 国際的な舞台芸術関係者との接点が形成され、新たな国際企画や共同制作、海外展開に向けた動きが生まれた。国内でも本プロジェクトへの注目度が高まり、育成対象者の応募数の増加が見られるなど、国際展開に対する関心と機運が高まった • 英語でのプレゼンテーション経験がない育成対象者が、育成プログラムにより自身の活動を英語でピッチできるまで成長した

達成した点・成果が認められた点

- 海外の劇場関係者やフェスティバル関係者との具体的な接点を形成し、招聘や共同制作につながる可能性のある関係構築を進めた
- 英語研修等を通じて、国際的な場で作品を紹介するためのスキルを習得する機会を提供した
- 海外のフェスティバル運営者の集中講義により、業界内で知見や経験を共有する機会を創出した
- 海外派遣で得た知見を国内業界へ還元し、プラットフォーム形成の基礎を築いた





今後の取組において期待される点

- 海外での上演や共同制作の実現に必要とされる中長期的な関係構築のため、現地で形成したネットワークを継続的な対話やフォローアップにつなげる仕組みを整備する
- 日本の舞台芸術作品の海外進出ルートを支えるプラットフォームとしての機能を明確化し、商業系から小劇場系まで多様なプロデューサーが相互に学び合える場として発展させる
- 育成対象者の所属や作品規模に応じた支援や情報提供をより個別化し、ニーズに沿って掘り下げられる育成プログラムの設計を強化する

採択事業名 **世界で高い評価を得られる文楽・技芸員（アーティスト）育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 文楽協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

人形浄瑠璃文楽は伝統継承を図る一方で、固定的なファン層以外への広がりに課題があり、観客減少等が懸念されるため、本プロジェクトでは他ジャンルとのコラボや海外公演を通じ、新たなファン層開拓と担い手の世界的評価の向上を目指す

活動計画

第I期（～3年目）

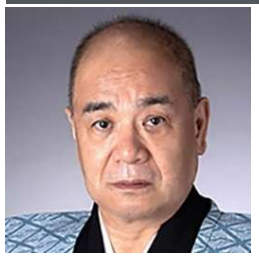
- 新作『まちの灯』を大阪で初演
- 文楽を普及するため古典作品の海外公演を実施するとともに『まちの灯』をプロモーションする
- 新作『どろろ』の制作に向けて脚本家と技芸員が推敲

第II期（～5年目）

- 国内外での文楽公演の実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 5名



豊竹 若太夫｜人形浄瑠璃文楽座太夫
S43年初舞台、R4年切語りに昇格、R6年十一代目豊竹若太夫襲名。H29年JXTG音楽賞邦楽部門受賞、H30年文楽優秀賞受賞、R1年第54回大阪市市民表彰、R4年文化庁長官表彰受賞



桐竹 勘十郎｜人形浄瑠璃文楽座人形遣い
S43年初舞台、H15年三代桐竹勘十郎を襲名。R3年重要無形文化財（人間国宝）に認定、R7年日本藝術院会員。H20年3 芸術選奨文部科学大臣賞、同年紫綬褒章受賞。H31年国立劇場文楽賞文楽大賞受賞、他受賞多数

主な育成対象者

育成対象者数: 9名



豊竹 希太夫｜人形浄瑠璃文楽座太夫
H16年初舞台。H31年文楽協会賞、R3年国立劇場文楽賞文楽奨励賞受賞、同年大阪文化祭賞奨励賞。



鶴澤 清志郎｜人形浄瑠璃文楽座三味線弾き
H6年初舞台。H16年、17年国立劇場文楽賞奨励賞、H25年大阪文化祭賞グランプリ、H28年咲くやこの花賞受賞。



豊竹 亘太夫｜人形浄瑠璃文楽座　太夫
H23年初舞台。



鶴澤 友之助｜人形浄瑠璃文楽座三味線弾き
H14年初舞台。H27年国立劇場文楽賞文楽奨励賞受賞。H28年文楽協会賞受賞

採択事業名 **世界で高い評価を得られる文楽・技芸員（アーティスト）育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 文楽協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **新作文楽『まちの灯』、マンガ作品を題材とした新作『どろろ』の制作準備（1~2年目）**
  - ➢ 『まちの灯』では脚本家をはじめとする各部署の関係者と細かく打合せを行いを台本作成。文楽の語りに合わせた修正や育成対象者による作曲を進めた。『どろろ』では脚本執筆、作曲、人形や舞台構想の検討を進めた
- **ロンドン公演に向けた準備と連携形成（1~2年目）**
  - ➢ 現地コーディネーターと共にイギリスでの訴求可能性の調査を進め、ロンドン大学の一部であるSOAS（School of Oriental and African Studies）および外務省設置の対外発信拠点ジャパン・ハウス・ロンドンと調整し、育成対象者を中心に公演日程・演目・出演者を決定した
- **『まちの灯』国内試演によるプロモーションと検証（2年目）**
  - ➢ 『まちの灯』は国立文楽劇場小ホールで関係者向け試演会を実施し、上演に向けた検証と調整を行った。また、新たなファン層を開拓するため国内向けプロモーションを行った
- **異分野クリエイターとの協働による創作プロセスの展開（2年目）**
  - ➢ 『どろろ』ではベルギーの世界的振付家・演出家であるシディ・ラルビ・シェルカウイ氏を招聘し、太夫、三味線、人形遣い、舞台技術者らが参加するワークショップを実施。異分野のクリエイターとの創作に向け、文楽人形の表現可能性や舞台構想を検証した







今後の活動予定

- **『まちの灯』初演（3年目）**
  - ➢ 7~8月に国立文楽劇場での『Bunraku Summer Festival』において『まちの灯』を初演する
- **文楽ロンドン公演の実施（3年目）**
  - ➢ 9月にロンドンで古典作品やワークショップを組み合わせた海外公演を実施する
- **『どろろ』初演に向けた本格制作（4~5年目）**
  - ➢ 台本完成、舞台美術の方針の決定、試演、デモテープ作成、人形の動きや演出プランの具体化を進め、大阪での初演を目指す。さらに手塚治虫生誕100年に合わせた東京上演にもつなげる
- **『まちの灯』の再演と海外展開の継続（4~5年目）**
  - ➢ 3年目に実施する『まちの灯』初演や文楽ロンドン公演の成果を踏まえ、国内外での継続的な再演機会の獲得を目指す

採択事業名 **世界で高い評価を得られる文楽・技芸員（アーティスト）育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 文楽協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 国内外公演を通じて、初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 3年目のロンドンでの上演等を実現させることで、長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	9	3	9	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	5	3	7	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	5	1	2	達成見込（３年目）	R8年度は、チャップリン家の招聘など、計5名の関与を見込んでいる
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	23	0	1	達成見込（３年目）	R8年度は、Bunraku Summer Festival21回、ロンドン公演2回の実施を予定している
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	4,800	0	0	達成見込（３年目）	R8年度のBunraku Summer Festivalは4,600人、ロンドン公演は200人の動員を想定している

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **世界で高い評価を得られる文楽・技芸員（アーティスト）育成プロジェクト**

採択団体名 **公益財団法人 文楽協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

１年目終了時点	• 文楽関係者以外との協働においては、古典芸能特有の前提や慣習を伝える難しさを感じつつ、新たな魅力創出の可能性を発見できた
２年目終了時点	• 作品制作を通じ、育成対象の技芸員や制作者が企画段階から参加することで、スタッフは出演者の視点を得る一方、技芸員は制作ノウハウを学ぶ機会となり、相互理解が進んだ • 文楽関係者以外との協働を通じて、古典芸能特有の前提や慣習を相対化し、新たな魅力創出や改善の可能性を見出す意識が高まった

達成した点・成果が認められた点

- 脚本、作曲、補綴、試演会など新作創作の初期工程を通じて、育成対象者が通常公演では得にくい創作・制作側の経験を積んだ
- 外国人演出家との協働では、古典にとどまらない作曲視点や人形表現の可能性を検証し、創作の幅を広げた。また、育成対象の制作者は海外公演特有の物流、渡航、現地調整の実務を学び、具体的な公演実施体制を整えた





今後の取組において期待される点

- 技芸員の間で行われる作曲、稽古、補綴等のプロセスを可視化し、育成計画を整備する
- 国内外の関係者が複数関わる事業特性を踏まえ、認識齟齬や連絡遅延を減らすためにオンラインミーティング等を活用しながら制作工程の管理を行い、スムーズな海外展開につなげる
- 3年目以降は、育成対象者が宣伝・広報、人形製作、公演制作業務に相互に協力して創作する過程を通じて、公演全体のプロセスを学ぶ機会とし、広い視野を獲得する

採択事業名 **歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成**

採択団体名 **松竹 株式会社**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

歌舞伎の認知向上と海外展開の推進に向け、鑑賞教室や海外ショーケース、坂東玉三郎監修によるワークショップ、英語字幕付きコンテンツの配信等の多様な制作事業を実施し、次世代を担うプロデューサーや若手俳優の育成に取り組む

活動計画

第I期 （～3年目）

- 歌舞伎解説を交えた舞踊ショーケース公演を海外で実施
- 京都南座の『歌舞伎鑑賞教室』の実施
- 歌舞伎公演の英語字幕付き配信の実施

第II期（～5年目）

- 歌舞伎公演配信を通じた海外向けプロモーションの継続
- 海外での歌舞伎ショーケースの拡大

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 6名



藤間勘十郎｜歌舞伎振付師

宗家藤間流現宗家 。2002年八世藤間勘十郎を襲名、翌年に芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞。歌舞伎舞踊の振付以外にもオペラや『超歌舞伎』などの舞台演出も手掛ける。海外公演も積極的に行い、国内外に歌舞伎、日本舞踊の魅力を発信する

主な育成対象者

育成対象者数: 10名

No image

藤巻 詩織｜プロデューサー・事務局

シネマ歌舞伎、配信事業等歌舞伎の映像コンテンツに関わる事業に従事。2024年より海外配信の宣伝をきっかけに、歌舞伎の海外展開に携わる

No image

渡邉 絢子｜プロデューサー・事務局

以前は、外務省にて広報文化事業に従事。入社後はシネマ歌舞伎の宣伝業務や海外上映に携わり、2024年より歌舞伎の海外展開に携わる

No image

出口 優夏｜プロデューサー・事務局

2023年より松竹の体験型エンタメ事業に従事。2025年に演劇本部に異動後、歌舞伎関連事業の製作・マーケティングを担当し、歌舞伎の海外展開に携わる

No image

阿部 尚子｜プロデューサー・事務局

語学留学の経験もあり、松竹新喜劇等の演劇公演から南座『歌舞伎鑑賞教室』の歌舞伎公演まで幅広く制作業務に従事

No image

織田 成一郎｜プロデューサー・事務局

『歌舞伎鑑賞教室』ではインバウンドのお客様でも楽しめるよう英語音声ガイドの導入に奔走し、同時解説のアナウンス原稿も手掛ける

No image

角張 真美｜プロデューサー・事務局

2019年より松竹直営劇場以外の公演における団体販売営業を担当。2024年よりインバウンド獲得に向けた社内プロジェクトチームに参加し、イン＆アウトバウンド双方へ向けた施策を推進する

採択事業名 **歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成**

採択団体名 **松竹 株式会社**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外展開に向けた基盤整備（1~2年目）**
  - ロンドンでのワークショップ実施に向けてオックスフォード大学アシュモレアン美術館との調整を進めるとともに、海外ショーケース実現に向けて各国の在外大使館や民間団体への提案を積極的に行った
- **国内向け鑑賞教室の改善とインバウンド対応強化（1~2年目）**
  - 京都南座「歌舞伎鑑賞教室」では、育成対象者を中心として、英語表記の拡充、公演時間の最適化、演目選定、英語音声ガイドを同時通訳にするなど、海外顧客のニーズに対応した細かな改善を積み重ねた
- **フェスティバル出展と市場調査の実施（1~2年目）**
  - イギリス最大の日本文化総合博覧会『HYPER JAPAN』（ロンドン）へ歌舞伎ブースを出展。衣裳の着用体験や隈取ペインティングなど、育成対象者が企画制作を進め、ブース満足度は97%となった。同時に在英大使館等からの協力を得て現地の日系団体、劇場関係者などとネットワーキングを実施。今後の海外展開につながる足掛かりを形成した
- **韓国公演の実施（1~2年目）**
  - 韓国・全州大学での「日韓伝統芸術祭」では韓国の伝統芸能パンソリと歌舞伎のレクチャーを行うことで両国の文化を紹介。現地学生を中心に認知向上を図った。育成対象者は本公演の実践で交通宿泊の手配、衣裳や道具の輸送、広報業務などを総合的に経験し、3年目の「女方ができるまで」欧州公演に向けたノウハウの蓄積を行った







今後の活動予定

- **欧州・米国での歌舞伎ショーケース実施（3年目）**
  - 4月にパリ、ローマ、ケルンで「女方ができるまで」欧州3都市公演を行う。さらにロンドン、オックスフォード、ニューヨーク等での公演実施に向けた準備・調整を進める
- **海外拠点形成と公演準備の本格化（4年目）**
  - パリ、ロンドン、シンガポール、タイ、LA等を中心に上演会場やPR会社を選定。契約締結、現地下見、マーケティング準備、在外公館や媒体との関係構築を進める
- **海外公演本番と周辺事業の展開（5年目）**
  - 制作発表、現地メディア向けプレスツアー、道具輸送、稽古、ゲネプロを経て海外公演を実施し、日本を含む各国への配信、公館レセプション、周辺事業まで含めて展開する

採択事業名 **歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成**

採択団体名 **松竹 株式会社**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績　定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■『HYPER JAPAN』でのブース出展、『日韓伝統芸術祭』、『女方ができるまで』欧州公演により、3年目に初期アウトカム達成する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 3年目以降の歌舞伎ショーケースの実施によって長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	8	8	8	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	7	0	22	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	10	0	10	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	43	0	22	達成見込（３年目）	R8年度は、『歌舞伎鑑賞教室』、坂東玉三郎監修WS、海外ショーケース『女方ができるまで』を国内および海外5カ国、計30回公演予定
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	40,000	0	63,790	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **歌舞伎の海外展開を目指したクリエイター育成**

採択団体名 **松竹 株式会社**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• インバウンド需要の拡大で国内公演の集客も右肩上がりに推移しており、歌舞伎の魅力と認知度をさらに高めるため、海外向け情報発信の拡充とそのための人材育成の取組が必要だと認識した
2年目終了時点	• 海外各国の劇場や日系企業、文化団体との関係構築が進展し、3年目の公演実施を見据えた体制整備が進んだ • 社内でもグローバル展開を推進する機運が高まり、海外展開を特定部署だけでなく組織的に担う意識が強まった • 育成対象者は海外公演実施に必要な一連の流れを把握でき、次年度以降の円滑な公演制作につなげた

達成した点・成果が認められた点

- 南座『歌舞伎鑑賞教室』では、これまでのインバウンド向けの施策を改良し、海外観客への訴求力を高めるノウハウを蓄積した
- 『HYPER JAPAN』への出展、『日韓伝統芸術祭』、『女方ができるまで』欧州公演の準備を通じて、育成対象者が現地劇場との調整、下見、物流・渡航手配、資料作成などを経験し、組織内でのノウハウ共有も進んだ
- 育成対象者（プロデューサー）は海外公演実施の流れを実践的に学ぶことができ、関係者の信頼を得ながら制作を進められるようになった





今後の取組において期待される点

- 海外企業や劇場との協働・交渉機会をさらに増やし、英語対応にとどまらない国際実務人材としての育成を一段と進める
- 地域や文化条件に応じた演目選定、企画対応力を育てることで、海外展開を担うプロデューサー人材の自律性を高める
- 特定の劇場やプロモーターへの依存を超えて、育成対象者自身が継続的に新たな海外市場や展開先を開拓できる交渉力・関係構築力を養う
- 実践を通じて獲得したノウハウを組織内で共有・継承し、歌舞伎の海外展開を支える制作人材層を厚くしていく

採択事業名

日本音楽の魅力発信プロジェクト
−和の文化活動を通じた若手育成−

採択団体名

特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | **伝統芸能 大衆芸能** | **補助型**
舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

日本音楽の魅力を国内外に発信。若手に国際的な活動機会を提供し、伝統的な日本音楽の演奏技術の継承と発展を図る。育成対象者を『三曲（箏・三味線・尺八）』『雅楽』『邦楽アンサンブル』『広報制作』のチームに分け、それぞれの課題や事情にあったさまざまな日本音楽に係る事業の実施により、業界全体の活性化を図る

活動計画

第I期 （〜3年目）

- 『三曲（箏・三味線・尺八等）』のパリ公演等の実施
- 『雅楽』の演奏家を東南アジアへ派遣しホーチミン公演等実施

第II期（〜5年目）

- 北米とヨーロッパ地域等も視野に入れた公演を実施
- 日本の伝統音楽の様々な魅力を紹介できるよう事前広報と成果報告を実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 29名



徳丸 吉彦 | 音楽学者
音楽記号学、民族音楽学研究。瑞宝中綬章受章。ベトナム政府より文化戦士賞、国際音楽学会よりG.アードラー賞他受賞多数



米川 敏子 | 演奏家（生田流箏曲）
人間国宝の初代米川敏子に師事し、地歌・箏曲の演奏家として国内外で活躍。研箏会五代家元、くらしき作陽大学特任教授。文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、文化庁芸術祭優秀賞、紫綬褒章、日本芸術院賞、旭日小綬章等受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 31名



黒田 鈴尊 | 演奏家（琴古流尺八）
文化庁文化交流使。国際尺八コンクール2018 in ロンドン優勝、利根英法記念あいおい全国邦楽コンクール1位、くまもと全国邦楽コンクール優秀賞等の受賞歴



〆野 護元 | 演奏家（龍笛ほか）
東京藝術大学卒業。NHK『ニッポンの芸能』、東儀秀樹コンサート他、国内外で公演。安宅賞、アカンサス音楽賞、同声会新人賞の各賞を受賞



宮森 庸輔 | プロデューサー・映像作家
写真家、映像、録音編集者として幅広く活躍する。写真と音楽の公演プロデュースや現代音楽と映像を独自の視点で表現しアーティストからの信頼も厚い



平田 紀子 | 演奏家（生田流箏曲）
宮城道雄記念コンクール、賢順記念全国箏曲コンクール賢順賞1位、利根英法記念あいおい全国邦楽コンクール最優秀賞等の受賞歴。東京藝術大学非常勤講師



伊﨑善之 | 演奏家（龍笛ほか）
東京藝術大学卒業。古典はもとより、映画やゲーム等多様なジャンルのレコーディングも参加。幅広い演奏活動を展開している

採択事業名 **日本音楽の魅力発信プロジェクト**
−和の文化活動を通じた若手育成−

採択団体名 **特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国内外の関係者との交流（1年目~）**
  - ➢ 次年度以降の事業推進に係るネットワークを構築した
- **講習会、ワークショップの実施（1年目~）**
  - ➢ 『三曲』、『雅楽』、『邦楽アンサンブル』の各チームに対し講習会を2回ずつ、国内外で活躍する演奏者やプロデューサー等を集めて実施した。『雅楽』チームは茨城大学でワークショップを開催した
- **講習会やワークショップ内容の発信（1年目~）**
  - ➢ 育成対象者のさまざまな活動状況を知っていただくため、公演での成果発表だけでなく、講習会やワークショップの内容を写真映像により記録し、ウェブを通じた発信を実施した
- **国内公演の実施（2年目）**
  - ➢ 『三曲』、『雅楽』、『邦楽アンサンブル』の各チームが、海外での実施を想定したプログラムを国内で公演した。これにより上演の方法や演奏のバランスなどを点検し、海外実施にむけて軌道修正のポイントを確認した。これら各公演と、３チーム合同の演奏会を通じて技量向上と作品理解の深化を図った
- **海外公演とプロモーション素材の整備（2年目）**
  - ➢ ベトナム・ホーチミンで『雅楽』チームの公演を実施。また、育成対象者である『広報制作』チームが国内外公演の制作や映像・写真の撮影編集を行い、海外へのプロモーション素材として活用できる発信基盤を整えた







今後の活動予定

- **海外公演の実施（3、5年目）**
  - ➢ 『三曲』はフランスやドイツで上演。『雅楽』はインドネシア・ジョグジャカルタを中心とした展開を計画する
- **報告会と情報交流による成果集約（4年目）**
  - ➢ ここまで国内外で展開してきた各プロジェクトの成果を国内で報告会や情報交流の形で集約し、観客反応やメディアでの受け止めも分析しながら事業成果を共有する
- **若手主導による国内外展開の拡張（5年目）**
  - ➢ 育成した若手クリエイターが牽引役となってヨーロッパ、カナダ等も視野に入れた公演や共同制作を展開する
- **ネットワークの構築と活用（5年目）**
  - ➢ 形成したネットワークの活用を通じて、若手クリエイターによる継続的な事業展開と日本音楽の需要拡大につながる体制づくりを進める

採択事業名 **日本音楽の魅力発信プロジェクト**
−和の文化活動を通じた若手育成−

採択団体名 **特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 各都市の海外公演を通じて、3年目に初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 3年目の海外公演や構築したネットワークを活用し、国際的に認知されている芸術祭や文化施設にて公演を行うことで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	29	29	30	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	10	2	39	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	19	5	14	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	16	1	9	達成見込（３年目）	R8年度より本格化する海外公演（9月以降のフランス・ドイツ公演、インドネシア公演）も加え国内外19公演を予定
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	3,500	353	810	未達見込	R8年度の海外公演が一部中止となったが、フランス・ドイツ公演で700名、インドネシアで400名の入場者予定の公演を実施する
⑥映像アーカイヴ配信における視聴者数	2,000	547	1,329	達成見込（３年目）	R8年度に本格化する海外公演の配信を予定していることから達成が見込まれる

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	日本音楽の魅力発信プロジェクト −和の文化活動を通じた若手育成−
採択団体名	特定非営利活動法人 日本音楽国際交流会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目 終了時点	• 育成対象者は講習会を通じてプロジェクトの意義・海外活動のノウハウを学び、チームの一体感を育んだ
2年目 終了時点	• 育成対象者は、日本音楽を外国人にどう紹介するかを具体的に学び、海外公演に向けた経験値と意識を高めた。指導者の実技指導により、古典曲・現代曲の双方で演奏の上達も見られ、伴走型育成の有効性を実感できた • 団体は、定期的なミーティングを通じて『広報制作』チームの育成対象者とも情報共有しながら事業を進める体制を維持した

達成した点・成果が認められた点

- 海外公演では育成対象者が外国人を相手に日本音楽を紹介する実践経験を積み、現地音楽家との交流や楽器運搬・管理を通じて海外公演に必要な実務を学んだ
- 国内公演では、海外公演予定曲を軸にしたプログラムを編成し、表現力を向上した
- 『広報制作』チームは、制作、記録、SNS発信、チラシ・プログラム制作など広報全般の経験を重ねた





今後の取組において期待される点

- 海外公演の集客強化に向けて、SNS・ウェブを含むプロモーション手法を継続的に改善する
- 『三曲』チームのパリ公演では、日本の古典音楽や楽器を上演するに不向きな欧州会場の残響を想定した演奏バランスの調整のため、海外公演の経験豊富な実演家の助言を取り入れる。獲得したノウハウを分野の知見となるよう共有していく。『雅楽』チームは、古典曲・復元曲・現代曲それぞれに応じた合奏力と表現の練り上げを深め、幅広い曲趣を演奏できる演奏家の増強としていく。これらを通じて、日本固有の音楽の海外展開に向けた基盤強化につなげる

採択事業名 **舞台芸術海外コーディネーター育成事業**

採択団体名 **公益社団法人 全国公立文化施設協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

舞台芸術作品の海外展開を目指し、全国から公募・選出した劇場職員やフリーランスの制作者を育成。研修や交流を重ね、舞台芸術見本市に作品を出展し招聘・巡回を推進。海外で継続的に紹介・流通させる永続的な支援体制を構築する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 育成対象者を海外見本市に派遣し、研修を実施
- 文化施設や芸術団体と連携し、見本市等へ出展、プレゼンテーションの実施
- アドバイザー等による講座の実施

第II期（～5年目）

- 作品の海外見本市等への出展、上演
- フェスティバルや劇場巡回の支援
- 評価と分析の実施
- 成果報告会の実施、報告書の作成

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



丸岡ひろみ｜東京芸術劇場事業企画課事業担当課長／東京舞台芸術祭事務次局長

1991年より特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センターに勤め2011年に理事長就任。2003~2004年、文化庁新進芸術家海外研修制度によりニューヨークで研修。横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）の前身である芸術見本市、東京芸術見本市（TPAM）に1995年の初回よりスタッフとして従事し、2005年にYPAMディレクターに就任し、2026年3月まで務める。R6年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞



橋本 裕介｜ベルリン芸術祭 パフォーミングアーツシーズン 芸術監督

2010年にKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭を創設し、プログラムディレクターを務め、ロームシアター京都のプログラムディレクターも歴任。2021年3月から1年間、文化庁新進芸術家海外研修制度の研修員としてニューヨークに滞在し、舞台芸術の資金調達についてリサーチを行う。2022年9月よりベルリン芸術祭に勤務。ヘッド・ドラマトゥルクを経て現職

主な育成対象者

育成対象者数: 10名

大橋　玲｜穂の国とよはし芸術劇場PLAT事業制作部　制作

幼少期、中東で過ごした経験をもとに演劇教育に関心を持つ、2015年より現職。プロデュース公演制作、教育普及、人材育成、広報、施設管理などを幅広く担当

小川 恵祐｜沖縄アーツカウンシル／ 舞台芸術制作者

2017～2022年、南城市文化センターシュガーホールにて音楽公演・ワークショップの企画制作や教育事業等を担当。2022年より現職。2024年より沖縄伝統組踊『子の会』事務局

荻原 文子｜彩の国さいたま芸術劇場　制作

一橋大学社会学部（文化人類学）を卒業後、制作会社にて海外ツアーのコーディネート等を担当。2016年から現職。主にコンテンポラリーダンス公演の企画・制作を担当

キャメロン 瀬藤 謙友｜扇町ミュージアムキューブ

神戸大学演劇研究会に所属し関西小劇場で舞台監督、演出助手等を経験。2022年よりシアターワークショップに入社し、扇町ミュージアムキューブにて従事

小沼 知子｜プロデューサー

公共劇場に約18年間所属し、演劇・舞踊を中心に多様なジャンル・規模の舞台作品の立案から制作全般を手がける。2024年4月よりインディペンデント・プロデューサー

寺田 貴美子｜京都市北文化会館／（公財）京都市音楽芸術文化振興財団　制作

プロダンサーとしてのキャリアを経て、都内フェスティバル・劇場で舞台芸術分野に携わる。2014年ロームシアター京都に入職。施設管理や事業企画など劇場全般の運営に関わる

前原 拓也｜SPAC－静岡県舞台芸術センター　制作

舞台制作、ドラマトゥルク、翻訳家。2022年より文化庁新進芸術家海外研修制度により2年間ミュンヘンに滞在。2025年より現職。これまで様々な作品のドラマトゥルクを担当

山浦 日紗子｜La forêt（ラ・フォレ）　プロデューサー

国際映画祭・見本市等の事務局を経て、高知県立美術館で舞台芸術の企画制作に従事。2020年にLa forêtを設立し、芸術文化・国際交流事業を展開している

山口 遥子｜下北沢国際人形劇祭　企画統括

人形劇研究者。博士（美術）。人形劇分野の国際的活動を支援するNPO法人Deku Art Forum 理事長。下北沢国際人形劇祭では企画統括を務める。JSPS海外特別研究員

吉田 一弥｜株式会社 DEZAR　照明デザイナー/コーディネーター

照明家吉本有輝子氏に師事。京都大学在学中より小劇場運営や国内外での舞台照明デザインを手がける。2020年度日本照明家協会新人賞、2024年度同奨励賞を受賞

採択事業名 **舞台芸術海外コーディネーター育成事業**

採択団体名 **公益社団法人 全国公立文化施設協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **育成対象者の公募・選抜（1年目）**
  - ➢ 全国の劇場施設、芸術団体、フリーランスの制作者等から10名の育成対象者を選出し、継続して育成する体制を整えた
- **海外フェスティバル等への研修派遣（1~2年目）**
  - ➢ 本プロジェクトの運営にあたってアジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームとして認知されているYPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング） と連携関係を結び、その幅広い知見に基づき派遣先を選定。1年目はCINARS（カナダ）、Asia TOPA（オーストラリア）、BIPAM（タイ）の見本市・フェスティバルにそれぞれ育成対象者を派遣。2年目はKUNSTENFESTIVALDESARTS（ベルギー）、Montpellier Danse（フランス）、PAMS（韓国）等、1年目より範囲を広げて各国の舞台芸術界の状況把握をするとともに、作品のプレゼンテーションを実施し、プロデューサー、ディレクター等とのネットワーキングを進めた
- **YPAMでの関係者交流と報告会開催（1~2年目）**
  - ➢ YPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）では育成対象者は公演やショーケースの視察を実施。同時に自身の活動をプレゼンテーションし、相互交流を図った。また、海外見本市での研修の報告会を開催し、各国から集まったフェスティバルのディレクターやプロデューサーと意見交換、アドバイスを受けることで3年目以降の出展や上演に向けて精度を高めた
- **海外見本市・フェスティバル出展に向けた調整（2年目）**
  - ➢ 1~2年目の実績を踏まえ、3年目以降の見本市等への参加に向けた調整を進め、国内の芸術団体等との合同日本ブースの出展やショーケース実施の準備を行った







今後の活動予定

- **海外出展・ショーケース公演の展開（3年目）**
  - ➢ 複数の舞台芸術見本市・フェスティバルでのショーケース公演の他、CINARS（カナダ）やPAMS（韓国）を中心に合同日本ブースの出展やネットワーキング、プレゼンテーション等の実践を通じて、育成対象者が国際的なネットワーク形成や作品紹介の手法を習得する機会を創出する
- **出展作品の評価・分析と海外展開支援（3~5年目）**
  - ➢ 毎年、舞台芸術見本市・フェスティバルへの出展・参加の評価と分析を行い、他フェスティバルへの展開、巡回公演、共同制作や委嘱制作につなげられるよう支援を継続する
- **プロジェクト全体の評価・分析、知見の共有（3、5年目）**
  - ➢ 国内での成果報告会の実施、報告書の作成を通して各取り組みで得た知見と成果を広く共有する
  - ➢ 5年間のPDCA評価を行うとともに、巡回公演や共同制作、委嘱制作を通じて新たなコーディネーターの育成を進める

採択事業名 **舞台芸術海外コーディネーター育成事業**

採択団体名 **公益社団法人 全国公立文化施設協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 舞台芸術見本市やフェスティバルでのショーケース公演を通じて3年目に初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本事業を通じて習得したノウハウを活用し、日本の舞台芸術作品を国際的に認知されている芸術祭や文化施設に紹介・流通させることで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	10	10	10	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	20	6	14	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	20	3	8	達成見込（３年目）	R8年度は対象者10人のネットワークにより20人の関与を見込む
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	5	2	5	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	-	-	-	-	見本市やフェスティバルへの出展・プレゼンテーションで参加する事業で入場者が流動的であるため該当しない
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	4	0	3	達成見込（３年目）	R8年度はCINARS、PAMS等での公式イベント発信により4件の掲載を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **舞台芸術海外コーディネーター育成事業**

採択団体名 **公益社団法人 全国公立文化施設協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 海外の舞台芸術見本市に参加することで、関係者との交流を通じて舞台芸術作品の流通・展開の仕組みや必要な情報提供の方法・ネットワーク構築について体験的に学習し、認識を深めることができた
2年目終了時点	• 海外研修や講座を通じて、見本市やフェスティバルの関係者から、コーディネーターの具体的役割について実践的な視野を得た • 海外研修で得た人脈を起点に協働機会が生まれ、国内公演におけるプロデューサー的役割から国際的なコーディネーターへ認知が拡大した

達成した点・成果が認められた点

- 海外研修やプレゼンテーションの機会を通じて、各国の舞台芸術界の状況把握と関係者との多層的なネットワーク構築ができた
- 講座研修や育成対象者間の交流、報告会の実施などにより、国際的なコーディネーターとしての視野を習得。作品の海外展開に向けた具体的な手続き等を理解したうえで3年目以降の準備を進めることができた
- 海外フェスティバルでのショーケース上演枠への応募やプレゼンテーションの実施により、長期展開を見据えた実践的な経験を積むことができた





今後の取組において期待される点

- 海外での展開を計画する国内アーティストとの連携を構築し、コーディネーターとしての実践機会を増やす
- ショーケースや公演を実施し、将来の巡回公演や共同制作につながる具体的商談機会とする
- 巡回公演に向けた契約締結から上演までの全体を見据えた育成プログラムを強化し、継続的な支援体制を設計する

採択事業名 **グローバル・アニメ・チャレンジ**

採択団体名 **株式会社 キネマシトラス**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | **メディア芸術** | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

今後さらなる活躍が期待される若手人材を選出し、国内外の状況を踏まえたアニメ制作や企画・宣伝、リーダーシップ等を学ぶ場を提供。海外のアニメ制作会社でのインターン実施後、パイロットフィルムを制作し、国内外での発表の場を設ける

活動計画

第I期 （～3年目）

- 派遣前教育訓練の実施
- 海外の有力アニメ制作会社でインターンを経験
- パイロットフィルムを企画開発し、海外アニメ映画祭に出展

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



数土 直志 | ジャーナリスト

『日本のアニメ監督はいかにして世界へ打って出たのか？』『誰がこれからのアニメをつくるのか？』の著者。世界と日本のアニメ事情に精通



菊池 剛 | 株式会社KADOKAWA執行役

2023年(株)KADOKAWA執行役Chief Anime Officer (CAO)就任。2024年KADOKAWAアニメ・声優アカデミーpowered by VANTAN教育顧問就任。2025年Chief Studio Officer (CSO) 兼スタジオ事業局 局長就任

主な育成対象者

育成対象者数: 11名



篠原 啓輔 | 監督

『弱虫ペダル』で制作進行を担当。2015年以降、絵コンテと演出をいくつかの作品で担当。監督作は『BLACKFOX』『その着せ替え人形は恋をする』等



木村 誠 | プロデューサー

〝ノイタミナ〟、ツインエンジンにてプロデューサーを担当。MAPPAにてアニメプロデューサーの他、ファイナンス、ライセンスビジネス等をはじめとしたライツ事業全般を統括。2024年、BLUE RIGHTS創業



中目 貴史 | プロデューサー

数々の作品の制作進行からプロデューサーまで幅広く担当。斎藤圭一郎監督『葬送のフリーレン』のアニメーションプロデューサー



小出 卓史 | 監督

2014年にキネマシトラスに入社。『Under The Dog』、『盾の勇者の成り上がり』等の作品にアニメーターとして参加。2026年5月にオリジナルアニメ『さよならララ』監督として、パイロットフィルムを公開



山本 ゆうすけ | 監督

動画工房にて動画、原画、作画監督等を担当後フリーランスに。『ワンダーエッグ・プライオリティ』にて初演出。『推しの子』『劇場総集編ぼっち・ざ・ろっく！Re:』にてOPディレクターを担当



斎藤 圭一郎 | 監督

『ACCA13区監察課 Regards』で初監督、『ぼっち・ざ・ろっく！』『葬送のフリーレン』でTVシリーズ監督を担当。最新作は『劇場総集編ぼっち・ざ・ろっく！Re:』

採択事業名 **グローバル・アニメ・チャレンジ**

採択団体名 **株式会社 キネマシトラス**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **育成対象者の募集・選定と公表（1年目~）**
  - 8~10月に育成対象者を募集・選定し、11月に6名の育成対象者をウェブサイトで公表した
- **派遣前教育訓練の実施（1年目~）**
  - 有識者によるワークショップを毎月1回、英語のマンツーマンレッスンも各自毎週1回実施した
- **国際映画祭への参加（1年目~）**
  - 新潟国際アニメーション映画祭に参加し、海外アニメや国際映画祭への理解を深める機会を得た
- **海外アニメ制作会社への派遣（2年目）**
  - Cartoon Saloon（アイルランド）、Ankama、Xilam、Je Suis Bien Content（フランス）等、欧州の有力アニメスタジオに育成対象者を1~3か月に渡ってインターンとして派遣し、制作技術やプロモーション方法、国際的な人的ネットワークを会得する機会を提供した
- **パイロットフィルムの企画開発着手（2年目）**
  - 育成対象者各位は、海外研修で得られた知見や指導者からのフィードバックを踏まえ、自身のスキルを掛け合わせたパイロットフィルムの企画開発を進めた







今後の活動予定

- **パイロットフィルムの制作（3年目）**
  - 海外派遣先や指導者等からの講評を踏まえ、パイロットフィルムを企画開発し、完成させる
- **国際映画祭やマーケット等への出展（3年目）**
  - アヌシー国際アニメーション映画祭、TIFFCOM、あいち・なごやインターナショナル・アニメーション・フィルム・フェスティバル（ANIAFF）等に出展し、作品展示、ピッチ、海外企業や製作者とのネットワーキング等を行う
- **第1期の成果発表（3年目）**
  - 第1期生の最終成果発表を行う

採択事業名 グローバル・アニメ・チャレンジ

採択団体名 株式会社 キネマシトラス

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定

実施状況

数値実績 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 3年目の海外アニメ映画祭等への出展を通じて初期アウトカム達成する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 上記の活動に加え、育成対象者が個人的に参加する国際的に著名な芸術祭・コンクール等での受賞により長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	6	6	11	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	7	7	12	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	8	2	17	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	10	0	0	達成見込（３年目）	R8年度にアヌシー国際アニメーション映画祭等にてパイロットフィルム上映やピッチ、展示、上映を計11件の実施を見込む
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	21,000	0	0	達成見込（３年目）	R8年度に育成対象者全11名は、アヌシー国際アニメーション映画祭、ANIAFF等に参加。21,000人の入場を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 グローバル・アニメ・チャレンジ

採択団体名 株式会社 キネマシトラス

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 育成対象者は国際映画祭での交流を通じ英語の重要性を認識し、学習意欲が向上した。また、海外アニメの表現手法に触れることで、新たな表現手法の開発に関心を高めた
2年目終了時点	• 育成対象者は アイルランド や フランス のスタジオでのインターンを通じて、現地のアニメ制作の仕組みを理解し、欧州市場向けの戦略立案の土台を作った。映画祭やインターンを通じて人的ネットワークも広がり、現地関係者と継続的に連絡を取れる関係が形成された • 事務局も制度面の知識を蓄積しており、今後は アヌシー国際アニメーション映画祭等の参加につなげる方針である

達成した点・成果が認められた点

- 日本のアニメビジネスの特徴、海外でのオリジナルアニメ企画開発、国際的なアニメーション映画祭を巡る状況への理解を深めた
- 日本との制作方法の違いや、国際共同製作先・制作資金獲得に向けたピッチの方法について具体的なイメージを得た
- 6名体制で始まった育成対象を、事務局体制の整備により11名へ拡大し、本格支援の対象を広げた





今後の取組において期待される点

- 事務局機能を補強し、今後のパイロットフィルム制作が円滑に進むよう伴走体制と調整機能を整備する
- インターン、研修、ワークショップ、映画祭出展などのプロセス面の学びを可視化し、育成面の成果として丁寧に発信する
- フリーランスの育成対象者が制作協力先を確保できるよう、パイロットフィルム制作を支える制作会社との接続支援を強化する
- 国際的な視野の獲得や海外ピッチ挑戦の経験を、今後の企画開発と海外プロモーションに結びつける支援を継続する

採択事業名 **Manga International Network Team（MINT）**

採択団体名 **一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型

舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

世界的に大きなマンガ市場を持つ米国を中心とした北米をターゲットとし、①選抜したマンガ家の海外進出に向けた育成、②国内のマンガ家・編集者への講義の提供、③日本のマンガの多様性の紹介を行う

活動計画

第I期 （～3年目）

- 国内外アドバイザーによる講義・面談を通じた育成プログラムの実施
- 北米のマンガ関連イベント登壇、展示会・ワークショップの開催
- 成果発表会やシンポジウムの開催

第II期（～5年目）

- 北米以外のエリア（欧州やアジア）への展開についてのリサーチ
- 日本マンガの海外展開を自立的に推進できるコーディネーターの育成準備

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



デボラ・アオキ｜マンガ評論家・編集者
アニメ・マンガ情報発信ウェブサイトや、米情報誌にてマンガのレビューやインタビュー記事を執筆するほか、日本のマンガを紹介する週刊ポッドキャスト番組「Mangasplaining」の共同ホストを務める



クリストファー・ウッドロー・ブッチャー｜編集者・評論家
日本のマンガ・アニメの翻訳出版を手掛ける米企業や講談社等と協働して日本マンガの翻訳出版に携わる。週刊ポッドキャスト番組「Mangasplaining」ではデボラ・アオキと共同ホストを務める

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



御前 モカ｜マンガ家
実体験に基づくCAお仕事マンガ『CREWでございます！』で2015年マンガ家デビュー。2023年より秋田書店ウェブサイトにて、『おはよう、おやすみ、また明日。』の連載開始



かつしか けいた｜マンガ家・イラストレーター
イラストレーターとして雑誌や書籍装画等も制作。2022年よりトゥーヴァージンズのウェブコミックメディア「路草」にて『東東京区区』の連載をスタート。現在はリイド社トーチWebにて連載中



川勝 徳重｜マンガ家
『電話・睡眠・音楽』『アントロポセンの犬泥棒』『痩我慢の説』（いずれもリイド社）等、マンガの執筆活動と並行して、マンガ編集、及び評論を発表している



木下 いたる｜マンガ家
恐竜飼育マンガ『ディノサン』（新潮社）連載中。「次にくるマンガ大賞2023」にランクイン、2024 American Manga Awards Best Continuing Manga Seriesにノミネート



小日向 まるこ｜マンガ家・イラストレーター
アニメーションやイラストの仕事を受けながらマンガの執筆を行う。近作に『あかり』（ヒーローズ、2022年）、『アルティストは花を踏まない』（小学館、2019年）等



ばったん｜マンガ家
2016年『にじいろコンプレックス』（講談社）でデビュー。著書に『かけおちガール』『けむたい姉とずるい妹』（いずれも講談社）等。「ウェブアクション」にて『そしてヒロインはいなくなった』連載中

採択事業名 **Manga International Network Team（MINT）**

採択団体名 **一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **北米市場を主軸としたマンガ海外展開モデルの具体化（1~2年目）**
  - 国内講座、個別指導、海外派遣、展示、トーク、大学連携を組み合わせ、日本マンガの北米展開に向けた育成と発信の枠組みを具体化した
- **育成対象者の北米派遣と現地展開（2年目）**
  - 育成対象者4名をロサンゼルス、サンフランシスコ、コロンバスに派遣し、Anime Expo、Cartoon Crossroads Columbusに参加、トークイベントやワークショップ、オハイオ州立大学でのレクチャー等を通じて作品紹介と交流を実施した。CXCの会場の1つでもあった世界有数のコミックアートの学術研究拠点Billy Ireland Cartoon Library & Museumでバックヤード見学を行い、貴重な資料を見る機会を得た
- **展覧会・教育機関連携による多様なマンガの提示（2年目）**
  - 米国で最も歴史のある私立美術大学の一つ、Columbus College of Art & Designで「MANGA・マンガ・漫画: Beyond the Mainstream」展を開催し、日本マンガの多様性を歴史・流通とともに提示した
- **英訳出版・販路開拓への進展（2年目~）**
  - 英訳サンプル合本や海外出版社への提案を通じて、複数作品で英語版出版決定に至るなど、海外展開の実務的成果が生まれた
- **中間報告会・ウェブ発信による知見共有（2年目）**
  - TOKYO RIGHTS MEETING2025で中間報告会を開催したほか、MINT公式サイトやSNSで活動の可視化と国内外への継続的発信を行った







今後の活動予定

- **北米市場での展開継続（3年目）**
  - ニューヨークおよびトロントでトークイベント、コミックコンベンション（Toronto Comic Arts Festival）でのブース出展、ワークショップや展示等を行い、対象作家・作品の認知拡大を図る。このTCAFでのメインポスターを育成対象者のばったん氏が手掛ける
- **英語版出版と国際的賞へのアプローチ強化（3~5年目）**
  - 未英訳作品の出版交渉を継続するとともに、国際的マンガ賞受賞に向けたキーパーソンへの働きかけを進める
- **第Ⅱ期育成対象者と海外コーディネーター育成（4~5年目）**
  - 新たなマンガ家・編集者（ライツ担当者も含む）を選出し、第Ⅰ期の知見を活かした育成を展開する
- **長期継続を前提とした『登竜門』化（5年目以降）**
  - MINTをマンガ家の海外進出を支える継続的な育成・発信基盤として発展させることを目指す



採択事業名 **Manga International Network Team（MINT）**

採択団体名 **一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 2年目以降に参加をするAnime Expo, Cartoon Crossroads ColumbusやToronto Comic Arts Festivalで初期アウトカムを達成する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本事業を通じ、北米のマンガニーズをとらえた育成対象者が、国際的に著名な賞を受賞することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	10	11	12	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	10	8	19	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	5	0	9	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	5	1	14	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	2,500	35	7,583	達成	
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	10	1	13	達成	
⑦海外での翻訳出版点数（点）	2	0	0	達成見込（３年目）	2年目に海外出版社との間で翻訳版の出版が進行中の作品が4作品あり、いずれも3年目に出版予定

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	Manga International Network Team（MINT）
採択団体名	一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

１年目終了時点	• 育成対象者は海外イベントへの派遣や英訳サンプル作成、アドバイザーによる講座の受講により具体的な展開を実感し、北米市場を意識した積極的な発信を試みる対象者も現れた
２年目終了時点	• 育成対象者は、海外進出までのプロセスを理解し、自作を言語化して発信する力や、海外支持層がいるという自信を得た • 団体は、オルタナティブ・マンガにも海外で受容する層が存在することを確認し、多様な日本マンガを提示することの意義と市場開拓の可能性を具体的に認識した • 指導者は、海外出版社ごとの編集方針や市場ニーズを踏まえた連携が、翻訳出版実現の鍵であるとの認識を深めた

達成した点・成果が認められた点

- 作家の個性に応じた派遣先選定、現地発信により、日本マンガの多様性を海外市場に接続した
- 育成対象者が海外での反応を通じて自作の強みや想定読者を捉え直し、創作と発信の両面で視野を広げる契機となった
- 英訳サンプルや伴走支援を通じて、海外出版社との接続を実務的な出版・展開の可能性へ転換する流れが生まれた





今後の取組において期待される点

- 北米への3回の派遣を通じて得られた知見や成果を体系的に整理し、今後のプロモーションや次期育成に活用する
- 海外ファンとのSNS上での継続的な接点や英語での発信を、単発の経験で終わらせず中長期的な海外展開の基盤へとつなげる
- 海外市場に合わせて作品を変えるのではなく、自身の表現の強みを保ちながら届け方を工夫する育成対象者の創作姿勢を定着させる
- マンガ家を直接支援する希少なプログラムとして、第2期以降も継続的な活動が可能となるよう、支援対象や育成回路の拡張を検討する
- 海外展開を担う編集者（ライツ担当者も含む）の育成機能を強化し、個別作家支援を越えた持続的な輸出基盤づくりへ発展させる

採択事業名 **Top Game Creators Academy（TGCA）**

採択団体名 **一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / **メディア芸術** / 現代アート / 分野横断 / **委託型**

事業概要

世界で評価されるオリジナルのゲームIP・コンテンツを創出できる、優れたアイディアと技術力を持つクリエイターを目指し、「伴走支援アドバイザーの支援を受けたゲームの制作」と「ゲームイベントへの出展による世界を目指した活動」の2つを中心にしながら、スキルアップや世界デビューの後押しを目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 実施プログラムの内容検討と入学者の募集・選定、入学式の実施
- 育成対象者との月に1回のミーティング等やその他講義等の実施
- 国内外のゲームショウへの出展やプロクリエイターとの交流実施

第II期（～5年目）

- 第1期生の成果を踏まえた上で、カリキュラムの見直しや連携者との協力体制の強化等を実施
- 海外見本市などで当プロジェクトとしての出展を定着させるなど、プレゼンス向上をめざす

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 35名



日野 晃博｜(株)レベルファイブ代表取締役社長／CEO

『レイトン』シリーズや『妖怪ウォッチ』シリーズ等数々のヒット作を生み出し、ゲーム、アニメ、映画、マンガ等クロスメディア展開の実績を持つ。育成プログラムのプリンシパルとして参加し、参加者の目標となる存在



島守 明広｜(株)カプコン CS 第二開発統括 開発二部 部長

『戦国BASARA』等でプログラマやマネージャーとして活躍し、長く続くIPから新規IPまで幅広く携わった経験を持つ。育成対象者の制作環境や進捗確認を行い、目標達成を伴走支援できる実績とマインドを有する

主な育成対象者

育成対象者数: 20名



煙々創苑｜ゲームクリエイター

リーダーの大塚は福岡のIT人材発掘・育成事業である未踏事業を修了、学生ゲームジャムを運営する等積極的な活動を展開している



達観する電子工房｜ゲームクリエイター

リーダーの木蓮はチーム内でディレクションやプログラミングなどを担当。チームとして学問に親しむツール確立を目指している。ゲームクリエイター甲子園総合賞佳作等の受賞歴を有する



ノンリニア プロジェクト「Near The Sun」｜ゲームクリエイター

リーダーのドッグウッドはプログラム、グラフィック、シナリオなどを担当。ゲームならではのストーリーテリングに力を入れており、ゲームクリエイター甲子園セミファイナル進出の実績を持つ



ぽけそう｜ゲームクリエイター

個人開発で参加。気象を操る2Dシミュレーションゲームを通じて科学実験的な面白さと、人々に良い影響を与える作品づくりを目指す、探究心を持つ



BogosorGames｜ゲームクリエイター

リーダーの金井はディレクター、開発を担当。様々なゲーム開発に携わる一方で、BogosorGamesでのチーム開発も実施中。法人化を視野に入れ継続的なゲーム制作に意欲を持つ



simizu｜ゲームクリエイター

個人開発で参加。物語性を重視して制作している。インディーズにおけるアクション系ホラーの増加、その盛り上げを狙いたいという姿勢が特徴的

採択事業名 **Top Game Creators Academy（TGCA）**

採択団体名 **一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **育成対象者の募集・選定と育成体制の構築（1~2年目）**
  - 公募・審査を経て10組の育成対象者を選定し、専任メンター、スペシャリティアドバイザー、ビジネスアドバイザー等による伴走支援体制を整えた
- **伴走支援と講義を軸にした育成運営（2年目）**
  - 当プロジェクトの入学式を起点に、専任メンターによる定例ミーティングとビジネスアドバイザーによるビジネス講義を実施し、制作管理や海外展開に向けた知識習得を進めた
- **東京ゲームショウ出展による実践機会の創出（2年目）**
  - 東京ゲームショウ2025で作品展示とステージ企画を行い、来場者や業界関係者からのフィードバックを得て改善につなげる機会とした
- **合宿による育成対象者同士の切磋琢磨の機会の創出（2年目）**
  - 東京ゲームショウのフィードバック共有と台北ゲームショウ出展に向けた改善点把握を組み込みながら、クリエイター同士が課題や工夫を共有し、継続して切磋琢磨するための交流機会として機能させた
- **台北ゲームショウ出展と海外交流の実施（2年目）**
  - 台北ゲームショウ2026に10組が全組プレイアブルで出展し、会期4日間で試遊者数3,079名を得るとともに、育成対象者同士の交流機会及び現地クリエイターとの交流機会を設けた
- **第2期に向けた設計検討の開始（2年目）**
  - 第1期の途中成果を踏まえ、採択数、期間、体制、教材化、運営効率化等の観点から第2期設計の検討を進めた







今後の活動予定

- **さらなる知見の習得（3年目）**
  - 国内の最大級ゲーム開発者向け技術カンファレンスCEDECをオンライン視聴にて参加し、プロ中心のカンファレンスをより高い視座で聴講し、さらなるスキル向上を図る
- **国内外の見本市継続出展（3年目）**
  - ドイツ・ケルンで行われるgamescomおよび東京ゲームショウに出展し、2年間の集大成として国際的な発表機会を重ねる
- **当プログラム卒業後フォローアップの実施（3年目以降）**
  - 当プログラム卒業後、3年間のCEDEC受講や開発者パーティ招待、次年度合宿への学生メンター的参加などを想定、継続支援を行う
- **第二期生プログラムの展開（4~5年目）**
  - 第一期生の成果を踏まえつつ、必要に応じて見直しを加えながら、第二期生に同様の育成プログラムを実施する

採択事業名 **Top Game Creators Academy（TGCA）**

採択団体名 **一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 2年目以降の国内外ゲームショウへの出展参加を通じて初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトを通じて習得した知見やスキルを活かし、育成対象者が個人的に参加する国際的に著名なフェスティバル等で受賞することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（組）※1	10	10	10	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	50	46	6	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	10	0	13	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	4	1	2	達成見込（３年目）	R8年度においても8月のgamescom、9月のTGSへの出展を見込む
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	1,000,000	274,739	663,101	達成見込（３年目）	R8年度においても8月のgamescom、9月のTGSへの出展により、計600,000人の入場を見込む
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	50	15	26	達成見込（３年目）	R8年度においても8月のgamescom、9月のTGSへの出展を機に、9件の掲載を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **Top Game Creators Academy（TGCA）**

採択団体名 **一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• ゲーム業界初の人材育成プログラムとして、団体内外で期待感が醸成されている • 事務局や関係者間でより良い支援体制や関与の在り方について積極的に議論を重ねることができている
2年目終了時点	• 海外経験のない若手クリエイター等、出展準備から当日の対応、事後評価までの一連の流れを経験した。定例ミーティングを通じて、個人開発者のスキル向上と制作遂行力の強化につながった • 事務局・関係者側でも、ゲーム業界一丸で行う人材育成の前例が少ない中、どのような支援が有効かを実践を通じて具体的に検証する姿勢が強まった

達成した点・成果が認められた点

- 若手クリエイターが制作、発表、改善を繰り返して成長する実践的な育成サイクルが機能し始めた
- メンターによる継続的な伴走支援を通じて、コンセプトの見直し等、ゲームクリエイターとしてのスキル向上と制作遂行力の強化につながる機会が生まれた
- 大規模かつ国際的なゲームショウへの出展機会を確保したことで、作品認知の向上に加え、自主的な外部出展や受賞、記事掲載など次の展開につながる動きが生まれた





今後の取組において期待される点

- 育成対象期間終了後のクリエイターの活躍や海外展開を継続的に調査し、情報発信と分析を行う
- 業界団体の強みを活かし、個人開発者等のキャリア形成に関する支援をさらに検討する
- 海外の業界団体との折衝を強化し、日本のゲームクリエイターのプレゼンス向上に寄与する

採択事業名 **WAN: Art & Tech Creators Global Network**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / **メディア芸術** / 現代アート / 分野横断 / **委託型**

事業概要

複数名のクリエイターがニューヨークで代表作品の展示やポートフォリオを発表。現地プログラムと連携し、キュレーターやギャラリスト、研究機関等とのネットワーキングを通じ、プレゼン機会を創出し海外進出の基盤を築く

活動計画

第I期 （～3年目）

- 広報のため英語のポートフォリオ・ウェブサイト・SNSの作成
- 現地キュレーター、ギャラリスト等とのネットワーキング
- 現地でのリサーチおよび情報収集とレポートの作成

第II期（～5年目）

- 国内の教育機関等と連携したレクチャー等の実施
- 事業ウェブサイトへの活動レポート等の掲載
- 国内の主要メディアアート施設、芸術祭等との連携、交流

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



エキソニモ｜アーティスト・デュオ
千房けん輔と赤岩やえによるニューヨーク拠点のアーティスト・デュオ。デジタルとアナログを横断する実験的作品を国内外で発表し、広告制作や展覧会企画等多岐にわたる活動を展開している



サロメ・アセガ｜NEW INCディレクター
アーティストであり、NEW INCディレクター。POWRPLNT共同設立者で、Eyebeam等のレジデンスに参加。ムンク美術館やMoMAで展覧会を開催し、多くの著名な団体の理事を務める

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



田中 みゆき｜キュレーター・アクセシビリティ研究・社会福祉士
「障害は世界を捉え直す視点」をテーマに活動。ACC助成を経てNY大学客員研究員としてニューヨーク滞在後、帰国。主な企画に『ルール？展』、著書に『誰のためのアクセシビリティ？』等



宇佐美 奈緒｜アーティスト
ビデオゲーム、映像、パフォーマンスを制作するアーティスト。他者視点の追体験に関心を持ち、3D-CG技術で身体感覚や皮膚感覚を想起させる映像表現を探求する



小宮 りさ 麻吏奈｜アーティスト、アーター、漫画家
クィア的視座から「新しい生殖・繁殖の方法」をテーマに、バイオテクノロジーを軸にパフォーマンス、インスタレーション、漫画など多様なメディアを横断。共同プロジェクトに「繁殖する庭」、著書に『線場のひと』（リイド社）等



木原 共｜メディアアーティスト・ゲーム開発者
「遊び」をテーマに実験的ゲームや都市介入型インスタレーションを制作。S+T+ARTS Prize 2024で受賞。展覧会『Art Plays Game』（2025）等に参加



花形 槙｜アーティスト
パフォーマンス、メディアアート、現代美術を横断し、身体と世界をつなぐテクノロジーを通して〈人間性の捻転〉を探究。プリ・アルスエレクトロニカ2026で作品《 CHIMERIA》がインタラクティブ・アート部門優秀賞受賞



NORI｜NEORT株式会社 取締役・NEORT++ ディレクター・コネクター
コンピュータアートギャラリーNEORTでマーケティング・PRを統括。企業・コレクター・アーティストをつなぎ、新たな認知の創出を支援。SBINFT CMOを経て、Crypto Art Week Asia、Crypto Art Fesを企画・開催

採択事業名 **WAN: Art & Tech Creators Global Network**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **ニューヨーク拠点を活用した海外展開基盤の構築（1~2年目）**
  - アメリカ・ニューヨークの現代美術館ニューミュージアム（New Museum）が運営するインキュベーション・プラットフォーム「NEW INC」内のデスクを活用し、現地コーディネーターやアドバイザーとの連携を通じて、ニューヨークを拠点とする継続的な活動基盤を整備した
- **情報発信基盤の整備とトークイベント実施（1年目~）**
  - 公式ウェブサイト、YouTube、X、Instagram等を開設し、育成対象者の英語での紹介映像や画像を駆使し、積極的にSNS等での積極的な発信活動を行なった。あわせて配信型トークイベントの実施や東京藝術大学との共同トークイベントを実施した
- **育成対象者の選出と現地発表機会の創出（1~2年目）**
  - 3年目までの目標値である育成支援するクリエイター12名を採択した（アーティスト8名、キュレーター4名）。これまでに8名をニューヨークへ派遣し、展覧会、プレゼンテーション、トーク等を通じて現地関係者との接点を形成した
- **教育機関・関連機関との連携強化（2年目）**
  - ニューヨーク大学（NYU ITP、NYU Game Center）、東京藝術大学等との連携を進め、現地での発表、リサーチ、ネットワーク形成を支える環境を広げた
- **過年度採択者の展開の可視化（2年目~）**
  - 海外メディアの取材、オーストリアの教育文化機関アルスエレクトロニカでの受賞、海外展示招聘、『NEW INC』が主催する「DEMO 2026」への出展、関連シンポジウム登壇等、採択クリエイターのその後の展開が現れ始めた







今後の活動予定

- **第四期・第五期育成対象者の選定と支援（4~5年目）**
  - 書類審査および英語面談により育成対象者を選定し、企画力、コミュニケーション能力、自己マネジメント能力を重視した支援を継続する
- **ニューヨーク派遣と個別活動設計の高度化（4~5年目）**
  - 約45日間の渡航期間を前提に、各採択者の活動領域に応じた展示、トーク、ミーティング、リサーチ等を個別に設計する
- **国内還元と記録発信の強化（4~5年目）**
  - 国内報告会の開催、教育機関との連携、記録映像やテキストレポートの整備を通じて、複数年にわたる成果を横断的に可視化する
- **海外キーパーソン招聘と双方向交流の拡充（5年目）**
  - 海外キーパーソンの日本招聘や国内機関との共同プログラムを実施し、ニューヨークで培ったネットワークの国内還元を進める

採択事業名 **WAN: Art & Tech Creators Global Network**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 2年目以降のニューヨークでの展示会を通じて初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本事業を経て構築した海外進出の基盤を活用し、育成対象者が国際的に知名度のある芸術祭や文化施設に参加、出品を行うことで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	12	4	12	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	20	5	11	達成見込（3年目）	R8年度中に国内外大学、団体など20件（国外15件）との連携を見込む
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	20	9	9	達成見込（3年目）	主にNEW INCと東京藝術大学との協力関係を活かし、R8年度に24人の関与を見込む
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	9	1	8	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	3,000	0	386	達成見込（3年目）	R8年度は前回3,000人の入場実績のあるイベントに参加予定。計3,500人の入場者数を見込む
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	8	0	6	達成見込（3年目）	今後採択クリエイターによる海外渡航が増えることで増加の見込み

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **WAN: Art & Tech Creators Global Network**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

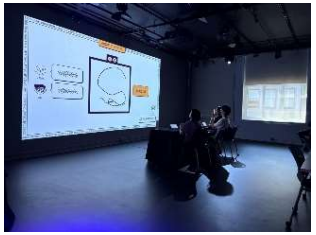
関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• プロジェクト推進を通じて個々のノウハウや人脈が表面化し、チームの結束と基盤が強化した • 海外ではアーティスト・研究者や教育者等のステークホルダーとのネットワークを、国内ではメディアアート分野の団体や大学関係者とのつながりを構築した
2年目終了時点	• ニューヨークを拠点とした活動を通じて、海外で継続的に活動するためには単発の発表にとどまらず、現地拠点、協力者、コミュニティを含む基盤形成が重要であるという認識が強まった • 採択クリエイターは、渡航後の活動や新たな接続を通じて、海外展開を継続的な実践として捉える動きを見せ始めた • 団体側においてもネットワークの継続的な活用が重要であるとの認識のもと、事業を中長期的に設計する視点が明確になった

達成した点・成果が認められた点

- ニューヨークを中核とした継続的な国際展開モデルの土台が具体的に形成された
- 展示、トーク、プレゼンテーション、教育機関等との連携を通じて、育成対象者が海外関係者と接続し、活動を次の機会へつなげる回路が生まれた
- 採択クリエイターの取材、受賞、出展、登壇など、育成期間後の展開が可視化され始め、本事業がキャリア形成の後押しとして機能していることが確認された





今後の取組において期待される点

- 育成対象期間終了後のクリエイターの活躍や海外展開を継続的に調査し、情報発信と分析を行う
- 北米展開で培ったネットワークを国内へ還元し、他機関や大学等との連携、海外有識者の招聘を進める
- アート＆テックの強みを活かし、没入型（イマーシブ）表現やゲーム等の近接領域との連携を拡充する

採択事業名 **New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型
舞台芸術 | **メディア芸術** | 現代アート | 分野横断 | **委託型**

事業概要

短編アニメーション作家に対し、国際的評価の獲得やマーケットへ進出するための技能習得の訓練プログラムとネットワーキング機会を提供。同時に、国内の主要コミュニティや映画祭を連携させ、ウェブサイト等での海外発信体制を整備する等、恒常的にアーティストがグローバルに活躍できる環境を整備する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 公募作家の企画開発支援
- 国内外アドバイザーによるレクチャー及び個別アドバイスの実施
- 海外映画祭等での上映や新作企画ピッチ、ネットワーキング等の機会提供

第II期（～5年目）

- 3年目までに育成した作家の完成作品を映画祭等へ出品
- 公募枠作家への支援を継続しつつ、学生等も対象としたすそ野を広げた支援を実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 10名



土居伸彰 | 本プログラムプロデューサー
2015年にニューディアーを設立し、海外作品の配給を開始。非商業アニメーション作家の研究や上映企画を通じて作品を紹介し、映画祭審査員、キュレーション、国際共同制作等、多方面で精力的に活動



クリス・ロビンソン | 評論家・フェスティバルディレクター
『Lipsett Diaries』の脚本でジュトラ賞とジニー賞を受賞。アニメーション研究で国際的評価を受け、2020年アニメーションフェスト・ザグレブで受賞。2022年ルネ・ジョダン賞を受賞した

主な育成対象者

育成対象者数: 12名



金子 勲矩 | アニメーション作家
早稲田大学創造理工学部卒、多摩美術大学院修了。2025年3月まで同大学院助手として勤務。監督作は『LOCOMOTOR』『The Balloon Catcher』等



関口 和希 | アニメーション作家
多摩美術大学卒、東京藝大院修了。自身の体験や感情を通じて、共感と笑いを生み出す作品を制作。日本アニメーション協会会員



ひらの りょう | アニメーション作家・マンガ家
ポップでビザールな作風を持ち味として『パラダイス』『KRASUE』等を制作。国内外のアニメーション映画祭にも多く参加。NHK「みんなのうた」等のアニメーション制作も手掛けている



矢野 ほなみ | アニメーション作家
東京藝大院修了。在学中は山村浩二氏に師事。『骨噛み』（2021）でオタワ国際アニメーション映画祭短編部門グランプリ受賞



ニヘイ サリナ | アニメーション作家
英国RCA修士課程の修了作品『Small People with Hats』（2014）がオタワ国際アニメーション映画祭短編部門グランプリ受賞。MVの制作等も手掛け、国際的に活躍する



折笠 良 | アニメーション作家
アンリ・ミショーのエッセイを原作とした『みじめな奇蹟』（2023）で、オタワ国際アニメーション映画祭短編部門グランプリ受賞。本作はフランス・カナダ・日本による国際共同製作

採択事業名 **New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **推薦枠・公募枠による育成対象者の選定と発表（1~2年目）**
  - 1年目に海外映画祭グランプリ受賞歴のある推薦作家3名と、公募で選ばれた作家3名を第1期育成対象者として選定し、公募作家の発表会を実施した。2年目は第2期及び第3期育成対象者として新たに公募枠作家を3名ずつ選定した
- **海外アドバイザー招聘と企画開発支援（1~2年目）**
  - 海外アドバイザーを招聘し、トークイベントを実施した他、大学・スタジオ等を訪問し、日本の短編アニメーションの現状認識を深める機会を設けた。育成対象者に対しては、月次グループミーティングやアドバイザーからの個別助言等を通じて、企画開発と海外発信の強化を支援した
- **世界三大アニメーション映画祭を軸とした海外展開の本格化（2年目）**
  - 世界三大アニメーション映画祭（ザグレブ、アヌシー、オタワ）への参加を通じて、育成対象者の作品の上映、企画のピッチ、ネットワーキング等を実施し、海外プロダクションや映画祭関係者等との接点を形成した
- **国内外を往復する発信と成果可視化（2年目）**
  - 新千歳空港国際アニメーション映画祭等で、育成対象者の成果報告や企画発表を行った。SNSやウェブサイトでの発信や記事充実を重視し、育成対象者によるレポートやインタビュー、海外アドバイザー招聘時のイベントレポート等の公開により、活動の可視化を進めた
- **海外展開を支える基盤形成の進展（1~2年目）**
  - 国内外の映画祭やプロダクション等との関係構築が進み、単発支援ではなく継続的な海外展開を支える基盤として機能し始めた







今後の活動予定

- **公募枠作家の継続選定と訓練プログラム実施（3~5年目）**
  - 毎年2～3組の支援作家を選出し、新作企画の開発やパイロット版制作を通じた訓練プログラムを実施する
- **欧州・北米主要映画祭での発表とネットワーキング（3年目~）**
  - ザグレブ、アヌシー、オタワ等の国際的な映画祭で新作企画やパイロット版を用いたピッチ、上映と、国際展開をふまえたプロデューサー獲得に向け、交流を行う
- **プロデューサーとの連携強化や海外プロデューサーとのネットワーキング拡張（3~5年目）**
  - 公募枠作家のプロデューサーを伴う応募を推奨し、プロデューサーがついていない作家に対してはマッチング機会を提供する。また、海外プロデューサーとのネットワーキングの強化を目指し、公募枠作家をはじめとする日本のアニメーション作家との協働機会を創出することを目指す
- **完成作品の海外売り込みと映画祭への出品・受賞の実現（4~5年目）**
  - 第1期・第2期の作家による海外共同制作作品の完成を見据え、国際アニメーション映画祭等で売り込み、出品や受賞につなげる

採択事業名 **New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World**

採択団体名 **公益財団法人 画像情報教育振興協会**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 世界3大アニメーション映画祭及びアヌシー国際併設見本市MIFA等への参加やイベント実施等を通じて初期アウトカムを達成する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 3年目の成果として、推薦枠作家の矢野ほなみ監督『Eri』が第79回カンヌ国際映画祭「監督週間」に選出。同じく推薦枠作家のニヘイサリナ監督の新作も3年目に完成。これらにより、長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	12	6	12	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	20	17	11	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	20	9	10	達成見込（３年目）	R8年度には5人の海外アーティストやプロデューサーが関与見込み
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	20	3	16	達成見込（３年目）	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	4,000	104	3,026	達成見込（３年目）	R8年度は900人の参加者数を見込む
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	5	2	3	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	New Way, New World: Program for Connecting Japanese Animators to the World
採択団体名	公益財団法人 画像情報教育振興協会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 海外アドバイザーとの連携や日本への招聘を通じ、日本と海外双方の観点から有効なプログラムの検討を開始した • 公開レクチャーシリーズ「New New Community School」を開始。そのレポートをウェブサイトに掲載し、蓄積した • 短期間のプロジェクト運営における迅速かつ柔軟な意思決定フローの重要性を再認識し、連絡体制を確立した
2年目終了時点	• 育成対象者は、海外映画祭やピッチを通じて、自身の企画や作品を国際的な文脈で捉えるようになり、海外プロダクションとの接点も生まれた • 指導者側では、オーダーメイド型支援が定着し、企画開発から発信までを一体で捉える意識が生まれた • 事務局においては、国内外の映画祭等との連携やイベント運営・広報までを一体で実施する体制が定着し、育成対象者の海外展開を支える基盤として本格的に機能し始めた

達成した点・成果が認められた点

- 世界三大アニメーション映画祭を軸に、短編アニメーション作家の海外展開の基盤が形成された
- 海外アドバイザーによる伴走支援と継続的なフィードバックにより、育成対象者の企画開発力、プレゼンテーション力、国際的な発信力の向上が確認された
- 推薦枠作家の作品の受賞・選出が、公募枠作家への刺激となり、育成対象者間で相乗効果が生まれた





今後の取組において期待される点

- 育成対象者だけでなく短編アニメーション業界全体への還元を意識し、ウェブサイトでの情報発信や海外アドバイザー招聘時のイベント実施、関係者とのネットワーキング構築を継続する
- 本事業の認知をさらに高め、国内外関係者に浸透した活動基盤としてブランド化を進める
- 育成対象者ごとのライフステージや目標に応じた柔軟な支援を継続し、修了後も海外展開や情報発信につながる伴走を行う

採択事業名 **Film Frontier 海外渡航プログラム/滞在型企画開発/長編アニメクリエイター支援**

採択団体名 **公益財団法人 ユニジャパン**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型
舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

Film Frontierという傘の元、実写映画およびアニメーションの若手クリエイター（監督、プロデューサー、脚本家、アニメ・スタジオ）を育成する3種のプログラム（①海外渡航プログラム、②長編アニメクリエイター支援、③滞在型企画開発）を実施。15企画程度のクリエイターを支援する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 実写映画は企画開発支援、アニメーションは企画開発・海外展開支援を育成対象者別に実施
- 国内外の主要映画祭・マーケットに参加し、ピッチやネットワーキングを実施

第II期（～5年目）

- 育成対象者を募集し、同様のサイクルで育成を継続
- 育成対象者（第 I 期も含む）の企画のフォローアップ

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 21名



井上 伸一郎｜プロデューサー
(合)ENJYU代表　元(株)角川書店代表取締役社長、元(株)KADOKAWA代表取締役副社長、アニメ・実写のプロデューサーを歴任



市山 尚三｜プロデューサー、プログラミング・ディレクター
東京大学経済学部を卒業後、松竹に入社。オフィス北野在籍中に国内外の様々な作品をプロデュース。2000年から2020 年まで映画祭『東京フィルメックス』のプログラム・ディレクターを務め、2021年より東京国際映画祭のプログラミング・ディレクターに就任

主な育成対象者

育成対象者数: 20名



太田 信吾｜監督
『わたしたちに許された特別な時間の終わり』は世界12カ国で上映。『沼影市民プール』がカルロヴィ・ヴァリ「First Cut+ WiP Award」を受賞、釜山国際映画祭2025をはじめ12以上の国際映画祭に選出



川和田恵真｜監督
2014年から分福に所属し、是枝裕和監督の作品等で監督助手を務める。『マイスモールランド』で商業長編映画デビュー。本作でベルリン国際映画祭ジェネレーション部門選出



早川 千絵｜監督
『PLAN 75』で長編デビューし、第75回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門特別賞受賞。『ルノワール』で第78回カンヌ国際映画祭コンペティション部門出品



飯塚 陽美｜映像作家
東京大学大学院博士課程在籍。映画『Lock Up and Down』が2022年ぴあフィルムフェスティバル入選。『The Taste of Orange』がイフラヴァ国際映画祭で上映



木下 麦｜アニメーション監督
TVアニメ「オッドタクシー」で自身初となる監督、キャラクターデザインを担当。初長編アニメーション『ホウセンカ』で2025年アヌシー国際アニメーション映画祭長編コンペティション部門出品



四宮義俊｜アニメーション監督
日本画家、アニメーション作家として活動。『花緑青が明ける日に』が初長編アニメーション監督作品であり、第76回ベルリン国際映画祭コンペティション部門選出

採択事業名 **Film Frontier 海外渡航プログラム/滞在型企画開発/長編アニメクリエイター支援**

採択団体名 **公益財団法人 ユニジャパン**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **3種の育成プログラムの運用本格化（1~2年目）**
  - 「海外渡航プログラム」、「滞在型企画開発」、「長編アニメクリエイター支援」の3種のプログラムを設計し、育成対象者を選出。若手映画制作者とアニメーションクリエイターへの企画開発支援を本格化した
- **国際映画祭・マーケットへの派遣と伴走支援（2年目）**
  - 「海外渡航プログラム」及び「長編アニメクリエイター支援」の育成対象者はカンヌ、アヌシー、トロント、ベルリン、香港等の映画祭併設マーケットやラボに参加し、ピッチ、ネットワーキングを実施した
- **レジデンスを核とした企画開発支援（2年目）**
  - 「滞在型企画開発」では4名の育成対象者を韓国、フランス、アメリカへ派遣した。派遣にあたり、事前講義、現地メンター面談、帰国後のラボ応募支援やフォローアップ講義を行った
- **長編アニメ企画の海外展開支援（2年目）**
  - 「長編アニメクリエイター支援」では、アヌシーMIFAでのピッチ支援やメンタリングを実施し、『ホウセンカ』のアヌシー国際アニメーション映画祭2025長編コンペティション部門選出、『花緑青が明ける日に』の第76回ベルリン国際映画祭コンペティション部門選出等に貢献した
- **成果発表と情報発信手段の整備（1~2年目）**
  - 東京国際映画祭期間中に、プログラム紹介と育成対象者発表を目的としたイベントを実施し、Film Frontier特設サイトの新設や業界紙での紹介により活動の可視化を進めた







今後の活動予定

- **「海外渡航プログラム」及び「長編アニメクリエイター支援」の第1ターム・第2タームの継続フォローと成果発信（3年目）**
  - 開発中の企画の進捗や、完成作品の選出状況を継続的に確認し、必要に応じてアドバイザーと連携した支援や広報を行う
- **「海外渡航プログラム」及び「長編アニメクリエイター支援」の第3タームおよび次期募集の実施（3~5年目）**
  - 新たな育成対象者を選定し、月1回の面談、ピッチトレーニング、海外映画祭やマーケット等でのピッチやネットワーキングを通じて育成を継続する
- **「滞在型企画開発」のラボ参加（3年目）、追加サイクル実施（4~5年目）**
  - 3年目に国際フィルムラボに参加。4~5年目は3年事業を2年間に圧縮しレジデンス・海外ピッチ等の支援を検討する
- **若手映画監督作品の上映と海外発表機会の拡張（5年目）**
  - 上映イベントや、長編アニメ企画のアヌシー等での参加を通じて、若手映画監督作品の認知拡大と海外での発表機会を広げる

採択事業名 **Film Frontier 海外渡航プログラム/滞在型企画開発/長編アニメクリエイター支援**

採択団体名 **公益財団法人 ユニジャパン**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 複数の育成対象者がEuropean Film MarketのCo-Production Marketやトロント国際映画祭のDirector's Lab等の企画マーケットやラボ等に選出されたり、高評価（賞を受賞）を獲得する等しており、初期アウトカムを2件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 太田信吾の作品『煙突清掃人』が沖縄環太平洋映画祭2025インダストリー部門で最優秀企画賞を受賞、川和田恵真の作品『Life is Yours』が24th HKIFF HAF選出「La Fonte」賞を受賞、太田信吾がDMZ Documentary Film FestivalでDMZ Docs Awardを受賞、四宮義俊の作品『花緑青が明ける日に』が第76回ベルリン国際映画祭コンペティション部門に出品、木下麦の作品『ホウセンカ』がアヌシー国際アニメーション映画祭2025長編コンペティション部門に選出されるなど、長期アウトカムを5件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	15	13	20	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	17	9	6	達成見込（3年目）	2年目終了時までに海外連携（現地派遣、ピッチ、企画開発）を推進。R8年度も2件の連携を見込む
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	15	5	10	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	8	1	6	達成見込（3年目）	R8年度は5件のピッチやイベント等での発表の機会を見込む
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	200	50	540	達成	
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	10	8	20	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	Film Frontier 海外渡航プログラム/滞在型企画開発/長編アニメクリエイター支援
採択団体名	公益財団法人 ユニジャパン

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 3種のプログラム（海外渡航プログラム、長編アニメクリエイター支援、滞在型企画開発）の育成対象者を公募し、選出した • 東京国際映画祭・TIFFCOMにあわせて、海外渡航支援プログラム1期育成対象者発表会を実施した • アドバイザーとの面談やワークショップ等、実質的な支援は2年目から本格的に始動する
2年目終了時点	• 育成対象者は、企画開発段階から海外マーケットに参加し、ネットワークを広げながら企画を磨くことを現実的な選択肢として捉えるようになった • アドバイザーや選考委員は、助言者にとどまらず企画のプロデューサーとして関与する例も生まれた • 事務局側でも、海外マーケットや関係機関との具体的な協議を通じて、国際展開支援の実務知見が蓄積された

達成した点・成果が認められた点

- 企画開発支援を中心に、国際映画祭・マーケット・レジデンスへの参加を通じた実践的な育成の仕組みが機能し、映画と長編アニメの両領域で国際展開の足場が形成された
- 育成対象者の中から、新たなプロデューサーとの接続や企画ピッチでの受賞が生まれ、育成から制作段階への連続性が具体的に確認された
- 長編アニメ分野では、国際映画祭への選出支援につながり、国際的な評価獲得に結びついた





今後の取組において期待される点

- 製作助成や本編製作への接続を見据え、育成後の企画が次段階へ移行する流れを継続的に支援する
- 商業的成果の把握も含めて中長期の追跡を行い、国際展開支援が興行や流通にどう結びつくかを検証する
- 育成対象者が本プログラムを通じて獲得した知見及び経験、並びにFilm Frontier特設サイトに蓄積された情報について、報告会等を通じて、制作者に限らず業界全体への波及を図り、もって業界全体の底上げに貢献する
- 「長編アニメクリエイター支援」では海外展開支援をしている完成作品の主要映画祭のコンペティション部門選出を達成し、実写の「海外渡航支援」でも育成対象者の開発中の企画が様々なラボや企画ピッチに選出されたり、受賞もする等、確実に成果を上げてきたため、今後もその勢いを継続できるよう、育成対象者をサポートする

採択事業名 **T3:PHOTO FESTIVAL TOKYO/PHOTO ASIA/NEW TALENT**

採択団体名 **一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | **補助型**

舞台芸術 | メディア芸術 | **現代アート** | 分野横断 | 委託型

事業概要

国際写真祭とアートフェアを活用し、次世代の作家・批評家・キュレーターを育成する。①審査員が優れた作家を選出し発表機会を提供、②展示を企画するコーディネーターを育成、③批評や評論を発表する機会を創出する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 国外の美術館キュレーターや批評家等との交流や展示・批評の実践の場を実現、海外のアートフェア/フェスティバルとの連携
- 活動を書籍化およびウェブサイトにアーカイブし共有

第II期（～5年目）

- 写真/批評に関するレクチャーやシンポジウムを展開
- 育成対象キュレーターと海外キュレーターによる共同企画展を実現

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



菅沼 比呂志 | キュレーター・大学教授

「ガーディアン・ガーデン」の立ち上げに参加し、2017年まで運営に従事。2017年よりT3 PHOTO FESTIVAL TOKYO実行委員を務め、2022-23年には東川町国際写真フェスティバルで『東川賞受賞作家展』のキュレーションを担当



太田 睦子 | IMA編集長

『マリ・クレール』『エスクァイア』『GQ』の編集を経験。アート写真雑誌『IMA』創刊同エディトリアルディレクター。浅間国際フォトフェスティバルのエキシビションディレクター

主な育成対象者

育成対象者数: 14名

高嶋 慈 | 美術・舞台芸術批評

ジェンダーやクィア、歴史の（再）表象を軸に、現代美術とパフォーミングアーツを横断的に批評。近刊の寄稿として『鷹野隆大　カスバ　–この日常を生きのびるために–』（水声社、2025）等



千賀 健史 | 写真家

国内外で作品やブックが多数受賞。シンガポール国際写真祭でグランプリを受賞した写真集『HIJACK GENI』を2024年に IANN BOOKS より刊行



南川 恵利 | 写真家

人生を取り巻く日常的な環境に目を向け、写真メディアを通し『当たり前』に潜む社会問題や構造・仕組みを表象させる作品を制作。KG＋SELECT 2025 参加



宮地 祥平 | 写真家

School of Visual Artsより美術学士号 （写真） 、Pratt Instituteより美術修士号 （写真） を取得。近年の展示に『Koganecho International Artist's Network』等



鈴木 麻弓 | 写真家

写真集『The Restoration Will』が2018年Photo Españaにて『年間最優秀国際写真集』選出。アルル国際写真祭（2024）にて『Répliques 11/03/11』として展示



池田 佳穂 | キュレーター

インディペンデント・キュレーター。森美術館でアシスタントとして経験を積み、2023年に独立。近年の主な企画実績として、『バグスクール2024:野生の都市』等

採択事業名 **T3:PHOTO FESTIVAL TOKYO/PHOTO ASIA/NEW TALENT**

採択団体名 **一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」の実施（1~2年目）**
  - 1974年のMoMA「New Japanese Photography」から50年を切り口とする企画展を開催し、海外ゲストを招聘したトークイベントや関連カタログ制作を行うとともに、2年目には育成対象アーティスト5組による写真展「Five Views」を実施した
- **育成対象者の選出と部門拡充（1~2年目）**
  - 1年目に公開プレゼンによる審査を経てアーティスト5組7名、推薦・面談を通じて批評家2名とキュレーター1名を選出した
  - 2年目にはキュレーター／コーディネーター部門と美術批評部門で新たな育成対象者を追加し、全育成対象者を確定した
- **海外キュレーターとの交流とネットワーク形成（1~2年目）**
  - T3 PHOTO FESTIVAL TOKYOにてサンフランシスコ近代美術館やボストン美術館のキュレーターらを招いたトークイベントを実施し、さらにパリフォト、アルル国際写真祭等での視察や打合せを通じて、海外キュレーター、批評家、美術館とのネットワークを広げた
- **出版・批評プロジェクトの推進（1~2年目）**
  - 1年目にT3 PHOTO FESTIVALで開催したシンポジウム等をベースにした書籍の制作を進め、2年目に「MORE THAN ONE WORLD - New Japanese Photography 50 Years on」として出版。批評家部門の育成対象者による論考も掲載した。
  - 2年目に、英国「1000 Words」との出版プロジェクトを開始し、育成対象批評家による論考執筆を進めた
- **海外巡回展に向けた準備と個別展開（2年目~）**
  - 「Five Views」展の国際交流基金パリ日本文化会館での開催決定に向けた視察や打合せを実施。育成対象者の千賀健史によるソウルでの個展など、小規模な国際展開も生まれた







今後の活動予定

- **育成対象作家展の海外巡回と写真祭連動企画の実施（3年目）**
  - 2年目に開催した育成対象作家による展示をパリ日本文化会館で巡回。東京で行う「T3」でも育成対象キュレーターによる展示を実施する
- **批評本制作と国際的な批評発信の強化（3年目）**
  - 新たに加わった批評家3名による批評本を制作、「アートダイバー」より出版（日英バイリンガル）。「1000 Words」との出版プロジェクトも国際的なイベント、媒体にて発信・展開する
- **海外キュレーターとの共同企画とレクチャー展開（4~5年目）**
  - MEP（ヨーロッパ写真美術館）と連携した日本写真に関するレクチャーを実施し、海外キュレーターとの共同企画展を東京で開催したうえで、5年目に海外美術館や写真芸術祭へ巡回することを目指す
- **国際ネットワークの集約と継続的な招聘（3~5年目）**
  - T3 PHOTO ASIAでの海外有識者招聘を継続し、過去に招聘したゲストとのネットワークを集約しながら、共同展や情報共有を発展させる

採択事業名	T3:PHOTO FESTIVAL TOKYO/PHOTO ASIA/NEW TALENT
採択団体名	一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 3年目の海外での展示を通じて、初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 4~5年目に実施する共同企画展の実施や育成対象者が国際的に著名な文化施設へ作品を出展することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	12	10	14	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	75	55	84	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	40	20	33	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	7	2	3	達成見込（３年目）	R8年度はパリ日本文化会館での展示ほか3件の開催により達成見込み
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	235,000	69,273	86,006	達成見込（３年目）	R8年度はパリ日本文化会館での展示ほか計108,000人の入場を見込む
⑥プロジェクト関連出版物の国内外キーパーソンへの配布数（件）	720	0	438	達成見込（３年目）	R8年度は1000 Wordsでの出版物と新規制作出版物、各150冊（計300冊）の配布にて達成見込み

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	T3:PHOTO FESTIVAL TOKYO/PHOTO ASIA/NEW TALENT
採択団体名	一般社団法人 TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

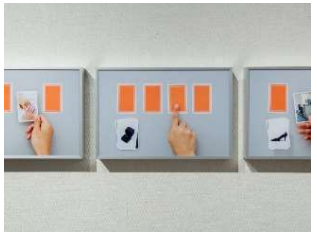
採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 日本写真の質の高さが海外キュレーターやパリフォトで評価されることを認識できた • 審査会で選ばれた5人の作家に海外から展示オファーが届く等成果が現れ、R7年度は作家たちの活躍を後押しする柔軟な対応をする予定である
2年目終了時点	• フェスとフェアの両輪を回しながら育成する手法が次の段階へ進み、T3の活動が国際サーキットの中で認知され始めているという実感が深まった • MoMA、ポンピドゥー、メトロポリタン美術館等のキュレーター来日を契機に、パリフォトなどの国際サーキットで認知され始めた • 批評プロジェクトが日本主導の文脈構築を担う体制が整い、展示との連携を通じ3年目以降の展開を具体化しようとしている

達成した点・成果が認められた点

- 育成対象者5組の作家による展示を実施し、国内外の関係者に紹介する機会を創出。一部作家には海外展示や海外写真祭出展につながる展開が生まれた
- パリでの「Five Views」の巡回展会場と担当キュレーターが決まり、3年目の準備が整った
- 「MORE THAN ONE WORLD」を出版し、「1000 Words」との出版企画も進めた





今後の取組において期待される点

- フランス写真200年のタイミングでもある2026年秋、世界最大のフォトフェア・パリフォトの時期に合わせて国際交流基金パリ日本文化会館での展示を行う。この展示を育成対象の写真家、キュレーター、批評家それぞれの本格的な意識変容につながる節目として位置づけ、成果を可視化する
- 展示、育成、マーケットを一体化した事業構造と充実した資料整備を活かし、報告書や対外発信において成果を明確に整理する
- 写真の物質性に関する理解を深めるため、プリント方法、用紙、裏打ち、額装・加工についてラボ等の現場で学ぶ機会を体系的に設ける
- 新進作家に対しては、展示経験の不足を補うため、より厚みのあるフォローとガイダンスを継続する

採択事業名 **JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム**

採択団体名 **独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / **現代アート** / 分野横断 / **委託型**

事業概要

若手アーティスト・キュレーターを海外へ派遣し、海外の美術関係者と協働しながらリサーチを基に作品制作・展示を実施。これらの国際協働プロジェクトのノウハウをまとめた記録集を制作する

活動計画

第I期 （～3年目）

- アーティスト1名（組）とキュレーター1名を1グループとし、3グループを海外3か所に派遣し現地美術館で展示を実施
- プロジェクトの過程を記録集にまとめ、発信共有

第II期（～5年目）

- 海外での展示作品を日本国内で公開（展示計画は育成対象者が主導）
- 海外美術関係者を招聘しトークイベント等を開催。第2期の記録集を制作・刊行

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



片岡 真実 | **国立アートリサーチセンター エグゼクティブ・アドバイザー**
森美術館館長。第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督、『あいち2022』芸術監督を歴任。CIMAM会長（2020~2022）等国際的役職を務め、広いネットワークを活用し海外協働や事業を効果的に推進



安田 篤生 | **高知県立美術館 館長**
奈良県立美術館副館長、原美術館副館長等を歴任、2024年より現職。ロサンゼルス・カウンティ美術館、オスロ国立現代美術館等と協働し、企画展を実施。日本とドイツのアーティストを相互派遣する『メルセデス・ベンツ アート・スコープ』も担当した

主な育成対象者

育成対象者数: 7名



青柳 菜摘 | **アーティスト**
映像メディアを用いて、フィールドワークやリサーチをもとにした作品制作を行う。近年の活動に個展「亡船記」等。詩集『そだつのをやめる』で第28回中原中也賞を受賞



MES（新井 健、谷川 果菜絵） | **アーティスト**
新井健と谷川果菜絵によるアーティストデュオ。クラブカルチャーと現代美術を融合させたインスタレーションとパフォーマンスを国内外で展開



遠藤 薫 | **アーティスト**
沖縄や東北をはじめ国内外で、地域に根差した工芸と歴史を基盤に、染織などの工芸技法を用いて、生活と密接な関係にある社会的、政治的な関係性を紐解く作品を手掛ける



見留 さやか | **キュレーター**
山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター。前職の十和田市現代美術館では名和晃平、百瀬文、劉建華等、現職ではマヤ・エリン・マスダ等の展覧会を企画・担当



塚本 麻莉 | **キュレーター**
高知県立美術館主任学芸員。高知ゆかりの作家を取り上げる個展シリーズ「ARTIST FOCUS」のほか、合田佐和子等の展示を手掛けた



荒井 保洋 | **キュレーター**
滋賀県立美術館主任学芸員。これまで担当した主な展覧会に、空き家などの美術館外を会場とした「シガアートスポットプロジェクトVol.1-3」や「川内倫子:M/E 球体の上 無限の連なり」等

採択事業名 **JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム**

採択団体名 **独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **育成対象者の選定と支援体制の構築（1年目~）**
  - ➢ キュレーターを公募で選出し、アーティストを海外協力先美術館と協議のうえ決定し、メンターや海外協力先美術館と連携する体制を整えた
- **海外リサーチと展示プランの具体化（2年目）**
  - ➢ 3都市でアーティスト、キュレーター、スタッフが現地調査を行い、文化施設訪問や現地担当者との協議を通じて作品構想と展示プランを具体化した
- **メンタリングと国際協働の実践準備（2年目）**
  - ➢ JUMP Meetupや都市別メンタリングを実施し、作品コンセプト、伝え方、展示構成について助言を行い、海外美術館への英語プレゼンテーションにつなげた
- **トークイベントと情報発信の開始（2年目）**
  - ➢ ポルトガル大使館や東京藝術大学でリサーチ報告会を開催し、ウェブサイト、Instagram、プレスリリース、本サイト記事配信を通じて制作過程を継続発信した
- **国内展示に向けた準備開始（2年目）**
  - ➢ 育成対象キュレーターの所属館での展示会期調整、業務分担や経費負担のヒアリング、会場視察と作品プラン協議を進めた







今後の活動予定

- **海外美術館での展示実施（3年目）**
  - ➢ リスボン、ロサンゼルス、シドニーの海外協力先美術館で、現地リサーチに基づく作品制作と展示を実施する
- **成果発表会とトークイベントの開催（2~5年目）**
  - ➢ 第1期報告会、国内外のトークイベント、海外協力先美術館関係者を招聘したイベントを行い、事業のプロセス、知見、成果の共有を進める
- **記録集の制作と刊行（3~5年目）**
  - ➢ 第1期では国際協働のプロセスやノウハウをまとめた記録集を刊行。第2期でも国内展示準備や発信の過程を記録して記録集を刊行する
- **国内展示の準備と実施（4~5年目）**
  - ➢ 海外で制作した作品を育成対象キュレーターの所属美術館で公開。輸送や翻訳等の支援に加え、海外キュレーターやメディアの招聘を行い、国内外への情報発信を進める

採択事業名 **JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム**

採択団体名 **独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 海外美術館の展示を通じて、3年目に初期アウトカム達成する見込み
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトで構築した海外美術館関係者とのネットワークを活用し、国際的に著名な文化施設での作品の展示、出品、海外組織との新たな協働事業などを行うことで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	6	7	7	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	10	6	4	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	20	5	7	達成見込（３年目）	R8年度より実施する海外協力先美術館における展示にて、3館×3名以上のスタッフが関与する想定のため、達成見込み
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	5	0	2	達成見込（３年目）	R8年度は海外協力先美術館3館で展示を行うことに加え、日本国内での報告会も1回は実施することから、達成を見込んでいる
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	1,500	0	93	達成見込（３年目）	R8年度は海外展示で最低でも3カ所×500人＝1500人の入場者数を想定しているので達成見込み
⑥実施する取組・企画・公演・イベント等の掲載メディア数（件）	16	0	2	達成見込（３年目）	R8年度に展示3カ所×4件掲載、成果報告会1回×2件掲載の想定で達成見込み

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 **JUMP アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム**

採択団体名 **独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 育成対象者は、英語力向上のための講座参加や活発な情報共有・ネットワーク強化を積極的に実施した • メンターは育成対象者に対し、定期的な意見交換や海外協力先美術館へのプレゼン支援を通じて、国際交渉力向上を支援した • 日本国内の地方美術館が、海外で紹介される機会が生まれた
2年目終了時点	• 育成対象キュレーターは、単年度の成果ではなく継続的な関係構築や共同企画まで視野に入れて動くようになった • 育成対象アーティストは、作品がどのような文脈で見られ受け取られるかを意識するようになり、共同企画や滞在制作につながるネットワーク形成への関心を高めた一方、資金面の課題も明確になった • JUMP Meetup やメンタリングを通じてメンターの知見共有が進み、関与する美術館等にも海外志向が波及し始めている

達成した点・成果が認められた点

- 海外美術館との協働のもとで、リサーチ、メンタリング、展示構想、情報発信を一体で進める国際協働型の育成基盤が具体化した
- アーティストとキュレーターが組になって長期的にリサーチと制作準備を重ねることで、海外展示に向けた実践的な知見と経験の蓄積が進んだ
- 広報活動を通じてプロセスの可視化が進み、記録性の高い事業として発信基盤が整った





今後の取組において期待される点

- アーティストはキュレーターと協働して進めたリサーチと作品制作の経験を、今後の創作手法に生かす
- キュレーターは海外展で得た経験を所属美術館での展示企画や運営に還元する
- 批評家を巻き込んだ展開を具体化し、第Ⅱ期での発信や評価の広がりにつなげる
- 英語でのコミュニケーション力に加え、海外で展示を実施するための事務力と胆力をさらに強化する

採択事業名 **『Kogei』アーティスト育成グローバル展開プロジェクト**

採択団体名 **認定NPO法人 趣都金澤**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

学術研究機関と連携した国際シンポジウムの開催、主要な国際美術展における特別展示の実施といった海外展開を行い、従来の『工芸』に対するイメージや文脈を刷新し、新たな芸術として『Kogei』を日本の新たなコンテンツ市場として創出する

活動計画

第I期 （～3年目）

- ヴェネチア・ビエンナーレ同時開催展を開催
- 海外の美術館と連携した展覧会を開催
- 工芸の新たな文脈をつくる国際シンポジウムの開催

第II期（～5年目）

- 海外の主要な国際展における展示会等を開催

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



秋元 雄史 | プロデューサー/キュレーター/批評家

東京藝術大学名誉教授、金沢21世紀美術館特任館長、国立台南芸術大学栄誉教授、美術評論家。1991年から直島のアートプロジェクトに携わる。地中美術館館長をはじめ金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長を歴任し、2021年から『GO FOR KOGEI』のアーティスティックディレクターを務める。『工芸未来派』展、『GO FOR KOGEI』等多くの工芸プロジェクトを監修・プロデュース



クラパット・ヤントラサスト | 建築家

WHY Architectureの創設者であり、マネージング・プリンシパル、ならびにクリエイティブ・ディレクター。東京大学にて建築学の修士号および博士号を取得後、建築家・安藤忠雄の側近として8年間勤務した後、2004年 WHY Architecture設立。近年は、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、バンコクのDib Bangkok等の美術館・文化施設プロジェクトを手掛ける

主な育成対象者

育成対象者数: 21名



牟田陽日 | 作家

1981 年東京生。2008 年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ卒。2012 年石川県立九谷焼技術研修所卒。主な展覧会に『清州クラフトビエンナーレ』（清州・韓国、2023 年）、『ジャンルレス工芸展』（国立工芸館、2022 年）。主な受賞歴、『第 11 回パラミタ陶芸大賞展』大賞（2016 年）、『伊丹国際クラフト展『酒器・酒盃台』』優秀賞（2012 年）



Photo: Federico Radaelli

コムロタカヒロ | 作家

1985年東京都生まれ。2011年に東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻を修了。主な個展として「Vortex」（同上、2019年）、「Phantom cave」（StolenSpace Gallery・ロンドン、2023年）など。主なグループ展として、「GO FOR KOGEI 2023」（桝田酒造店 満寿泉、2023年）のほか「JUXTAPOZ CLUBHOUSE」（SUPERCHIEF GALLERY・アメリカ、2018年）などがある



Photo: Hanmi Meyer Courtesy of Bullseye Glass Co.

佐々木類 | 作家

1984年高知県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科ガラス専攻を卒業後、2010年にロードアイランドスクールオブデザインガラス科修士課程修了。近年の主な個展に、「不在の記憶」（WALL_alternative、2025年）、「Subtle Intimacy : Here and There」（ポートランド日本庭園・米国、2023年）、グループ展に「清州国際工芸ビエンナーレ2023」（清州、2023年）や「ART・HAND・WORK」（ノルウェー国立美術館 ・オスロ、2025年)



Photo: cocoro

川井雄仁 | 作家

1984年茨城県生。2007年チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ卒。2018年茨城県立笠間陶芸大学校研究科卒。主な展覧会に『The Fourth Dimensionうつわの未来へ』（2022年 益子陶芸美術館、栃木県）、個展『粒の数だけ 抱きしめて』（2022年 KOTARO NUKAGA、東京都）、『FOOLISH FIRE』（2023年 Newchild Gallery、ベルギー）



小林万里子 | 作家

1987年大阪府生まれ。2012年に多摩美術大学大学院博士前期課程デザイン専攻（テキスタイルデザイン研究領域）を修了。主な展覧会に、個展「オーバーストーリー」（KOTARO NUKAGA、2021年）をはじめ、グループ展「弐畫廊2023」（San gallery・台湾、2023年）や「糸と布-日常と生を綴る-あざみ野コンテンポラリーvol.13」（横浜市民ギャラリーあざみ野、2022年）、「Reborn-Art Festival2021-2022」（石巻市、2021年）などがある



山下茜里 | 作家

1997年大阪府生まれ。2021年に京都精華大学芸術研究科博士前期課程を修了。主な展覧会に、個展「Beyond the Skin」（小山登美夫ギャラリー天王洲、2024年）をはじめ個展「Human being Human」（(Thomas VanDyke Gallery、2024年）、「瀬戸内国際芸術祭2022」（高見島、2022年）など

採択事業名 『Kogei』アーティスト育成グローバル展開プロジェクト

採択団体名 認定NPO法人 趣都金澤

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外アートフェアでの特別展示（1年目~）**
  - フランス／パリでのアートウィークの一環として開催される『 ASIA NOW 』で育成対象者の吉田真一郎と指導者の秋元雄史による展示を実施し、韓国／ソウルで開催される東アジア最大級の工芸フェア『 Craft Trend Fair 』では育成対象者の新里明士、橋本雅也、入沢拓による展示を行った
- **国立ヴィクトリア＆アルバート（V&A）博物館との国際シンポジウム開催（2年目）**
  - 世界的な研究機関であるV＆A博物館と共同主催の国際シンポジウムを開催し、新たな工芸コンテクストを学術的に発信した
- **国際的な認知とネットワーク拡大（1年目~）**
  - パリ『 ASIA NOW 』とソウル『 Craft Trend Fair 』での展示を通じて、アート関係者や業界内での認知拡大とネットワーキング強化に寄与した
- **台湾／台南市美術館での展覧会開催（2年目）**
  - 台南市美術館と共催で展覧会を開催し、育成対象者10名（牟田 陽日、小林万里子、佐々木類、石渡結、三嶋りつ恵、中田真裕、留守玲、佐合道子、山下茜里、宮田彩加）の展示と関連トークイベントを行うことで『Kogei』の認知だけでなく人的ネットワークを拡大した
- **海外展開の深化（2年目）**
  - 台南市美術館での展覧会を契機に、育成対象者2名（佐々木類、小林万理子）の台南市美術館主催『台南ビエンナーレ（2026年秋開催）』への参加が決定し、秋元雄史（指導者）によるキュレーションのもと国際的評価を得た







今後の活動予定

- **イタリア／ヴェネチアでの大規模展覧会開催（3年目）**
  - 2年に1度開催される『ヴェネチア・ビエンナーレ』会期中に長期展示を行う
- **海外機関との継続的連携と紹介体制の構築（3~5年目）**
  - V&A博物館、台南市美術館、『 ASIA NOW 』、『ヴェネチア・ビエンナーレ』等との関係を活かし、継続的に育成対象者を紹介する体制を強化する
- **『Kogei』市場創出に向けた発信の継続（3~5年目）**
  - 展覧会、シンポジウム、トークイベントを組み合わせて『Kogei』の学術的な新しい言説を生み出し、そして発信することで国際的価値形成、市場創出につなげる

採択事業名 『Kogei』アーティスト育成グローバル展開プロジェクト

採択団体名 認定NPO法人 趣都金澤

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ ASIA NOW、Craft Trend Fair、V&A博物館共催国際シンポジウムおよび 台南市美術館への展示を通じて、初期アウトカムを4件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ キュレーター秋元雄史（指導者）が台南市美術館での展覧会『皮膚と内臓：自己、世界、時間』展の企画によって第19回CANSアジア・コンテンポラリーアート賞にて『年間ベストキュレーター賞』を受賞するほど反響も大きかったことから、育成対象者2名（佐々木類、小林万理子）が台南ビエンナーレに参加決定するなど、長期アウトカムを3件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	21	4	14	達成見込（３年目）	R8年度に、育成対象者3名がベネチアでの展覧会に出展することで達成予定
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	10	4	7	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	25	10	31	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	295	8	94	達成見込（３年目）	計画通り、R7までに4つの海外での事業をした。R8のベネチアでの展覧会を193日実施することで達成予定。展示期間を重視し日数で計上
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	202,100	100,250	88,817	達成見込（３年目）	R7年度台南市美術館の展覧会では想定を3万人超える来場があった。R8年度の展覧会では55,000人の入場者を見込む
⑥本プロジェクトにより海外のメディアで紹介された件数（件）	100	11	99	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名 『Kogei』アーティスト育成グローバル展開プロジェクト

採択団体名 認定NPO法人 趣都金澤

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 2年目のシンポジウム、3年目の展示に向けて準備を進めており、1年目の事業の中で重要性が感じられた現地機関との連携を更に強化することが重要だと認識した
2年目終了時点	• イギリスでの国際シンポジウムと 台湾 での展覧会を通じて、『Kogei』のコンテクストづくりと専門家ネットワーク形成を進めた • 育成対象者は、海外にも日本との共通課題が存在することを認識し、柔軟な発想をもって制作に取り組む姿勢に繋がった • その成果は3年目へ反映されており、今後は『 Kogei 』のグローバルな価値評価形成と市場創出につなげる方針である

達成した点・成果が認められた点

- 国際的に影響力のある場で展示やシンポジウムを実施した。台南市美術館での展覧会では、育成対象者2名の台南ビエンナーレ参加決定など具体的な次の展開につながった
- 国内外10団体、キュレーター・プロデューサー・有識者42名とのネットワークを形成し、第1期目標を前倒しで達成した
- 「工芸」と「アート」のヒエラルキーを乗り越えるための学術的・実践的な基盤づくりを前進させた





今後の取組において期待される点

- 3年目以降は欧米圏での展開によりネットワーク形成を強化し、ヴェネチアでの大規模展示に向けて、学術的な問いや批評への応答準備をする
- 外部PR会社や現地連携先との協働を深め、広報とネットワーク強化を一体的に進める
- 展示とシンポジウムを組み合わせた発信を継続し、新たな『 Kogei 』の定着につなげる

採択事業名

オペラ『Super Angels』新シリーズ制作及び海外展開に向けた領域横断型人材育成

採択団体名

アタック・トーキョー 株式会社

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 | 舞踊 | 演劇 | 伝統芸能 大衆芸能 | 補助型
舞台芸術 | メディア芸術 | 現代アート | 分野横断 | 委託型

事業概要

オペラ作品『Super Angels』の新シリーズを国際共同制作として創作し、海外の潜在層に向け展開。革新的な舞台芸術作品を創出し、世界第一線のクリエイターとの実践を通じて、人材育成に資する国際共同制作モデルを構築する。育成者を創作現場に迎え、リベラルアーツ教育や海外レジデンシーを組み合わせることで、継続的な人材育成の基盤を確立する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 仏現地でプロジェクトチームを結成し、劇場や演出家候補との協議、アーティスティックチームを編成
- 欧州で試作的公演を行い、海外展開の基盤構築

第II期（～5年目）

- 国内外での育成アカデミー運営（ATAK Academy）を通して育成及び事業活動の普及を行う
- 作品をブラッシュアップ、欧州でグランドスケールの世界初演を行う
- その後、海外ツアー展開

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 13名



渋谷 慶一郎 | 音楽家
東京藝術大学作曲科卒業。2002年に音楽レーベル『ATAK』を設立。電子音楽、オペラ、ピアノソロ、映画音楽等幅広い作品を手がけ、東京・パリを拠点に活動。生と死、テクノロジーをテーマに探求



池上 高志 | 研究者
東京大学教授。複雑系・人工生命をテーマに、生命とは何かを追求する研究を進める。2018年、ALIFE国際会議を東京で主催。著書に『人間と機械のあいだ』『作って動かすALife ―実装を通した人工生命モデル理論入門』等



今井 慎太郎 | コンピュータ音楽家
国立音楽大学およびIRCAMで学び、文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツのZKM等にて研究および創作活動を行う。2008年よりバウハウス・デッサウ財団にてバウハウス舞台の音楽監督を度々務める。国立音楽大学准教授および大阪芸術大学客員教授

主な育成対象者

育成対象者数: 14名



岸 裕真 | 分野横断的新領域アーティストチーム
アーティスト。AIを『Alien Intelligence（エイリアンの知性）』と捉え直し、人間とAIによる創発的な関係「エイリアン的主体」を掲げて、自ら開発したAIと協働して絵画、彫刻、インスタレーションの制作を行う



亀井 彩加 | 分野横断的新領域アーティストチーム
ダンサー・振付家。フランス、ドイツを拠点にNoismやオスナブリュック市立劇場などで16年以上活動し、現在はフリーランスとしてヨーロッパを中心に創作・出演を行う。振付助手、ムーブメント・ディレクタとして活動



増本 鈴音 | 分野横断的新領域アーティストチーム
ヴァイオリニスト。フランクフルト音楽・舞台芸術大学大学院およびInternational Ensemble Modern Academyに在籍。現代音楽作品の初演や演奏会の運営を通じ、演奏にとどまらない音楽家の活動を模索



藤巻 俊介 | 分野横断的新領域アーティストチーム
国立音楽大学演奏・創作学科コンピュータ音楽専修卒業。同修士課程作曲専攻（コンピュータ音楽）修了。音を扱うこと／考えることを『音響デザイン』と広く捉え、ジャンルやフォーマットを限定せず様々な音のクリエイションに参加



小嶋 瑠記 | 分野横断的新領域アーティストチーム
国立音楽大学コンピュータ音楽専修卒業、同大学大学院修士課程に在籍中。音や音楽といった聴覚現象を主題に、楽曲制作、映像、インスタレーション、パフォーマンスなど多様な表現を横断して作品を展開している



服部 亜莉沙 | プロデューサー
東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻在籍。舞台制作や音楽祭等の制作に携わる。国際共同制作の実践を通じて、海外で活躍するプロデューサーを目指している

採択事業名	オペラ『Super Angels』新シリーズ制作 及び海外展開に向けた領域横断型人材育成
採択団体名	アタック・トーキョー 株式会社

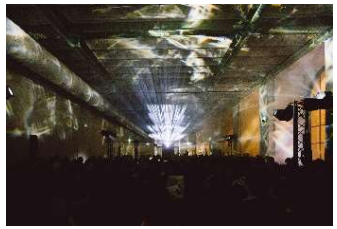
Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **共同制作体制の構築と海外交渉（1~2年目）**
  - 欧州拠点かつ舞台芸術に強みのある音楽出版社と国際的な制作体制を作る
  - 振付家兼演出家であるサー・ウェイン・マクレガーが主宰するスタジオ・ウェイン・マクレガー（ロンドン）と協議・交渉、国際共同制作の枠組みの構築を進めた
- **海外現地での打ち合わせと関係構築（1~3年目）**
  - ロンドンのスタジオ・ウェイン・マクレガー訪問やサー・ウェイン・マクレガーが芸術監督を務めるベニス・ダンスビエンナーレ等の視察を通じて、創作方針や育成プログラム開発に必要な知見を蓄積した
- **パリでの公演研修と記者発表（1~2年目）**
  - パリ・グラン・パレでの試験的公演や公演研修と、都内での記者発表を実施し、プロジェクトの対外発信を進めた
- **若手人材の募集・参画拡大（1~2年目）**
  - 8月の公募と選考を経て若手クリエイターやプロデューサー、マネジメント人材を新たに参画させ、育成対象者を拡充した
- **シンポジウムとATAK Academyの開始（2年目~）**
  - 1月に人材育成やキャリアに関するシンポジウムを開催し、2月からは教養講座と制作講座を含むATAK Academyを開始した







今後の活動予定

- **契約調整とツアーリングモデルの具体化（3年目）**
  - グランドスケールの作品公開に向けてスタジオ・ウェイン・マクレガーとの契約協議を進め、初演後を見据えたツアーリングモデルを欧州拠点の音楽出版社を交えて構築する
- **ベニスでのレジデンシープログラム実施（3年目）**
  - ベニス・ビエンナーレのカレッジプログラムと連携し、特別に育成対象者向けのワークショップを含む現地レジデンシープログラムを実施する
- **ヨーロッパでの世界初演（4年目）**
  - 10月にヨーロッパで単独公演として世界初演を行い、育成対象者もリハーサル期間から帯同させて実践的育成を進める
- **海外ツアーと育成プラットフォームの拡張（5年目）**
  - 初演後は海外ツアー公演を展開し、ATAK Academyの国内展開も継続・拡張しながら、共同制作モデルの知見を広く還元する

採択事業名 オペラ『Super Angels』新シリーズ制作及び海外展開に向けた領域横断型人材育成

採択団体名 アタック・トーキョー 株式会社

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 1年目に実施したパリ市（フランス）の美術館「グラン・パレ」での公演チケットが2時間で完売し増席させたことから、作品への高い評価を得たとして初期アウトカムを1件達成
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトにて習得したノウハウや技術を生かし、育成対象者が国際的に認知されている芸術祭や文化施設で作品の出品や公演を行うことで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	14	6	14	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	21	10	16	達成	
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	17	7	13	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	10	1	5	達成見込（３年目）	R8年度は7件のシンポジウム・講義を見込む。ATAK Academyはヴェネツィアでも実施し、海外での実践的な学びの機会創出を企てる
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	890	500	101	達成見込（３年目）	R8年度は289人の入場を見込む。当初より作品の規模が拡大し、公演時期をII期に移動。R9年度に公演には10,000人を動員見込み
⑥公演の媒体記事掲載、批評数	30	0	15	達成見込（３年目）	R8年度は大型公演の発表があるため大々的な露出を想定。また育成活動の活性化も含め、30件超の露出を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	オペラ『Super Angels』新シリーズ制作 及び海外展開に向けた領域横断型人材育成
採択団体名	アタック・トーキョー 株式会社

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目 終了時点	• 団体は、育成には中長期的視点と段階的な実践が不可欠であると認識した • 指導者は、若手と共に歩む姿勢を定着させ、次世代に求められる横断的な能力の重要性を意識した • 育成対象者は、国際的な場での実践を通じて、主体的立場としての自覚を持ち、責任感や視野を拡大した
2年目 終了時点	• 団体は、国際共同制作を基礎として、その成果を人材育成へ展開する、アカデミー設立を含む体系的な育成体制の構築へと取り組みを発展させる段階に至った • 育成対象者は、海外での共同制作への初期参加や制作実務への関与を通じて、主体的な活動を実施。指導者側では、若手と共に歩みながら、論理性、戦略性、コミュニケーション力、交渉力といった国際的に必要な横断的能力を育てる視点が定着しつつある

達成した点・成果が認められた点

- 若手アーティストとマネジメント人材8名を新たに参画させ、育成対象者の体制を拡充した
- シンポジウムやアカデミーを通じて、未経験者を含む育成対象者が基礎知識を習得するとともに、哲学などを通じて教養を深め、自身の専門分野にとどまらない広い視野と思考力を養った
- 育成対象者自身が、アカデミーでの学びや体験を自主的に発信するプラットフォームを運営した
- 海外での共同制作の初期段階から若手を関与させ、実践を通じた学びの機会を組み込んだ





今後の取組において期待される点

- 4年目に予定するグランドスケールでの世界初演を契機として、本事業の発信力と社会的波及効果を強化する
- アカデミーを中心とした育成プログラムと実務経験をさらに充実させ、作品公開に向けた実践的な育成効果を高める
- 育成対象者が国際共同制作や海外レジデンス、ワークショップに参画することで、国際的に通用する実践力やソフトスキルを身に付けるとともに、国際的なネットワークを構築する
- プロデューサーに加え、アーティストについても、自らプロジェクトを企画・推進できるよう、制作実務、コミュニケーション力、戦略的思考を養う
- 育成対象者同士のネットワーク形成と主体的な発信活動を継続し、学びを言語化・共有することを通じて、思考力と表現力を高める

採択事業名

渋谷・京都を拠点に「ゲーム/遊び」を起点としたクリエイションとグローバルネットワークを形成する
404 Not Found・art bit連携プロジェクト「ars●bit」（アーソビット）

採択団体名

一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / **分野横断** / 補助型 / 委託型

事業概要

遊びとゲーム文化の発信拠点渋谷「404 Not Found」と京都でインディゲーム×現代アート企画展を発信する「art bit」が連携。展覧会やワークショップを通じ分野を横断して活動できる次世代クリエイターを育成。ゲームを軸とした海外進出を見据えた新たな芸術の形を提示し、新領域の確立を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 共同制作やセミナーによる地盤固めとグローバル展開の準備、人材育成
- アジア圏のゲームショウへの出展・企画展の展開による海外市場開拓
- 欧州・北米圏への企画展の展開、海外アートフェアへの出展

第II期（～5年目）

- ゲームと他ジャンルを融合させ、世界市場で日本発の芸術新領域としての評価を確立するとともに、国内外のインディーゲーム業界ならびに大型ゲームショウでの受賞、米国主要美術館での展示・作品収蔵

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 28名



村上 雅彦 | プロデューサー
一般社団法人渋谷あそびば制作委員会代表理事。米国美大卒業後ゲーム業界へ。BitSummit主催や404NotFound、art bit展を通じクリエイターの挑戦を支援。ゲーム開発を軸にVR/AR、都市開発、イベントプロデュースなど幅広い領域で活動中



豊川 泰行 | キュレーター
ホテル アンテルーム 京都 館内のギャラリーやイベントを通じて、ゲームカルチャーを発信するプロジェクトを推進。現代アートとインディーゲームの展覧会、ゲームをモチーフにしたコンセプトルーム等、様々な企画を展開

主な育成対象者

育成対象者数: 36名



塩見 亮介 | 鍛金家
鍛金、彫金技法を用いて主に甲冑を基にした美術作品を制作。祈りや誇りをテーマとし、動物や鳥をモチーフに多様な金属にて造形する



hako生活 | ゲームクリエイタープロデューサー
2016年から個人で2Dゲーム開発を開始。『アンリアルライフ』をリリースし、第24回文化庁メディア芸術祭新人賞を受賞



西島 大介 | マンガ家 / 現代美術家
単行本『凹村戦争』でデビュー。第8回文化庁メディア芸術祭審査員推薦作となる。『ディエンビエンフー』他作品多数。2024年NHK神エボ出演、GAME PRIZE OF JAPAN審査員賞受賞



たかくら かずき | アーティスト
デジタル表現を使用し、仏教などの東洋思想による現代美術のルール書き換え、デジタルデータの新たな価値追求、キャラクターバリエーションの美学をテーマに作品を制作している



カミエナ | ゲームプロデューサー・ディレクター
BitSummit展示をきっかけにゲーム制作にのめり込む。“創る”から“届ける”までにこだわるクリエイター。ars●bitプロジェクトでアート×ゲームの“一点物”による新たな価値創出を目指す



吉積 英子 | 現代美術家/ 立命館大学RCGS客員研究員
英国でオートクチュール帽子を学び、現代オペラの衣装を手がける。ファッションショー作品がNick Knight CBEに評価され、2024年よりメディア横断型プロジェクト《Les Hommes du Désert》を始動

採択事業名

渋谷・京都を拠点に「ゲーム/遊び」を起点としたクリエイションとグローバルネットワークを形成する
404 Not Found・art bit連携プロジェクト「ars●bit」（アーソビット）

採択団体名

一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外市場調査・国際発表の実施（1~2年目）**
  - アジア、ヨーロッパ、北米におけるインディゲームやゲームアート界の動向調査や関係者ヒアリングを行い、海外先行モデルや国際的な市場ニーズの把握を進めた
  - 台北ゲームショウや中東最大アートフェアであるドバイでの展示に加え、シンガポールでの企画展『ART BIT MATRIX』、マルタやメルボルンでの国際学会発表・作品展示を行った。これらを通じて現地のキュレーター等と直接繋がり、国際的な連携体制を構築した
- **国内拠点での展示・制作・発信（1~2年目）**
  - 渋谷の『404 Not Found』や京都の『art bit』を中心に、展覧会、シンポジウム、短期集中的な共同作品制作イベントCREATIVE JAM、海外展開に向けた実践セミナー、体験イベントを実施した
- **海外展示基盤の具体化（2年目~）**
  - アメリカ・ストロング遊戯博物館で『日本のインディーゲーム』常設展示を実現し、毎年育成対象者の作品が選出・展示される仕組みを確立した
  - ゲームとアートを横断するフランス・アルルの国際芸術祭『Festival Octobre Numérique』でのグループ展準備を進めた
- **育成対象者の成果創出（1~2年目）**
  - 海外展示やプロジェクト内イベント（共同制作等）等の機会を通じて、作品販売、受注、メディア掲載、ギャラリーとの接点形成など育成対象者の個別成果につなげた







今後の活動予定

- **グループ展『Anima Ludens』の実施（3年目）**
  - フランス・アルルの国際芸術祭にて、現地プロデューサーと共同によるグループ展を開催し、ゲームとアートの分野横断に取り組んだ成果の集大成として発信する
- **国内外での関連発信強化（3~4年目）**
  - BitSummitや404 Not Foundでの成果発表、国内での凱旋展、海外キュレーターとの共同企画展を通じて、育成対象者らプロジェクト関連作家の発信力を高め、世界的な認知と国際的な評価の獲得を強化する
- **アーカイブ体制とネットワーク整備（4年目）**
  - 活動成果を記録した図録制作や海外の関係機関への働きかけを進め、一時的なイベントで終わらせない継続的な海外展開への基盤を整備する
- **ニューヨークでの拡大グループ展実現（5年目）**
  - フランスでの実績を試行モデルとして、ニューヨークの著名美術館等での大規模な展覧会を実現し、日本発ゲームアートの価値を世界に提示する

採択事業名

渋谷・京都を拠点に「ゲーム/遊び」を起点としたクリエイションとグローバルネットワークを形成する
404 Not Found・art bit連携プロジェクト「ars●bit」（アーソビット）

採択団体名

一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 事業3年目の国際芸術祭や海外のゲームショウへの出展を通してアウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ NHK主催の革新性をテーマにしたゲームクリエイターコンテスト『神ゲー創造主エボリューション 2024』において西島大介の作品が『審査員賞』受賞、『BitSummit』においてフツララの作品が、MEDIA HIGHLIGHT AWARD『ファミ通賞』を受賞しアウトカム達成に 2 件貢献した

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	26	16	16	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	28	11	15	達成見込（3年目）	プロジェクトの進展の中で新たな連携先も増えており、R8年度に追加5件の連携を見込む
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	20	13	10	達成	
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	41	14	28	達成	
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	1,584,600	423,843	553,373	達成見込（3年目）	プロジェクトの進展の中でより多くの鑑賞者にアプローチできる展示先や展示方法を模索。R8年度は806,670人の入場を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある

採択事業名	渋谷・京都を拠点に「ゲーム/遊び」を起点としたクリエイションとグローバルネットワークを形成する 404 Not Found・art bit連携プロジェクト「ars●bit」（アーソビット）
採択団体名	一般社団法人 渋谷あそびば制作委員会

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定　実施状況　数値実績　定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目終了時点	• 共同でのプロジェクト推進によりチームの結束が強まり、個々に蓄積されていた各分野のノウハウや国内外の海外キュレーターや国内主要美大等の専門ネットワークが組織的に可視化・拡張された • 指導者・育成対象者の双方が「アート×ゲーム」の領域を軸に海外展開への意識を高め、企画段階から主体的な参画や分野を横断した作品制作に向けたコミュニティの土台が形成された
2年目終了時点	• 当初の広範な分野横断な志向から、予算・人員制約を踏まえて、まずは「アート×ゲーム」の領域に戦略的な選択と集中を行う方針へと舵を切り、全体のターゲット意識を統一した • 育成対象者は、海外展示や異分野交流を通じて、国際的視点を踏まえゲームをアートとして捉える意識を強化した。特に3年目のフランスでのグループ展を節目とし、発掘の場であるコミュニティと世界トップ水準での評価獲得の両立を課題として整理した

達成した点・成果が認められた点

- 海外展示や異分野協働を通じて、育成対象者が国際的な視点から自作や活動を捉え直す機会が生まれ、表現の拡張やキャリア形成につながる基盤が育ってきた
- 国際的な有識者や関係機関との協業実績が積み上がり、単発の交流にとどまらない次段階の海外展開へ向けた継続的な連携体制の土台が整ってきた





今後の取組において期待される点

- 多数の活動を単発で並列させるのではなく、「アート×ゲーム」の中核人材をいかに育て、どの評価軸へ接続していくのかというストーリーを明確に示すことで、得られた経験や成果が国内の関係者や次世代人材へ還元されていくこと
- アート以前の多様な個性が集うコミュニティでの才能の発掘と、世界トップ水準の評価システムへの接続という、両面を兼ね備えた「人材育成の導線」を今後さらに精緻に設計されていくことが期待される
- 海外イベントの広報・アーカイブ体制を強化し、育成対象者が得た経験や成果を国内の関係者や次世代人材に還元する

採択事業名 **日本文化輸出プラットフォーム『KAISEKI』**

採択団体名 **株式会社 スクリイム・ラウダア**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

音楽 / 舞踊 / 演劇 / 伝統芸能 大衆芸能 / 補助型
舞台芸術 / メディア芸術 / 現代アート / 分野横断 / 委託型

事業概要

独自のシンクレティズムを形成する日本文化の結晶とも言うべき茶の湯。中でも衣食住を包括するプレゼンテーションであり、現代アートの定義である「リレーショナルアート」と近似要素を持つ『茶事』を応用。日本人クリエイター育成に必要な２ステップ「海外の高い文化リテラシーを持つコミュニティとの対話（＝狭く深く）」「パブリック展開可能なパッケージによる展開（＝浅く広く）」を両立。西洋中心の視点で東洋文化を愛でる「オリエンタリズム」に甘んじることなく、グローバルにおける真の日本文化の理解を構築する。その基盤の上にこそ意味を成す、作家の起用、適切なグローバルコミュニティにおけるキャリア形成、ひいては次世代の日本人クリエイターの育成が可能になる。　初年度における具体的な取り組みとして、世界的アーティスト、シアスター・ゲイツとのコラボレーション（森美術館『シアスター・ゲイツ展：アフロ民藝』展示内でのアート茶事の実施）や、メトロポリタン美術館キュレーター等を招いたニューヨークの老舗、マーサホテルでのアート茶事公演を実施した

活動計画

第I期（～3年目）

- 海外での「アート茶事」公演のノウハウ構築、適切な集客構造の確立、作家陣とプロデュースチームの人材育成
- ニューヨークとロサンゼルスを中心に最低でも3回の「アート茶事」海外公演を実施

第II期（～5年目）

- 海外展開の継続実施、コミュニティの拡張。頻度、リーチ、エンゲージメントの最適化
- 映像化を含めてパブリック展開可能なパッケージ展開への拡張
- 美術館、ファッションウィーク、イベント等のコンテンツとしての採用も視野に

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 3名



ナカヤマン。｜マーケター/現代アーティスト

現代アーティストとして、世界三大アートフェアのひとつ『Frieze LA』に公式プログラムとして招致された他、国際映画祭EIC2024の公式招待作品に選出。マーケターとしては、ルイヴィトンやグッチ、シャネル、アニメ映画『シン・エヴァンゲリオン』等に関わる

主な育成対象者

育成対象者数: 16名

職種：作家（陶芸家/大仏師）、実演家（茶人）、プロデューサー、カメラマン、ビデオグラファーなど

一回4時間の「茶事」に用いる道具として作家の作品を魅せることで、日本文化のコンテクストに則した一気通貫なプレゼンテーションを行う。少数精鋭のゲスト、4時間という十分な時間を活用して表層的な理解でなく、日本文化というものを伝える。本企画のターゲットに対しては、中核要素である東洋思想、日本文化、日本的シンクレティズムこそが、引きのあるコンテンツであり、厳選したメンバー＝作家・海外コミュニティの交流が活性化、グローバル市場における基盤を確立する

採択事業名 **日本文化輸出プラットフォーム『KAISEKI』**

採択団体名 **株式会社 スクリイム・ラウダア**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **現代アートとしての茶事の実践（1~3年目）**
  - ➢ 『現代アートとしての茶事』という表現でプレゼンテーションをニューヨークで実施、参加したキュレーターやメディアへの訴求を進めた
- **ニューヨークを拠点とした海外展開（1~3年目）**
  - ➢ ニューヨークのマーサホテル、メトロポリタン美術館で茶事を主宰したことで、育成対象者16名が海外での実施体制や現地運営の知見を蓄積した
- **世界が注目するブラック・アーティスト、シアスター・ゲイツとの連携（1~2年目）**
  - ➢ 森美術館でのコラボ茶事や、継続的な協力関係の構築を通じて、国際的なアートにおけるコンテクストとの接続を強めた
- **育成体制と記録発信の整備（1~2年目）**
  - ➢ 企画・運営を行うプロデュース班やドキュメント撮影を行う撮影班の体制を整え、アートブック出版や撮影スキームの試行などを通じて成果の可視化を進めた
- **ニューヨーク・メトロポリタン美術館との協議進展（2年目~）**
  - ➢ マーサホテルでの茶事への参加者と関係を発展させ、メトロポリタン美術館でのコラボレーションに向けた調整を進めた
- **メトロポリタン美術館公式イベントとしてコラボレーション実践（３年目~）**
  - ➢ 美術館内にて、アーティストトークと新作披露を実践し、参加者やメディアへの訴求を進めた
  - ➢ イベント終了後に次年度（4年目）のコラボレーションのオファーをメトロポリタン美術館より拝受。具体的な企画調整を開始している







今後の活動予定

- **ニューヨークでの継続開催（3~4年目）**
  - ➢ ニューヨークを拠点に継続的な茶事を実施し、影響力を持つ層などに対する認知と関係性を深める
- **欧州展開または米国内認知拡大の判断（4年目）**
  - ➢ ニューヨークでの蓄積を踏まえ、欧州展開に進むか、米国内での認知拡大を優先するかを見極める
- **プレゼン形式「演舞」の展開（5年目）**
  - ➢ 茶事を舞台形式へ拡張し、より多くの観客に提示できる形式として展開する

採択事業名 **日本文化輸出プラットフォーム『KAISEKI』**

採択団体名 **株式会社 スクリイム・ラウダア**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価を獲得したプロジェクト件数※	■ 次年度以降の海外での展示活動を通じて初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 高い評価に加え賞の受賞・ノミネートを獲得した件数※	■ 本プロジェクトで構築した海外での人的ネットワークを活用し、育成対象者が国際的に認知されている芸術祭や文化施設に作品を出品、展示することで長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①企画段階から登用される若手クリエイター等の数（人）※1	13	11	9	達成	
②国内外の団体・企業等との連携数（件）※ KPI2	40	10	17	達成見込（3年目）	R8は更にPRの強化など課題にも取り組み、R7実績を上回る予定。19件の連携を見込む
③プロジェクトに関わる海外アーティスト、キュレーター等の数（人）	8	1	3	達成見込（3年目）	R8年度にメトロポリタン美術館(MET)とのコラボレーションを企画しており、4名の海外キュレーターの関与を見込む
④国内外で展開される公演・展示等の数（件）	54	17	3	達成見込（3年目）	R8年度は「跡見」の実施、METコラボでのギャラリートークの実施、映画祭の展開など含め計34件の実施を見込む
⑤国内外で展開される公演・展示会等の入場者数（人）	8,500	119	9	達成見込（3年目）	R8年度の映画祭応募およびMETギャラリートークによる入場者数を加算し、計10,000人の入場者数を見込む
⑥メディア露出換算値　（件）	17	6	2	達成見込（3年目）	METコラボ等の開催により17件の掲載を見込む
⑦インスタグラムインプレッション（万）	1,300※2	230	17.8	達成見込（3年目）	R8年度末の映画祭応募作品のYouTube再生回数でインスタグラム1,100万フォロワー相当のインプレッション獲得を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書9頁を参照　※1 育成対象者は原則継続して育成するため、①の各年度実績値は同一人物が含まれる。なお、採択事業により毎年度異なる育成対象者を参加させる場合があり、その際は累積で計上することがある　※2 インスタグラムフォロワー数1300万のアカウント相当のインプレッション数を目標に設定している

採択事業名 **日本文化輸出プラットフォーム『KAISEKI』**

採択団体名 **株式会社 スクリイム・ラウダア**

Japan Creator Support Fund FOR CREATORS

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況 等

採択事業関係者の意識・行動変容

1年目 終了時点	• ゲスト：『現代アートとしての茶事』というコンセプトは、参加者の興味を喚起しており、プロジェクトの起点として十分に機能 • クリエイター：匿名性を保持する必要があるなど、難易度の高い『茶事における撮影』に対して前向きな試行錯誤の末、ノウハウを構築し始めている • クリエイター：一部を対象に対応力や調整力などのスキル不足が課題。メンバーや育成対象者の入替/追加を検討中
2年目 終了時点	• メトロポリタン美術館からのコラボ打診を契機に、プロジェクトの質や意義への確信が深まり、関係者のモチベーションが向上した • 撮影班でも体制や手法の試行が成果物に現れ、赤々舎からのアートブック出版も記録と発信の継続条件づくりにつながった • プロデュース班を中心に体制が安定し、各担当が締切までに業務を完遂できる運営基盤が整った

達成した点・成果が認められた点

- メトロポリタン美術館での展開は、スタッフが国際展開の実務や制作の質を学ぶ機会となった
- 育成対象者が国内外の高い文化リテラシーを持つ国際的コミュニティと接する機会を得た
- 京都の和菓子職人がニューヨークで「茶事」の流れの中で職人性を発揮するなど、日本文化を一体的に提示する現場にて、作品制作や記録、演出補助に関わる人材が実践的な知見を得た
- 国際的な文化関係者と接続する現場を通じて、それぞれの実務的役割に応じた経験を蓄積した





今後の取組において期待される点

- 日本文化への理解を媒介できる海外PRや発信体制を育て、限られたハイエンド層への訴求を中長期的な認知形成へつなげる
- より多くの職人や作家が実地で海外体験を得られるよう、参加機会の設計や間接的学習の補完方法を強化する
- 作品実現と育成が重なり合う構造を丁寧に言語化し、事業目的と実態の整合性をよりわかりやすく整理する
- 個別の成果だけでなく、育成対象者がこのプロジェクトを通じて、どのようなグローバル戦略観や関係性理解を獲得したかを整理し、育成面の意義を明確に示す

採択事業個別報告書まとめ

クリエイター・アーティスト等育成事業

文化施設高付加価値化支援事業

採択事業名 **大分発アートプラクティス発信事業-竹/キュレーション・プロデュース**

実施施設 **大分市美術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

大分の美術館および大分市のプレゼンスを高めることを目標に、育成対象者と有名アーティストのコラボレーション企画、海外アートフェア・展覧会への派遣を実施する。また、大分市美術館コレクションとのコラボレーション、展覧会の国内外開催による学芸員のキュレーション、プロデュース能力の向上を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 有名アーティストとのコラボレーション企画（「アウトスタンディング・アーティスト×竹」）を含む国内展示会を開催
- 制作プロセスを含むデジタルコンテンツを国内外に配信

第II期（～5年目）

- 国内での作品制作と国内外への発信
- 海外における市場開拓
- 海外展示の実施、アートフェスティバル等への参加

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



コシノ ジュンコ｜ファッションデザイナー
東京を拠点に、1978年~2000年にパリ・コレクションに参加。世界各地でファッション・ショーを開催。オペラから、ブロードウェイ・ミュージカル、スポーツのユニフォーム、インテリア・デザインまで、幅広い分野で活動



中臣 一｜竹藝家
次世代バンブーアート賞コフランド最優秀賞受賞。ボストン美術館等国内外の展覧会参画。国内外の美術館にパブリックコレクション多数あり

主な育成対象者

育成対象者数: 18名



長谷川 絢｜美術家
日本美術展覧会・日本新工芸展入選/『ジャポニスムの150年』展（パリ装飾美術館）に出展



近藤 雅代｜竹工芸作家
次世代バンブーアート賞トラディション優秀賞・くらしの中の竹工芸展グランプリ受賞/日本伝統工芸展入選



谷口 倫都｜竹藝家
国際北陸工芸サミット『ワールド工芸100選』展（富山県美術館）/日本新工芸展 彫刻の森美術館奨励賞



木﨑 和寿｜竹藝家
次世代バンブーアート賞ファイナリスト/『ジャポニスムの150年』展（パリ装飾美術館）に出展



池 将也｜竹藝家
『ジャポニスムの150年』展（パリ装飾美術館）に出展/国際北陸工芸サミット『ワールド工芸100選』



青柳 慶子｜竹工芸作家
西部伝統工芸展入選/日本伝統工芸展入選

採択事業名 **大分発アートプラクティス発信事業-竹/キュレーション・プロデュース**

実施施設 **大分市美術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国内展示会の調整（1年目~2年目）**
  - 大分県における竹工芸のユニークな価値と魅力を掘り起こす国内展示会企画の準備を推進した
  - 国内展示会にてコラボレーションする著名なアーティストとの連携に向けた協議を実施した
- **アーティスト育成事業と作品制作事業の継続実施（1~2年目）**
  - コシノジュンコ氏をはじめとした指導者によるワークショップを継続開催し、国内外展示会にて展示する作品の制作活動に指導内容を反映した
  - 竹工芸分野の育成対象作家6名について、従来の工芸品中心の制作から、アートとして付加価値の高い作品制作へと軸足が広がっており、R7年度に展覧会を開催して、作家育成は順調に進捗している
- **海外発信事業に向けた準備・調査（1~2年目）**
  - 海外展覧会開催に向け、育成対象学芸員2名がサンフランシスコ・アジア美術館およびポートランド日本庭園と現地で打合せを実施した
- **デジタルアーカイブと発信（2年目）**
  - 地元メディアとのリレーションが非常に良好で、新聞・テレビで継続的に取り上げられており、海外現地調査の様子も記事化されるなど、プロセスも含めて地域に可視化されている
  - 竹工芸に関する展覧会は、制作プロセスも含めデジタルアーカイブを進め発信した







今後の活動予定

- **作品制作事業の継続実施（3年目~）**
  - コシノジュンコ氏とのコラボレーションにより制作した作品を当館にて展示する
- **アーティストコラボレーション（3年目~）**
  - 国内外から注目される著名なアーティストを大分市美術館に招聘し、育成対象者とのコラボレーション企画を行う
- **海外展示会等への参画および展示会の企画開催（4~5年目）**
  - アメリカ・サンフランシスコ、ポートランドにて展覧会を企画し、開催する
  - 海外アートフェスティバル・アートフェア等に参画する

採択事業名 **大分発アートプラクティス発信事業-竹/キュレーション・プロデュース**

実施施設 **大分市美術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 2年目に開催した国内企画展の開催により9件の高評価を獲得し、初期アウトカムを達成 ■ 3年目はコシノジュンコ氏とのコラボ展により更なる貢献を目指す
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 育成対象者 長谷川絢と青柳慶子は、次世代バンブーアート賞 優秀賞を受賞し、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	55	18	17	未達見込	R8年度は17本の実施を見込む ※年度毎の事業精査による
②主催事業入場者数・参加者（人）	364,547	111,381	157,852	達成見込（３年目）	R8年度は101,700人を見込む
③文化施設の企画・展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	15	0	9	達成見込（３年目）	R7年度、レビューを掲載の読売新聞社が、継続的に本プロジェクトを取材しており、R8年度も掲載が見込まれる。その他媒体含め計8件を見込む
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	26	0	14	達成見込（３年目）	R7年度を基準に、育成対象作家6名の紹介動画6本、イベントの様子や展覧会予告編動画、事業のアーカイブ動画など、計12件の発信を予定
⑤R8年度の自主企画展覧会観覧者数（R4~5年度平均比）（%）	180	85.5	119.7	達成見込（３年目）	R8年度は、自主企画展としてOITA BAMBOO PRIDE by JUNKO KOSHINOの成果と、テーブルセンターピース事業の成果発表の展覧会を開催予定（目標観覧者数8,000人）
⑥自主事業による新たなアーティスト育成の実施数（件）	23	17	31	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **大分発アートプラクティス発信事業-竹/キュレーション・プロデュース**

実施施設 **大分市美術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- コシノジュンコ氏との対話や指導者との面談を通じて、育成対象作家は工芸品中心の制作から、アートとしてのコンセプトを備えた作品制作へと軸足を広げている
- 育成対象学芸員2名は、米・サンフランシスコ アジア美術館、ポートランド日本庭園での調整や視察を通じて、展覧会企画、渉外、異分野協働の実践知を蓄積している
- アーティストについては、工芸志向からアート志向への意識転換が進んでおり、学芸員についても、個別業務にとどまらずプロデューサーとして事業全体を見渡す広い視野の獲得が期待される





館の機能強化的観点

- SNS、ウェブを開設し、制作過程や展示の様子を継続発信することで、アーカイブと広報の基盤を整備した
- 地元メディアとの関係が良好で、新聞、テレビで継続的に報道され、海外調査段階も含めて可視化されている
- 竹の組合や竹関連企業との接続も進み、大分市美術館が文化的・人的ハブとして機能する土台が強まっている
- 竹を軸とした地元企業との連携強化や、若手作家をコンスタントに海外に送り出せる海外美術館・マーケットとの関係性強化が、今後の館機能強化の中核となる





今後の取組において期待される点

- 竹工芸作家の育成について、工芸志向からアート志向への転換がどのような創作上の変化として現れているかを、作品と発表機会の両面から示していく
- 学芸員育成について、展覧会企画や海外交渉の経験を、個人の成長にとどめず、館内の他職員にも共有し、組織全体の実践知として浸透させていく
- 育成対象者と館職員がワンチームとして事業を進める体制をさらに強め、創作、支援、発信が連動する運営モデルとして磨き上げていく
- 地元企業や竹関連産業との連携を深め、竹を軸とした地域内エコシステムの形成につなげていく
- 海外美術館やマーケットとの関係性を継続的に強化し、若手作家をコンスタントに海外へ送り出せる回路を育てていく
- デジタルアーカイブやメディア露出を通じて、制作や調整の過程も含めたプロジェクト全体の価値を地域社会と次世代人材に還元していく
- 地方館におけるキュレーション、プロデュース、人材育成、国際展開を一体的に進めるモデルとして、全国の公立美術館に示していく
- 助成終了後も、途切れない継続的な仕組みを視野に入れ、美術館の役割拡張と新たな文化発信モデルの定着につなげていく
- 組織全体に事業目的を共有・浸透させ、育成対象者以外の職員にも改善意識を波及させることが期待される

採択事業名 **次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト**

実施施設 **国立科学博物館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

国立科学博物館および映像コンテンツ制作会社のメンバーからなるイノベイティブ映像開発ユニットのノウハウを統合し、博物館標本を実空間、仮想空間、マスメディア等の特性に応じて効果的に活用できる「次世代型学習コンテンツプロデューサー」を育成する

活動計画

第I期 （～3年目）

- イノベイティブ映像開発ユニットと共同で博物館標本に関する超高精細コンテンツの制作
- 展示・学習コンテンツの制作

第II期（～5年目）

- 超高精細コンテンツを活用した学習コンテンツの制作
- 上記を活用した、コミュニケーションモデルをアジア地域の博物館に対して提案

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 7名



篠田 謙一 | 国立科学博物館 顧問

古人骨のDNAを分析し、日本人の起源や人類の世界拡散について研究、書籍多数出版

国立科学博物館にて幅広い分野の特別展を監修



落合 淳 | NHKエデュケーショナル エグゼクティブプロデューサー

専門分野は科学番組や超高精細8Kコンテンツプロデュース。超高精細技術を生かし、中尊寺展展示映像、国立科学博物館の標本の超高精細3DCG化等行う。科学技術映像祭文部科学大臣賞等受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 14名

堤 千絵	国立科学博物館 植物研究部研究主幹
森田 航	国立科学博物館 人類研究部研究主幹
對比地 孝亘	国立科学博物館 生命史研究部研究主幹
井手 竜也	国立科学博物館 動物研究部研究主幹
田島 木綿子	国立科学博物館 動物研究部研究主幹
倉島 治	国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター マーケティング・コンテンツグループ長
小川 達也	国立科学博物館 学習課共創事業推進担当
久保 匡	国立科学博物館 常設展示・巡回展示課常設展示担当
大橋 紘樹	国立科学博物館 企画展示課特別展担当
泉谷 尚宏	国立科学博物館 財務課財務企画担当
日野原 竜	NHKエデュケーショナル チーフプロデューサー
藤原 桃子	NHKエデュケーショナル プロデューサー
植木 健太	NHKエデュケーショナル ディレクター
高嶋 一成	アフタイメージ テクニカルディレクター

採択事業名 **次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト**

実施施設 **国立科学博物館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **超高精細コンテンツの作成（1~2年目）**
  - 博物館所蔵の標本13体を超高精細で撮影を行い、3DCGモデリングを進めた。制作自体はほぼ完了段階にある
  - 育成対象者が、作成対象となる標本資料の選定から超高精細コンテンツの作成まで一貫して関与した
- **海外展開先の調査（1年目~）**
  - 主な展開先となるアジアの博物館へ今後のコンテンツ展開について検討を進めた
- **超高精細コンテンツの展覧会での公開（2年目）**
  - 制作した超高精細3DCGモデルを特別展および子ども向け科学博覧会で公開した
  - 超高精細3DCGモデルの一部をプラネタリウム施設において実験的に投影し、没入型体験を提供した
- **海外展開先との協議（2年目）**
  - 海外の展開先に関するリサーチを行い、第2期に向けた海外実施計画の具体的な検討を始めた
  - 調整中のアジアの博物館と、海外展に向けて協議した
- **高付加価値学習コンテンツ制作の継続（2年目）**
  - 本事業の広報用動画の日本語版・英語版を制作し、国内や海外で本事業の紹介を行った
  - 超高精細コンテンツの制作を継続し、高付加価値学習コンテンツの構想・開発を行った







今後の活動予定

- **国内展示会の実施（3年目~）**
  - 館の企画展示等に合わせて、高付加価値化した高精細コンテンツを活用し、イマーシブな体験を生み出す企画展示や学習プログラム等を実施する
  - R9年1月に館内で当該コンテンツを使った展覧会を計画しており、そこで実装の成果を示す予定である
- **海外展示会の開催準備（3年目~）**
  - 高付加価値学習コンテンツの作成を行い、展開先の海外の博物館においてイマーシブな体験を生み出す企画展示や学習プログラム等を展開する
- **海外展開先の調査や協議の継続（3年目~）**
  - これまで下調査を行ったアジア圏の博物館や、オーストリアで開催される国際的なフェスティバルの視察を行う
  - 調整中のアジアの博物館との海外展の協議やASEAN諸国等のアジアの現地調査を引き続き行い、海外展開に向けた準備を開始する

採択事業名 **次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト**

実施施設 **国立科学博物館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 3年目に行う超高精細コンテンツを用いた国内展覧会等の開催で、初期アウトカム達成を目指す
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 高付加価値学習コンテンツを用いたアジア地域博物館での海外展開が5年目であるため、第1期での長期アウトカム達成は困難だが、第2期での達成に向けて準備を進める

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	150	49	45	未達見込	R8年度は50本の実施を見込む ※年度毎の事業精査による
②主催事業入場者数・参加者（人）	7,500,000	2,634,382	2,706,545	達成見込（３年目）	R8年度は2,500,000人の入場を見込む
③文化施設の企画・展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	10	0	0	達成見込（３年目）	R8年度はこれまでに制作したコンテンツでの展覧会を実施。館の実績から10件を見込む
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	10	0	13	達成	
⑤超高精細映像を活用した展示や学習プログラム、番組等の開発数（件）	2	0	0	達成見込（３年目）	国内での展示に向けて、3DCGモデリングデータを活用したプログラム等5件の開発を行う
⑥本事業で制作された超高精細コンテンツのプロモート等の取組数（件）	2	0	3	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト

実施施設 国立科学博物館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 国立科学博物館とNHKエデュケーショナルの育成対象者が連携し、標本・資料の超高精細3DCGモデルや8K画像13体の制作を通じて、標本の学術的価値とデジタル化の特性を相互に理解した
- 海外展示に向けたプロモーションビデオ制作や、全国科学系博物館協議会での発信を通じて、研究、展示、発信を横断する実践的なプロデュース力が育っている
- 調整中のアジアの博物館との協議や、大英自然史博物館等の視察を通じて、育成対象者は海外館との対話や展開を具体的に担う視野を広げている




館の機能強化的観点

- 所蔵標本を超高精細3DCG化することで、来館者体験の拡張に加え、展示・教育普及活動の海外展開や研究利用の可能性を示している
- 調整中のアジアの博物館と、展示や研究協力に向けた協議が進み、海外博物館との連携が具体化している
- 常設展示での高精細映像活用や、海外博物館からも利用希望が寄せられるようなコンテンツ化が進めば、フォトグラメトリーを活用する先進的博物館としての国際的知名度向上につながる




今後の取組において期待される点

- 制作した超高精細映像や3DCGモデルを、館内展示や学習プログラムの中でどのように活用するかを具体的に示していく
- 高精細映像を常設展示や館外利用可能な学習コンテンツへ展開し、新たな学習手法として定着させていく
- 調整中のアジアの博物館との協議を着実に進め、海外展示の実現を通じて学習コンテンツの有効性を可視化していく
- 制作段階にある成果を、展示、教育普及、海外展開へと接続し、活用フェーズでの波及効果を示していく
- フォトグラメトリーや高精細映像活用を強みとする先進的博物館として、国際的な知名度向上につなげていく
- 研究員、展示担当、学習担当、映像制作者の協働で得た知見を、館内の他事業や他職員にも還元し、組織的な実践知として蓄積していく
- 助成終了後も継続可能な運用体制を視野に入れ、国立科学博物館の高付加価値化とアジア展開の基盤として育てていく
- 高精細映像を活用した新たな展示メソッドの開発や、館外でも利用できる学習コンテンツとしての応用範囲の拡大を通じて、新しいことにチャレンジする意識の醸成が期待される
- コンテンツ制作から、そのコンテンツを活用するフェーズに移行している点を踏まえ、成果の可視化を重点的に行う

採択事業名 **Global Exhibition Team（GET）による日本文化発信プロジェクト**

実施施設 **東京国立博物館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

若手キュレーター・デザイナー等の人材育成、アジア諸国やBRICS等のミュージアムとのネットワーク構築を行う。また、日本文化の魅力発信を通して、日本伝統文化の国際的なプレゼンスの向上、海外での日本文化ファン獲得・拡大を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 日本美術展の開催機会が少ないメキシコ、インドネシアを候補地として展覧会を開催
- 世界各地のミュージアムとの交流協定の締結

第II期（～5年目）

- 交流協定締結館のうち日本との関係強化が見込まれる地域に限定し、日本の美術展を開催
- 展覧会を適宜デジタルコンテンツ化し、情報を発信

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 15名



小山 弓弦葉｜東京国立博物館職員
東京国立博物館・上席研究員。染織を専門分野としており、特別展『人間国宝』、『きもの』、『江戸☆大奥』ほか多数展示実績あり



佐藤 寛介｜東京国立博物館職員
東京国立博物館 東博コレクション展チームリーダー。刀剣甲冑を専門分野としており、特別展『国宝 東京国立博物館のすべて』ほか多数展示実績あり

主な育成対象者

育成対象者数: 13名

沼沢 ゆかり	染織	東京国立博物館・工芸部門 研究員（キュレーター）
玉城 真紀子	東洋考古	東京国立博物館・海外展チーム 研究員（キュレーター）
野中 愛理	日本絵画	東京国立博物館・海外展チーム 研究員（キュレーター）
廣谷 妃夏	染織	東京国立博物館・特別展チーム 研究員（キュレーター）
増田 政史	日本彫刻	東京国立博物館・特別展チーム 研究員（キュレーター）
菊池 望	日本考古	東京国立博物館・東博コレクション展チーム 研究員（キュレーター）
荻堂 正博	展示設計	東京国立博物館・デザインチーム 研究員（デザイナー）
小島 有紀子	教育普及	東京国立博物館・社会連携チーム 主任研究員（エデュケーター）
宮城 加奈子	保存環境	東京国立博物館・保存修復チーム AF（サイエンティスト）
山口 朔実	展示調整	東京国立博物館・海外展チーム AF（コーディネーター）

採択事業名 **Global Exhibition Team（GET）による日本文化発信プロジェクト**

実施施設 **東京国立博物館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外博物館との共同研究活動（1年目~）**
  - 韓国国立中央博物館が所蔵する日本および朝鮮美術作品、資料の共同調査・研究を行った
- **海外博物館との交流協定締結に向けた活動（1年目~）**
  - プラハ国立美術館との交流協定締結、インドネシア国立博物館との協議を実施した
  - 各地の海外博物館とのMOU締結を進めた
- **海外博物館における展示ノウハウの習得（1年目~）**
  - 海外博物館における日本美術に適した展示環境の確保、興味関心を惹く展示方法のノウハウ習得を目的に現地のニーズ調査のため、現地博物館スタッフとの協議を実施した
  - インドネシア国立博物館にて展示室内の実測・環境調査を行った
- **海外向けコンテンツの開発・配信（1~2年目）**
  - 日本美術を題材とした動画コンテンツ制作を多言語でアーカイブ化した
- **国内展示・講演会の実施（1~2年目）**
  - トルコ・サバンジュ美術館に関する講演会を東京国立博物館で開催した
  - 東京国立博物館において韓国国立中央博物館所蔵作品の展示を行った
- **海外展示の実施（2年目）**
  - インドネシア国立博物館、韓国国立中央博物館、上海博物館において東京国立博物館所蔵作品の展示を行った
  - 韓国・中国・インドネシアで展示を実施し、交換展の実施など館としての海外発信実績が明確に積み上がっている







今後の活動予定

- **海外博物館との共同調査・連携の継続（3年目~）**
  - メキシコ国立人類学博物館、アイルランドの文化施設チェスター・ビーティーとの共同調査を行う
  - 各地の海外博物館とのMOU締結を進める
- **デジタルコンテンツの整備継続（3年目~）**
  - 海外展出陳作品のアーカイブ登録を継続する
- **国内外展示の実施（3年目~）**
  - 東京国立博物館においてチェスター・ビーティー所蔵作品の展示を行う
  - メキシコ国立人類学博物館において東京国立博物館所蔵作品の展示を行う
- **海外博物館との交流展に向けた準備（3年目~）**
  - 前年度までにMOUを締結した海外ミュージアムとの交流展示を計画する

採択事業名	Global Exhibition Team（GET）による日本文化発信プロジェクト
実施施設	東京国立博物館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 海外主要博物館（韓国中央博物館、中国上海博物館、インドネシア国立博物館） における展示、デジタルコンテンツの海外発信等により、34件の高評価を獲得し、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 海外主要博物館（同上）における展覧会実現により長期アウトカム3件を達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	104	27	32	未達見込	R8年度は17本の実施を見込む ※年度毎の事業精査による
②主催事業入場者数・参加者数（人）	7,000,000	2,563,820	2,225,567	達成見込（３年目）	R8年度は2,500,000人の入場を見込む
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）※1	10	0	34	達成	
④成果項目作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※1 KPI2	100	120	150	達成	R8にメキシコでの展覧会の実現により、100件以上の画像登録を見込む
⑤海外において公開した東京国立博物館所蔵品件数（件）※1	100	0	150	達成見込（３年目）	R8にメキシコでの展覧会の実現により、100件以上の出品数を見込む
⑥海外展の満足度指数（R6年度は講演会）（満足度％）※1	80	75	91	達成見込（３年目）	R8のメキシコでの展覧会でも、満足度80%以上を目指す
⑦若手育成による海外ミュージアムとの交流回数（件）※1	30	1	30以上	達成見込（３年目）	メキシコ・アイルランドのほか、MOU締結予定の海外ミュージアムとの交流により30件以上の実施を目指す
⑧東京国立博物館における外国人来館者数（万人）※1	50	59.6	50以上	達成見込（３年目）	海外において展覧会を開催することで、東京国立博物館の知名度アップにつながっており、R8年度も50万人以上の来館を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照 ※1 ③~⑧目標値は、各年度での達成を目標とする

採択事業名 Global Exhibition Team（GET）による日本文化発信プロジェクト

実施施設 東京国立博物館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点



- インドネシア国立博物館、上海博物館、韓国中央博物館で若手キュレーターが展覧会の中心を担い、海外展示を自ら動かす実践経験を蓄積した
- 育成対象者 山口朔実を中心に、パートナーシップ事業やロジスティクス対応など、国際展開を支える実務力が強化された
- 館職員が外部プランナー等と協働しながら、展覧会の魅力を高めるプロデュース視点を広げつつある
- 外部展示プランナーなどとの人的ネットワーク形成や、展覧会の魅力を高めるプロデュース力の向上を通じて、館職員の新しいことにチャレンジする意識醸成が期待される

館の機能強化的観点



- インドネシア、中国、韓国の各館担当者と関係を構築し、自前で海外展開催を行うためのネットワークが強化された
- 各国ミュージアムとのMOU締結により、展示だけでなく共同研究や継続的交流を進める基盤が整っている
- 出品作品のデータベース登録と多言語化を進め、東京国立博物館所蔵品の情報発信基盤を拡充した
- 海外連携室や国際部門の整備を含め、外部依存ではなく自ら国際展開を企画・交渉・実施する館内ノウハウの蓄積が進んでいる
- 関連催事の開催や外部展示プランナー起用を通じて、展覧会の話題性・集客力をさらに高める余地がある

今後の取組において期待される点

- 海外展を担った若手キュレーターの経験を、個別案件の実績にとどめず、館内で共有可能な国際展開ノウハウとして蓄積する
- 外部展示プランナーや海外関係者との接点を広げ、展覧会の構成力やプロデュース力の向上につなげる
- 関係館とのMOUを活用し、交流展示、共同研究、関連催事を連動させた継続的な国際発信へ発展させる
- デジタルコンテンツや多言語化した所蔵品情報を、海外展示と結びついた発信資産としてさらに活用する
- 学芸員育成の成果について、日常業務との差分が見えるかたちで整理し、どのような交渉力、構成力、実行力が育ったのかを示す
- 助成終了後も途切れず、自前で国際交流案件を組成できる体制として定着させ、東京国立博物館の持続的な海外発信力につなげる
- 自ら交渉・実現する体制へ転換し、館独自の企画力等を強化する

採択事業名 **グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト**

実施施設 **森美術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

建築家の藤本壮介氏の展覧会の企画・制作・海外巡回や、シンポジウム・ワークショップを通じた、森美術館外の中堅・若手キュレーター等の育成を実施する

活動計画

第I期 （～3年目）

- 3年間でアジア1~2会場での藤本壮介展の巡回を実施
- 国際展のディレクター経験者を招聘し、ワークショップと国際シンポジウムを開催

第II期（～5年目）

- ワークショップ参加キュレーターを海外機関や芸術祭のスタッフとして派遣（変更予定）

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



Photo：Jan Buus

藤本 壮介 | 建築家

2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞『ラルブル・ブラン（白い樹）』に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任



Photo：Shintsubo Kenshu

片岡 真実 | 森美術館館長

2003年より森美術館。2020年より現職。海外美術館・芸術祭にてキュレーター、芸術監督経験多数。CIMAM（国際美術館会議）では2014~2022年に理事（2020～2022年に会長）を歴任

主な育成対象者

育成対象者数: 23名



近藤 健一 | 森美術館シニア・キュレーター

2014-15年ハンブルガー・バーンホフ現代美術館客員研究員。国内外にて多数の企画・共同企画経験あり

※ R8年3月末まで



椿 玲子 | 森美術館 キュレーター

2002年より森美術館所属。国内外にて多数の企画・共同企画経験あり



高橋 美奈 | 森美術館 コーディネーター

展示制作グループにて展覧会コーディネーター担当。海外巡回含む複数展覧会に関わる。2013年より森ビルのパブリックアート設置も担当

No Image

三宅 さくら | 森美術館 コーディネーター

毎日新聞社にて展示会制作業務に従事したのち、2023年より現職。森美術館では、『ルイーズ・ブルジョワ展』（2024-2025）等の展示・制作を担当

No Image

清水 美咲 | 森美術館 アシスタント

2023年より現職。『私たちのエコロジー』（2023-2024）、『MAMリサーチ10：1980~1990年代、台湾ビデオ・アートの黎明期（展覧会編）』（2024-）等を担当

※ R8年1月末まで

他、国際展プロジェクト（建築編）の育成対象者8名
国際展プロジェクト（現代アート編）の育成対象者10名

採択事業名 グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト

実施施設 森美術館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外展示に関わる基礎知識の習得と人的ネットワークの形成（1~2年目）**
  - 育成対象者を台北に派遣、現地美術館との人的ネットワークを構築し、海外での展示設営の基礎を習得した
- **藤本壮介展開催に係る準備（1年目）**
  - 企画内容、展示プランについて藤本壮介氏と協議・策定を実施した
  - 展示模型の輸送・制作コーディネーション業務を進行した
- **藤本壮介展の開催（2年目）**
  - 森美術館にて『藤本壮介の建築：原初・未来・森』展を開催した
  - 海外リサーチや藤本事務所との協働を積み重ねることで斬新な展示構成や大規模な模型展示が実現し、来場・メディア評価ともに高い実績を上げた
- **藤本壮介展海外巡回に向けた準備（1~2年目）**
  - 森美術館の既存ネットワークを生かし、巡回先候補館へのアプローチを実施し、台北、欧州の美術館へ提案した
  - 台湾・韓国の美術館と巡回展開催について決定し、さらにヨーロッパ展開も基金なしで実施できる水準に達している
- **国際展プロジェクトの実施（2~3年目）**
  - 建築キュレーターの育成を目的に、海外の著名キュレーター3名を招聘し、シンポジウムと合宿型ワークショップを実施
  - 現代アートのキュレーター育成を目的に、海外の著名キュレーター3名を招聘し、シンポジウムと合宿型ワークショップを実施





展示風景：「藤本壮介の建築：原初・未来・森」
森美術館(東京) 2025年
撮影：八代哲弥　画像提供：森美術館



撮影：山根香、加藤菜々子
画像提供：森美術館

今後の活動予定

- **藤本壮介展海外巡回（3年目）**
  - 台湾・韓国の美術館と巡回展を実施する
- **藤本壮介展開催に係るアーカイブ整理（3年目）**
  - 実施した藤本壮介展国内展開催時のアーカイブ整理を行う
- **国際シンポジウム等の準備（3年目）**
  - 国際的なシンポジウムやワークショップの実施を通して、拠点形成のための事業を行う
  - 第2期は、シンポジウム・ワークショップを通じた国際展プロジェクトに軸足を移して継続する見込みである
- **海外美術館の調査・視察（3年目）**
  - 海外美術館との更なるネットワーク構築に向けて、海外美術館の調査や視察を実施する

採択事業名 グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト

実施施設 森美術館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 国内での『藤本壮介の建築：原初・未来・森』展の開催により、50件の高評価を獲得し、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 『藤本壮介の建築：原初・未来・森』展の企画・制作、国際シンポジウムやワークショップから得たキュレーションの知見を活かし、JUT Art Museum（台湾）、National Asian Culture Center（韓国）での巡回展開催により、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	34	11	7	未達見込	R8年度は8本の実施を見込む ※昨今の国際情勢やサステナビリティへの配慮から、展覧会会期の長期化と開催本数の最適化を進め、展示内容の深化と収支バランスの安定化を図った。結果的に来場者数は増加し、海外美術館への巡回事業実施のリソース創出にもつながった
②主催事業入場者数・参加者数（人）	1,106,000	354,921	457,781	達成見込（３年目）	R8年度は368,750人の入場を見込む
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	50	-	50	達成	新聞、WEB、雑誌等の高評価と判断できる主要展評等掲載数50件
④成果項目作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	30	1	21	達成見込（３年目）	R7年度実施で編集中のコンテンツも含め、R8年度内9件の公開を見込む
⑤企業、個人協賛金収入、コンテンツ海外輸出による企画料収入（万円）	4,700	700	6,500	達成	

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 グローバル・アート・プロフェッショナル育成プロジェクト

実施施設 森美術館

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象者の近藤健一、椿玲子は、指導者藤本壮介氏や倉方俊輔氏との協働を通じて、建築を体験的に見せる展覧会構成を学び、論考やエッセイ執筆にも展開した。高橋美奈、三宅さくら、清水美咲は、輸送、大型模型制作、インスタレーション管理、展示実務を担い、建築展制作と巡回準備の実践知を蓄積した
- 国際展プロジェクトでは、建築・現代美術のワークショップとシンポジウムを通じて、参加者が企画の言語化、国際展を前提としたプロポーザル作成、国際的な発信視点を養った
- 国内外の若手キュレーター約10名規模の育成機会が設けられており、人材育成の射程が広がっている




館の機能強化的観点

- 藤本展プロジェクトは、基金なしでも欧州展開を進められる段階に達しており、基金助成対象から卒業して自立運営に移行した好事例となった
- JUT Art Museum、National Asian Culture Centerから巡回展開催の内諾を得て、さらに基金外での欧州展開も視野に入るなど、国際巡回を自立的に進める実装段階にある
- 海外の建築専門キュレーターや国内の中堅・若手キュレーターとのネットワーク形成、専門プログラム運営の蓄積により、森美術館の国際的ハブ機能が強化されている




今後の取組において期待される点

- 藤本壮介展の巡回を通じて、館内で育成した建築キュレーション、展示制作、輸送、設営の知見を、実践の中でさらに定着させる
- 第2期は、シンポジウム・ワークショップを通じた国際展プロジェクトに絞って継続するため、館の国際ハブ機能強化に重点を置くことが期待される
- 国際展プロジェクトに軸足を移し、シンポジウムやワークショップを通じた若手・中堅キュレーターの国際展対応力を継続的に高める
- 海外の著名キュレーターとの関係を一過性の交流にとどめず、参加者の国際展参加や海外機関派遣へと接続する
- 助成終了後も自走可能な体制を維持し、基金の支援から卒業した先進事例として、持続的な国際発信の仕組みを示す
- 外部展示プランナーや海外専門家との協働を深め、展覧会の話題性や集客力を高める関連企画の展開にもつなげる

採択事業名 **Constellation**
~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~

実施施設 **愛知県芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

育成対象者によるダンス作品の創作活動を行い、愛知県芸術劇場で初演、国内で再演、海外公演まで実施する、加えてプロモーション強化事業及び海外プロモーション活動を行う。これらの事業に愛知県芸術劇場の制作者・舞台技術者等も参画し、海外公演を実施できる技能・ネットワークを構築する

活動計画

第I期 （～3年目）

- R6年度より指導者と伴走し、創作活動を開始
- 見本市参加、国際会議等でのプロモーション活動を通じ上演機会の開拓・再演

第II期（～5年目）

- 3年目までの成果を踏まえ、更なる国内での再演および海外公演を実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 9名



©Tatsuo Nambu

唐津 絵理 | プロデューサー

愛知県芸術劇場を中心に、ダンスの公演・普及・育成等あらゆる企画に携わる。2024年愛知県芸術劇場芸術監督・常務理事に就任

2022年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞



©Yutaka Mori

平山 素子 | ダンサー・振付家

2005年より本格的に振付家としての活動を開始

新国立劇場、愛知県芸術劇場にて多数の上演経験あり。2009年芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 13名



酒井 はな | ダンサー

クラシック・バレエを中心に、ミュージカル、コンテンポラリーダンスにも挑戦。2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年ニムラ舞踊賞等受賞、2017年紫綬褒章受章

©HATORI Naoshi



島地 保武 | ダンサー・振付家

海外でダンサーとして活躍後、帰国し酒井はなとユニット“Altneu〈アルトノイ〉”を結成。近年フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラムに選出され滞在制作を実施

©HATORI Naoshi



三東 瑠璃 | ダンサー・振付家

生きることが踊ること。自作自演ソロ『Matou』（2015）は世界14カ国21 都市で上演され続けている。2017年〈Co.Ruri Mito〉結成。2017年土方巽記念賞、2020年文化庁芸術祭新人賞受賞

©HATORI Naoshi



黒田 勇 | ダンサー・振付家

第21回Art-M in 富山2018最高賞の松本千代栄賞受賞。座・高円寺ダンスアワード受賞。岡田玲奈とダンスユニット〈Null〉を立ち上げる。演劇、バックダンサー、CM出演等活動の場を広げる

©HATORI Naoshi



岡田 玲奈 | ダンサー・振付家

幼少よりモダンダンスを学ぶ。黒田勇とダンスユニット〈Null〉を立ち上げる。そのほか振付家作品への出演や演劇・ミュージカルの振付助手、MV・CM出演等活動中

©HATORI Naoshi

他、愛知県芸術劇場職員２名（制作 １名、照明 1名）
外部スタッフ４名（舞台監督、衣装／制作、演出助手／制作）
ライター2名

採択事業名 **Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~**

実施施設 **愛知県芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **作品の制作（1~2年目）**
  - 海外公演を目指した酒井はな・出演『ジゼルのあらすじ』、島地保武・振付『Dance for Pleasure』、三東瑠璃・振付『満ちる』、Null・振付『WITH LiMBO』を制作した
- **国内公演の実施（1~2年目）**
  - 1年目、酒井はな・出演『ジゼルのあらすじ』、島地保武・振付『Dance for Pleasure』を愛知県芸術劇場及びKAAT神奈川芸術劇場にて上演し、作品のさらなる質向上を目的とし、2年目にリクリエイションを実施した
  - 2年目、三東瑠璃・振付『満ちる』を愛知県芸術劇場大リハーサル室及び横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）で上演した
- **海外公演の実施（2年目~）**
  - 酒井はな・出演『ジゼルのあらすじ』をドイツ・ハンブルクのタリア劇場、オランダ・ユトレヒト市立劇場で上演した
- **国内外でのプロモーション活動（1~2年目）**
  - 横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）で作品のプレゼンテーションを行い、来場した海外コーディネーターへプロモーションを行った
  - 海外コーディネーターとの交渉経験が豊富な指導者と共に、育成対象者がオランダやドイツにて舞台関係者と交流し、人的コネクションを形成した
  - 制作陣が各地でプレゼンテーションを行い、国内初演前から海外展開先が決まる案件も生まれている
  - 特設ウェブサイト制作やプレスリリース発信など、広報・発信面でも先行的な取組を進めている
- **他自主事業とのコラボレーション（2年目~）**
  - 『AICHI NEXT』『劇場ワンダーランド』等にダンスアーティストが参画し、普段ダンスと接点の少ない客層へも魅力を広める


©HATORI Naoshi


@Joseph Marcinsky


@Joseph Marcinsky

今後の活動予定

- **国内公演の継続（3年目~）**
  - これまでに制作した作品の国内での上演に向けた準備と、作品のさらなる質向上を目的としたリクリエイションを実施する
- **海外公演の継続（3年目~）**
  - これまで事業で制作・上演した作品をヨーロッパ、アジア等へ展開し海外公演を実施する
  - R8年9月にはNull『WITH LiMBO』がスロバキアで上演予定
- **発信力強化の継続**
  - 作品評価、発信を適切に行う評論家・ライターの育成事業を開始する
  - 本事業特設サイトやSNS運営、プロモーション用映像制作を行う
  - ヨーロッパ・カナダ・香港等の海外見本市の視察を引き続き実施する

採択事業名 **Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~**

実施施設 **愛知県芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 国内外公演の継続や2年目以降の他自主事業（『劇場ワンダーランド』等）とのコラボレーションにより、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 育成対象者 酒井はな出演作が、欧州演劇祭（『レッシングターゲ演劇祭2026』、『スプリング・パフォーミングアーツ・フェスティバル』）に招聘され、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	87	25	45	達成見込（３年目）	R8年度は30本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者（人）	59,500	22,414	29,386	達成見込（３年目）	R8年度は20,500人の入場を見込む
③文化施設の企画・展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	15	1	5	達成見込（３年目）	国内外での公演のレビューが掲載されるよう媒体への声掛けを引き続き行い、海外市場へアプローチにもつなげられるよう引き続き注力し、9件の評価獲得を見込む
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	-	-	-	-	-
⑤本事業で創作された作品の再上演回数（回）	20	4	6	未達見込	本採択事業で創作する4作品につき5回以上を目標とし、『ジゼルのあらすじ』は再上演5回をすでに達成。 予算規模との調整により、R8年度は4件の公演を見込む
⑥育成する振付家・ダンサーや当該作品等のメディア掲載総数（件）	600	150	312	達成見込（３年目）	地域業界紙や業界紙（ウェブマガジンを含む）をはじめ、報道や一般誌等にもアプローチし、海外公演時に掲載を集中させる計画。R8年度は400件を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **Constellation ~世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト~**

実施施設 **愛知県芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象者 酒井はな、島地保武、湯山千景、鷹見茜里、二河茉莉香は、ドイツ公演を通じて、海外上演の現場対応力と国際的な制作・技術の知見を蓄積した
- 育成対象者 二河茉莉香、上林元子、菅井一輝、村松里実が、海外展開を見据えた資料作成や売り込みの実務を学び、プロデュース視点を深めた。岡田玲奈、黒田勇らは、振付の深化に加え、舞踊の歴史的背景や文化政策の文脈の中で自らの活動を捉える視野を得た。井出裕子、横井ゆきえは、批評・レポートを執筆し、ライターとしての実践力を高めた



©HATORI Naoshi



©HATORI Naoshi

館の機能強化的観点

- 特設ウェブサイトを開設し、愛知県芸術劇場の発信と海外交渉の基盤を整備した
- 横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）、EUジャパンフェスト、AAPPAC（アジア太平洋舞台芸術センター協会）等を通じて、アジアと欧州の関係者との接点を拡大し、Nullのスロバキア公演や作品提案の具体化につなげた
- ドイツ、オランダでの海外公演や、国内他館での再演実績を通じて、劇場発作品の流通実績を積み上げている



Lessingtage2026（タリア劇場/ドイツ・ハンブルク）より　photo by Thalia Theater/Fabian



Lessingtage2026（タリア劇場/ドイツ・ハンブルク）より

今後の取組において期待される点

- 作品の海外展開を通じて、劇場発の作品創作を継続していく
- 海外公演プロデュースの経験を、個人の蓄積にとどめず、館内スタッフ間で共有・継承し、劇場全体の国際展開力として定着させる
- ダンサー、制作、舞台技術、ライターを含む多職種育成の成果を横断し、育成モデルとして整理する
- 世界とつながるダンス拠点としての認知を高め、国内の劇場、見本市、芸術祭との関係を強め、さらなる展開を目指す
- ウェブサイト、映像、プレスリリース等を活用した広報を継続し、上演だけでなく海外向けPRまで自走できる体制につなげる

採択事業名 **無隣館インターナショナル**

実施施設 **江原河畔劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

江原河畔劇場をフランチャイズする劇団青年団の人材育成ノウハウを生かし、国際的に活躍する劇作家・演出家・舞台スタッフ・制作者を育成する。国際プロジェクトを制作・実践する拠点劇場となることを目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

- 合宿・オンラインによる海外展開の教養講座の提供
- 海外プロデューサーのマッチング、海外フェスティバルへの派遣
- 豊岡演劇祭等での字幕付き上演の実施

第II期（～5年目）

- 国際共同制作、海外劇場・フェスティバルからの委嘱作品制作に向けた研修の実施
- 育成対象者全員の海外公演の実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 6名



©Tsukasa Aoki

平田 オリザ ｜ 劇作家・演出家
1995年岸田國士戯曲賞他受賞歴多数、2011年仏国芸術文化勲章受勲。2021年芸術文化観光専門職大学学長



杉山 至 ｜ 舞台美術家
2006年 カイロ国際演劇祭ベストセノグラフィーアワード、2014年 読売演劇大賞最優秀スタッフ賞、受賞。2021年 芸術文化観光専門職大学准教授

主な育成対象者

育成対象者数: 15名



上ノ空 はなび ｜ 演出家
パフォーマンスカンパニーto R mansion全作品の演出、振付、プロデュースを行い、18カ国84都市の演劇祭やストリートフェスに招聘されている。近年、演出ユニット・スカンクスパンクを結成

©Chiye NAMEGAI



宮崎 玲奈 ｜ 劇作家・演出家
ムニ主宰・劇作家・演出家。『ことばにない』第1回日本みどりのゆび舞台芸術賞 HOPE 賞受賞 ／『真昼森を抜ける』第11回せんがわ劇場演劇コンクール演出家賞



松原 俊太郎 ｜ 劇作家・演出家
戯曲『みちゆき』第15回AAF戯曲賞大賞を受賞（2015）。戯曲『山山』が第63回岸田國士戯曲賞を受賞（2019）

© HISAKI MATSUMOTO



高羽 彩 ｜ 劇作家・演出家
プロデュースユニット『タカハ劇団』の主宰・脚本・演出。アニメ・実写ドラマ・ゲームシナリオとジャンルを問わず活躍の場を広げている

撮影：塚田史香



福名 理穂 ｜ 劇作家・演出家
劇作家、演出家、ぱぷりか主宰。『柔らかく揺れる』にて第66回岸田國士戯曲賞受賞（2021）

©矢野瑛彦



穴迫 信一 ｜ 劇作家・演出家
現代演劇を制作する芸術団体『ブルーエゴナク』代表・劇作家・演出家。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェローⅠ。THEATRE E9 KYOTO第3期アソシエイトアーティスト

©岩原俊一

採択事業名 **無隣館インターナショナル**

実施施設 **江原河畔劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **育成対象者向け研修の実施（1年目~）**
  - 国際的な演劇人に求められる教養、企画力、社交力を身に着ける目的で全12回教養講座を実施した
  - 江原河畔劇場にて合宿を行い、集団創作プログラムや、国内外のプロデューサーによるセミナーを開催した
- **海外公演に向けた準備（1年目~）**
  - 育成対象者1人ひとりとの総計300回を超える丁寧な個別面談を通じ、売り込み先の地域・国、初回上演会場（演劇祭、劇場、大学等）を選定した
  - 海外上演に向けた最適な作品選定を行い、字幕付き上演となるため翻訳・字幕制作を行った
- **海外公演に向けた準備の継続（2年目）**
  - 翻訳台本作成等の基礎知識を含む教養講座を実施した
  - スコットランド、アイルランド、韓国、チリの国際演劇祭を視察し、国際演劇祭の運営の仕組みを学ぶ機会を提供した
  - ネットワーキングを目的とし現地プロデューサーとの交流を広げた







今後の活動予定

- **合宿研修の実施（3年目）**
  - 1週間の合宿によって、これまでの活動を総括し、第2期に向けての計画を最終立案する
- **海外公演の実施（3年目）**
  - 国内でのプレ公演を経て、韓国、チリ、アイルランド、スコットランド、ドイツ、ベルギー、オーストリア何れかでの海外公演を実施する
- **国内公演の実施（3年目）**
  - 豊岡演劇祭での公演を通し、国際的な演劇祭のあり方について学ぶとともに、受講者同士の相互批評もあわせて実施する
- **国際共同制作の実施（3年目）**
  - 江原河畔劇場の他、城崎国際アートセンター、豊岡演劇祭等をプラットフォームとして4年目に国際共同制作を行う

採択事業名 **無隣館インターナショナル**

実施施設 **江原河畔劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 2年目の松原俊太郎 脚本『魔法使いの弟子たちの美しくて馬鹿げたシナリオ』の国内公演（豊岡演劇祭等）により初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 3年目の海外公演により長期アウトカム達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	33	11	21	達成見込（３年目）	R8年度は18本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者数（人）	13,320	3,781	4,442	達成見込（３年目）	R8年度は4,800人の入場を見込む
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	20	0	3	未達見込	R8年度は国内外の演劇祭で講演を実施。プレゼンターや記者、批評家らと接点を持つ予定であり、10件以上の掲載を見込む
④成果項目作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	-	-	-	-	-
⑤海外プロデューサー、芸術監督とのマッチング数（件）	30	0	37	達成	
⑥海外からの上演についての問い合わせ数（件）	15	0	4	達成見込（３年目）	R8年度は育成対象者が海外で上演計画をプレゼン予定。R8年度は11件を見込む
⑦海外における批評掲載数（件）	10	0	0	達成見込（３年目）	R8年度から、韓国をはじめ海外での公演を複数予定しており、現地での掲載を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **無隣館インターナショナル**

実施施設 **江原河畔劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 個別面談と進路設計のもと、育成対象者は翻訳、字幕付き上演、海外視察、実践発表を通じて、それぞれの適性に応じた国際展開の具体像を持ち始めている
- 豊岡演劇祭2025では、上ノ空はなび、松原俊太郎、宮崎玲奈らがアーティストとして参加し、海外プロデューサーとの対話を通じて、自作を国際的文脈で伝える経験を積んだ
- 育成対象者 奥田祐はアイルランド、升味加耀・山本ジャスティン伊等・山本真生は韓国、松本一歩はチリでの研修を実施、海外研修後のプレゼンやワークショップ計画が具体化し、次段階への移行が進んでいる




撮影：3waymoom
画像提供：豊岡演劇祭実行委員会

館の機能強化的観点

- 無隣館インターナショナルの特設ウェブページを開設し、育成対象者19名（候補含む）のプロフィールや事業紹介英訳資料を公開することで、国際発信の基盤を整備した
- 豊岡演劇祭期間中の合宿を核に、参加者同士と国内外プロデューサーをつなぐ交流機能を拡充した
- 劇場が有する海外ネットワークと国際的信用を活用し、各地の有力プロデューサーやフェスティバルディレクターとの直接接点を創出し、とくに韓国ではワークショップ実現までの速度を高めた




撮影：3waymoom
画像提供：豊岡演劇祭実行委員会

今後の取組において期待される点

- 育成対象者同士が継続的に交流できる劇場側のコミュニティづくりを促進し、各人の活動を水平展開させながら、専門知識や国際展開スキルを相互に高め合うことが期待される
- 豊岡演劇祭や城崎国際アートセンターを活用し、海外プロデューサーとのマッチングを継続的な上演機会へ発展させる
- 海外公演や国際共同制作への実現に向けて、視察や字幕付き上演で得た成果を活用する
- 広報活動を強化し、場としての価値や地域波及も含めて、劇場の役割拡張をより明確に示す
- 育成対象者の活動を還元すべく、近隣アートセンターや教育機関、豊岡演劇祭等との連携を強化し、劇場をハブとして地域全体が更に豊かな創造の場となる

採択事業名 **ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト “STRANGE Lab.”**

実施施設 **SPAC-静岡県舞台芸術センター**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

SPAC-静岡県舞台芸術センターがストリートシアター作品を制作することで、誰もが親しめるストリートシアターの実施ノウハウを蓄積し、国際的な舞台芸術市場にも育成対象者を輩出する

活動計画

第I期 （～3年目）

- ストリートシアター作品を創作し、国内での上演の実施
- 海外のストリートシアターフェスティバルとのネットワークを構築
- 海外の野外フェスティバルからの招聘

第II期（～5年目）

- 国内でのツアー公演の実施
- 海外の野外フェスティバルからの招聘

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 3名



ウォーリー 木下 | 演出家・劇作家
ノンバーバルパフォーマンス集団 THE ORIGINAL TEMPOのプロデュースを行い、エジンバラ演劇祭にて5つ星を獲得、海外にて国際共同製作を行い、高い評価を得ている。東京2020パラリンピック開会式演出を担当、第49回菊田一夫演劇賞受賞



宮城 聰 | 演出家
第3回朝日舞台芸術賞受賞。第2回アサヒビール芸術賞受賞。第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。第50回国際交流基金賞受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 5名



鈴木 ユキオ | 振付家・ダンサー
2008年『トヨタコレオグラフィーアワード』にて次代を担う振付家賞（グランプリ）を受賞。2012年フランス・パリ市立劇場『Danse Elargie』で10組のファイナリストに選出



大熊 隆太郎 | 演出家・俳優・パフォーマー
2008年劇団壱劇屋を結成。2022年度大阪文化祭奨励賞受賞。京都でロングラン公演中の『ギア-Gear-』マイムパートに出演。ストレンジシード静岡には過去7回参加



安本 亜佐美 | 演出家・サーカス・アーティスト
京都市立芸術大学院卒業後、英国サーカス学校へ。帰国後、京都を拠点に現代サーカス・アーティストとして活動。産業ロープアクセス国際資格IRATA level1を所持



ゼロコ | 演出家・パフォーマー
角谷将視と濵口啓介によるフィジカルコメディデュオ。2016年に設立。オーストリア、タイ・バンコク等海外のストリートフェスティバルに参加。2019年エジンバラ・フェスティバル・フリンジにてAsian Arts AwardのBestComedy賞受賞

採択事業名 ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト “STRANGE Lab.”

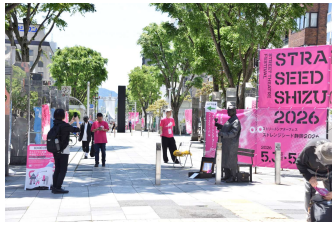
実施施設 SPAC-静岡県舞台芸術センター

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **ストリートシアターに関する基礎知識習得（1~2年目）**
  - ➢『ストリートシアターってなんだ？ゼミ』（全 6 回）を実施。海外のフェスティバル事例や国内外のアーティスト等の知見を得、ストリートシアターの特性を学んだ
- **ストリートシアター作品の創作支援（1~2年目）**
  - ➢『ストレンジシード静岡2025』で上演する作品創作の伴走支援を行った
  - ➢ ドラマトゥルギーやアピールポイントについて検討を深めた
- **海外ストリートシアターフェスティバルの調査（2年目）**
  - ➢ フランス・シャロン、イギリス・ストックトンへの視察を行った
- **ストリートシアターフェスティバルとのネットワーキング（2年目）**
  - ➢ 海外ストリートシアター関係者とのネットワーキングを実施した
- **国内公演の実施（3年目~）**
  - ➢『ストレンジシード静岡2026』で安本亜佐美（Co.SCOoPP）『誘影灯』、大熊隆太郎『末待奉祭2026』、ゼロコ『ベンチ』を上演した







今後の活動予定

- **ストリートシアター作品の創作支援（3年目~）**
  - ➢ 豊岡演劇祭での大熊隆太郎 公演、下呂Art Discoveryでのゼロコ 公演をプロデュースする
- **海外ストリートシアターフェスティバルの調査およびネットワーキングの継続（3年目~）**
  - ➢ 韓国、カンボジアへのフェスティバルへ育成対象者を派遣し、現地視察とストリートシアター関係者とのネットワーキングを実施する
  - ➢ 国内でのストリートシアター普及のため、アートフロントギャラリー等と連携し国内フェスティバルとのネットワーキングを行う
- **ストリートシアター作品の海外上演に向けた支援（3年目~）**
  - ➢ 海外フェスティバルでの上演に向けた伴走支援を行う
- **ワークショップの実施（3年目~）**
  - ➢ 育成対象者によるワークショップを実施する

採択事業名 ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト “STRANGE Lab.”

実施施設 SPAC-静岡県舞台芸術センター

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 国内の上演（『ストレンジシード静岡』）により、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 育成対象者 安本亜佐美が『Ansan Street Arts Market』に招聘され、長期アウトカム1件を達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	252	89	93	達成見込（３年目）	R8年度は89本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者数（人）	102,000	31,343	32,265	未達見込	R8年度は30,500人の入場を見込む ※人数制限を設ける事業が増加している
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	3	-	1	達成見込（３年目）	R8年度はペイドパブでの記事掲載を実施するなど、4件の評価を獲得見込み
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件） KPI2	2	-	4	達成	
⑤海外専門家の視察訪問数（人）	10	-	4	達成見込（３年目）	韓国・釜山から4名、その他、韓国2名、イギリス2名、カンボジア1名、香港1名、計10人の視察を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 ストリートシアター グローバル人材育成プロジェクト “STRANGE Lab.”

実施施設 SPAC-静岡県舞台芸術センター

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- ストレンジシード静岡2025で、大熊隆太郎（壱劇屋）、安本亜佐美（Co.SCOoPP）、鈴木ユキオ（鈴木ユキオプロジェクト）、ゼロコが上演し、韓国の専門家の助言を受けて次の上演に向けた課題を具体化した
- 『なんだ？ゼミ企画』を通じて、育成対象者はストリートシアター作品を継続的に磨き、展開する視点を強めている
- 海外視察を通じて世界基準のストリートシアターの知見を得、海外展開を見据えた創作意欲とプレゼンテーション意識を高めている




館の機能強化的観点

- ストレンジシード静岡を核に、ストリートシアターの創造プラットフォームとしての機能を広げている
- 韓国ストリートシアターフェスティバル、XTRAX等との連携模索や専門家視察を通じて、国内外のストリートシアター・ネットワークを形成している
- 静岡市の文化事業、釜山との共同制作、地域おこし協力隊事業、国際交流基金との連携など、他事業と組み合わせた展開基盤を整えている




今後の取組において期待される点

- 海外視察や専門家助言を通じて得た知見を、オープンコール応募や海外招聘の実現へと着実に接続する
- 育成アーティスト作品へのSPAC俳優の参加や、育成対象者の館内ワークショップ参加を通じて、創作手法の相互還流を深める
- 約30年の劇場運営で培った既存事業と本取組を有機的に結びつけ、顧客開拓や新たな観客層形成にもつなげる
- 広報展開を更新し、ストリートシアターという新領域の意義と成果を、館の取組として国内外に発信する
- ストリートシアターを国内の芸術祭へ水平展開し、SPACが同分野のハブとして機能を強化する
- 海外関係者や国内芸術祭との人的ネットワーク形成に加え、国内では一般的でないストリートシアターのパイオニアとして、多様な作品制作へ挑戦する意欲の向上が期待される

採択事業名 **劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト**

実施施設 **世田谷パブリックシアター**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

指導者と育成対象の若手クリエイターが国内外で共同作業を行い、演劇作品を世田谷パブリックシアターがプロデュースし、国内外で発表を行う。舞台芸術に携わる様々な職種の劇場職員の育成を同時に行う

活動計画

第I期 （～3年目）	第II期（～5年目）
• 育成対象者作品の出演人材選抜ワークショップ・オーディション開催 • 3年目には、育成対象者を中心に新作を創作・上演 • 海外上演に向けて英国クリエイターとワークショップの実施	• 既存作品の国内再演やデジタルアーカイブ、海外ツアー公演を実施 • 韓国、東南アジア地域の劇場での上演、演劇人と人材分野での交流 • 日英共同制作作品の新作を上演

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



白井 晃 | **演出家**

劇団主宰、KAAT神奈川芸術劇場芸術監督を経て、22年4月、世田谷パブリックシアター芸術監督に就任。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞、湯浅芳子賞 （脚本部門）等受賞歴多数

ジェニファー・バクスト（演出家、ドラマトゥルク）

滝口 健（ドラマトゥルク、翻訳者）

浅田聡子（プロデューサー）

主な育成対象者

育成対象者数: 4名



生田 みゆき | **演出家**

2011年、文学座附属演劇研究所入所（51期） 。2010~2014年、『ペーター・コンヴィチュニーオペラ演出ワークショップ』参加。2016年、ドイツ文化センター文化プログラムの語学奨学金（芸術分野対象）でドイツに滞在。第31回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞



万里紗 | **翻訳家・俳優**

俳優として舞台やミュージカルを中心に活動。近年は英語力を生かし、NHK WORLD『no art, no life plus』の英語ナレーションを務めるほか、戯曲翻訳にも取り組む。代表的な翻訳作に米国トニー賞ノミネート作品『A Walk in the Woods』（リー・ブレッシング作）、北マケドニア演劇『Big Deal』（ミア・エフレモヴァ作）、フランシス・ターンリー作『原宿ガールズ』など



鈴木アツト | **劇作家・演出家**

2003年劇団印象-indian elephant-を旗揚げ。15年国際交流基金アジアセンター アジアフェローとして、タイに2ヶ月滞在。また、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として英国・ロンドンに10ヶ月留学。19年には、ポーランド・ベンジン市のドルマーナ劇場から招聘され、『Ciuf Ciuf!（チュフ・チュフ）』（作・演出）を滞在創作した。日韓演劇交流センターの事務局長も務める

※そのほか俳優、スタッフら多様な職種の若手クリエイターをワークショップ・ オーディション等を通じて選考を行う予定

採択事業名 **劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト**

実施施設 **世田谷パブリックシアター**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **国際共同制作に向けた準備（1年目~）**
  - 国際共同制作の題材戯曲を英国側クリエイションチームと検討した
- **オーディション型ワークショップの実施（1~2年目）**
  - 育成対象者のオーディションを兼ねた若手アーティスト向けワークショップを行った
- **国内公演の実施（2年目）**
  - シアタートラムで『不可能の限りにおいて』リーディング公演を実施した
  - 韓国側から提案があった『紅い落葉』のリーディング公演を実施した
- **海外公演の準備・実施（1~2年目）**
  - 英国、インドネシア、韓国の3か国を訪問し、現地の劇場や演劇関係者との交渉・打ち合わせ、劇場視察を実施した
- **海外展開に向けたプロモーション活動（1~2年目）**
  - 海外におけるネットワーク強化を図り、人的交流や情報交換を実施した
  - 劇場対劇場で直接MOUを結ぶ方向で調整し、更なる関係構築を進めた
- **劇場作品のデジタル・アーカイブ化（1~2年目）**
  - オールドメディアのデジタイズ作業を実施した（253本）
  - 過去プロデュース作品をデジタル・アーカイブ化により、海外公演のプロモーション等に活用した







撮影：宮川舞子

今後の活動予定

- **国内上演の実施（3年目）**
  - 育成対象者の脚本・演出による新作と、指導者白井晃の新作上演を行い、実地研修を通じて育成対象者を育成する
  - 芸術監督作品の公演にあわせて集中的なOJTを展開する
- **海外公演に向けた準備・上演（3年目~）**
  - 韓国・ソウル、英国・ロンドンでR9年度以降の作品上演に向けた関係者との調整・協議と、東南アジアの関係者との情報交換を継続する
  - 英国との共同制作作品は、5年目に海外で上演するための準備を進める
- **若手育成ワークショップの継続（3年目）**
  - 英国・ロンドンまたは東京で作品開発のためのワークショップを実施する
- **劇場作品のデジタル・アーカイブ活用（3年目）**
  - EPAD等のプラットフォームを活用し、デジタイズ化された資料を一部公開する

採択事業名 **劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト**

実施施設 **世田谷パブリックシアター**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 3年目の育成対象者および白井晃の国内新作上演に向けた取組により、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 3年目までは作品開発であるため長期アウトカム達成は困難だが、5年目に韓国国立貞洞劇場等、英国ヤングヴィック劇場等での上演の実現によって、長期アウトカム達成の見込み

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	99	39	29	未達見込	R8年度は30本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者数（人）	185,900	52,620	75,226	未達見込	R8年度は主劇場（世田谷パブリックシアター）が改修工事のため、1年間休館となったことから入場者数が減少し、38,400人の入場を見込む
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	6	0	3	達成見込（３年目）	目標値の設定根拠とした本公演2公演のリーディング公演に関して好意的な劇評が出たことは前向きな展開。目標達成可能性は高い
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件） KPI2	4	0	0	達成見込（３年目）	R8年度中に権利処理を終えた4作品についてEPADでの公開を可能とする方向
⑤本事業計画に参加またはアドバイスを頂く海外のクリエイター等の数（人）	12	3	9	達成	
⑥若手クリエイター等の育成に資する事業（件）	8	2	2	達成見込（３年目）	R8年度は公演事業2件と『若手育成のためのワークショップ』を実施予定。公演の稽古にあわせたOJTを計画している
⑦海外クリエイター等をアドバイザーとして行う育成事業の数（件）	3	1	1	達成見込（３年目）	共同制作のための戯曲開発、R9年以降の上演に向けた準備のために英国または日本において1回の実施を予定しており、達成見込

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト**

実施施設 **世田谷パブリックシアター**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象者は、『不可能の限りにおいて』ワークショップを通じて、脚本成立前から海外共同制作に関わる創作プロセスを経験し、韓国・英国双方を見据えた作品開発の感覚を養った
- 『不可能の限りにおいて』リーディング公演や、『月を抱く人魚－雨月物語より－』、『ヨハンナ』の戯曲開発を通じて、演出家、劇作家、翻訳者が段階的に作品を立ち上げる実践機会が積み上がっている
- 演出助手OJTや、館内若手スタッフの公演・ワークショップ参加により、演出、制作、技術を含む複数職種が国際共同制作に必要な実務経験を深めている



撮影：宮川舞子

館の機能強化的観点

- 国際的な関係構築が実現し、劇場対劇場で直接関係を築く国際展開モデルが具体化している。招待待ちではない能動的な国際展開モデルとして、館のプレゼンス向上に資する重要な成果である
- イングリッシュ・ツアリング・シアター、ソーホー・シアターとの協力により、英国共同制作の実施基盤が整い、世田谷パブリックシアターが継続してきた「共に作る」方法論を海外連携にも接続している
- 劇場制作作品のデジタル化に関してEPADとの協力関係を構築し、アーカイブを海外公演準備や発信資産として活用する足場を整えている



撮影：宮川舞子

今後の取組において期待される点

- 『月を抱く人魚ー雨月物語よりー』、『ヨハンナ』の国内上演を通じて、これまでの準備段階で蓄積した創作・育成の成果を外形的に示す
- 生田みゆきらが関与する韓国・英国との共同制作を、リーディング、公演、海外上演へと段階的につなげ、育成対象者の成長プロセスを可視化する
- 劇場対劇場で築いた関係をMOUや協定書の締結へ進め、自ら海外機関と事業を組成する先例として定着させる
- 館内若手スタッフも含めた参画をさらに明確化し、制作、技術、広報の各部門が国際共同制作の知見を共有できる体制へ発展させる
- EPAD公開やデジタルアーカイブの活用を進め、海外展開準備と情報発信を両立する劇場の発信基盤として磨き上げる
- 韓国、英国、東南アジアにおけるネットワークを継続的に深め、招待待ちではない能動的な国際展開を担う劇場モデルとして示す
- 複数の海外館との連携強化を通じて館の事業プログラム充実化を図ること、広報ノウハウを同業他劇場にも波及させることが期待される

採択事業名 **TMTギア-東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト**

実施施設 **東京芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

音楽・演劇分野で国際経験豊かな指導者とともに東京芸術劇場の事業推進を通じ、作品を創作し国内外に発信するノウハウを育成対象者に対して指導する。同時に、舞台映像のプロモーション等に体系的に取り組む協働チームを育成する

活動計画

第I期 （～3年目）

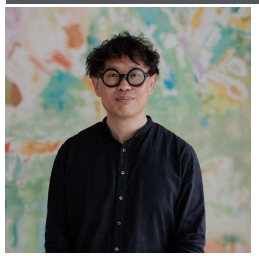
- 創作・海外公演に向けたリサーチの実施
- 国際共同制作の海外創作現場での研修に参加
- 短期ワークショップを実施し、東京芸術劇場にて公演を実施

第II期（～5年目）

- 3年目までに国内上演を実施していない育成対象者による国内上演を実施
- 音楽・演劇両プロジェクトにて海外公演を実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 8名



©Kikuko-Usuyama

岡田 利規 | 演劇作家・小説家

東京芸術劇場 舞台芸術部門 芸術監督。2007年クンステンフェスティバル参加以降、世界90都市で作品を上演。2016年からはドイツの公共劇場で継続的にレパートリー上演。読売演劇大賞選考委員特別賞等受賞歴多数



©Zuzanna Specjal

山田 和樹 | 指揮者

東京芸術劇場 音楽部門 芸術監督。BBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。欧州を含む国内外の楽団にて首席指揮者、音楽監督を歴任。出光音楽賞、渡邉暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞等多数受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 15名



長瀬 善則 | アートクリエイター（音楽）

コロンビア大学経営大学院（MBA）に在籍。DTM、ピアノ演奏に従事。音楽プロダクションでの楽曲制作や、コンサート/音楽ラジオ出演等、様々な音楽企画に参加



©Martin Chiang

布施 砂丘彦 | アートクリエイター（音楽）

演奏、批評、公演企画、舞台作品の演出に従事。コントラバスでプロオーケストラへの首席客奏等を行う。批評家として第7回柴田南雄音楽評論賞奨励賞を受賞



吉野 良祐 | アートクリエイター（音楽）

オペラカンパニーNovanta Quattroで演出作品を発表、びわ湖ホール等各地のプロダクションで演出助手を務める。建築史研究家として片岡安賞（日本建築協会）等受賞



©Yuta Itagaki(KIENGI) / Mana Hiraki(KIENGI)

額田 大志 | アートクリエイター（パフォーミングアーツ）

2016年に演劇カンパニー『ヌトミック』を結成。自身の音楽のバックグラウンドを用いた脚本と演出で、パフォーミングアーツの枠組みを拡張していく作品を発表



山崎 阿弥 | アートクリエイター（パフォーミングアーツ）

自らの発声とその響きを感受しエコロケーションに近い方法で空間を認識。音響的な陰影を変容させ世界は生成されるのかを問い、科学者との協働に力を入れる

他、 映像メディアチーム 4名（ディレクター 2名、ビデオグラファー 2名）
東京芸術劇場スタッフ 6名（音楽プロデューサー 2名、パフォーミングアーツプロデューサー 2名、舞台 1名、音響 1名）

採択事業名 **TMTギア-東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト**

実施施設 **東京芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **海外公演に向けた準備（1年目~）**
  - 音楽分野の育成対象者は、東京芸術劇場と関係性のある海外団体と連携し、海外での成功事例等を調査した
  - パフォーミングアーツ分野は、国内外の見本市・海外劇場を視察するとともに、国際共同制作現場において、OJTを行った
- **海外公演に向けたネットワーク構築・調査（2年目~）**
  - 音楽分野の育成対象者は、ル・バルコン、フィルハーモニー・ド・パリ（フランス）、ピエール・ブーレーズ・ザール（ドイツ）を視察し、関係者と情報交換・ネットワーク形成を行った
  - パフォーミングアーツ分野の育成対象者を、ニューヨーク、香港、台湾の国際芸術祭に派遣し、ネットワーク形成及び情報収集を行った
- **海外関係者との関係構築（2年目）**
  - 海外ディレクター、プロデューサー等に対し企画説明を行い、今後の持続的な関係構築に向けた打合せを実施した
  - 海外での滞在や企画プレゼンテーションを通じてコネクションを形成した
- **映像メディアチームによる記録・発信（2年目~）**
  - 国際共同制作公演にて、記録映像収録に関するOJTを実施した
  - クリエイター紹介映像等を制作し、東京公演に向けた宣伝材料として活用した
  - 映像を用いた発信・アーカイブ・プロモーションを育成と組み合わせる設計を進行した







今後の活動予定

- **国内公演の実施（3年目~）**
  - 事業3年目に音楽領域、パフォーミングアーツ領域共に、東京芸術劇場で公演を実施する
  - 国内外関係者・評論家・ジャーナリストを公演招聘する

  海外公演の実施（3年目~）
  - 音楽領域、パフォーミングアーツ領域ともに、これまでのネットワーキングを生かして公演を行う

採択事業名 **TMTギア-東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト**

実施施設 **東京芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 批評家、ジャーナリストを招聘する3年目の国内公演の企画が評価され、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 海外展開が4年目以降のため3年目までの達成は困難だが、海外セクターとの関係づくりを行っており、第2期での達成を目指す

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	141	28	35	未達見込	R8年度は57本の実施を見込む ※R6年9月末～R7年8月末の設備更新工事の休館、年度毎の事業精査の当初より事業数が減少
②主催事業入場者数・参加者数（人）	466,242	56,784	136,504	未達見込	R8年度は207,468人の入場を見込む ※R6年9月末～R7年8月末の設備更新工事の休館、事業本数減少に伴い入場者数も減じている
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	6	0	1	達成見込（３年目）	R8年度に行う国内公演3件（音楽2件、パフォーミングアーツ1件）について各2件ずつの批評数を見込む
④成果項目作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	10	0	7	達成見込（３年目）	映像メディアチームが音楽プロジェクト、パフォーミングアーツプロジェクトに伴走し、そのクリエイションの様子や公演本番を撮影、映像を制作する。また、新芸術監督の新作公演のアーカイブ撮影にも取り組み、R8年度は3件の発信を見込む
⑤海外プロデューサー、ディレクター等の国内公演来場人数（人）	12	0	0	達成見込（３年目）	国内公演3件（音楽2件、パフォーミングアーツ1件）を実施するため、音楽3名、パフォーミング・アーツ9名の計12名の招聘を想定

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **TMTギア-東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト**

実施施設 **東京芸術劇場**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

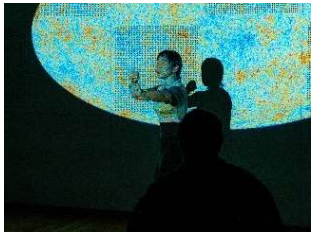
- R6年度選出の育成クリエイター5人、映像メディアチーム4人、インハウススタッフ6人が、R8年度公演に向けたリサーチとワークインプログレスを行い、国際的活動に必要な知識等を蓄積した
- 『ヨナ』シビウ公演にインハウススタッフと映像メディアチームが帯同し、海外公演経験を積んだ
- 映像メディアチームは『ヨナ』シビウ公演・東京公演で記録映像収録や8K収録、紹介映像制作、EPAD講座受講を重ね、舞台映像の記録・発信に関する専門性を高めた
- 育成クリエイターはワークインプログレス、滞在制作、ワークショップ、オープンラボ、発表会を通じて創作内容を具体化。指導者山田和樹、岡田利規との対話を重ね作品の精度を高めた



館の機能強化的観点

- マンチェスター国際フェスティバル、フィルハーモニー・ド・パリ、横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)エクスチェンジ、ISPA等を通じて、海外ディレクター、プロデューサー、プレゼンターとの接点を形成し、今後の公演や共同制作につながる基盤を広げた
- 特設ウェブページを開設し、事業、芸劇、クリエイターを紹介する映像や、創作過程を発信した。更に国際共同制作に関わる記録映像や8K収録を活用し、東京公演の宣伝材料や今後の上映展開に接続するなど、映像を活用した劇場発信の新たな回路を試行している
- 館内公募による人材選抜や、アーティストと制作チームを横断的に育成する仕組みを整備した





©永田風薫

今後の取組において期待される点

- これまでのリサーチやワークインプログレスを、R8年度の国内公演や成果発表として着実に結実させ、準備段階の厚みを外形的な成果へ転換する
- 音楽、パフォーミング・アーツ両領域で形成した海外ネットワークを、国内公演への招聘や将来の海外公演交渉へ接続し、国際的な上演機会の具体化を進めていく
- 新芸術監督体制のもとで始まった本取組を、海外劇場や劇団とのさらなる共同制作へと発展させる
- インハウススタッフが海外現場で得た知見を館内に共有し、個人の経験にとどめず、制作・技術・広報を横断するノウハウを蓄積する
- 映像メディアチームが制作した映像を、上映、配信、アーカイブ、海外向けプロモーションまで含めて活用し、劇場の発信手法として定着させる
- 『TMTギア』で得たネットワークや知見をさらなる海外劇場・劇団との共同制作へつなげ、国内のリーディング施設としての位置づけを高める

採択事業名 **音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo & Paris to the NEXT**

実施施設 **東京文化会館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

東京文化会館が、デジタルテクノロジーを用いた音楽芸術領域を代表する世界的機関、パリのIRCAM（イルカム/フランス国立音響音楽研究所）と共同作曲委嘱を行う。育成対象者の育成と創作・発表の機会を創出し、日本の「最先端音楽芸術の拠点」として新たな魅力を発信する

活動計画

第I期 （～3年目）

- IRCAMと会議を重ね関係構築
- 育成対象者がパリに滞在し、IRCAMの現地クリエイターと共同創作を開始
- 向井響がパリ及び東京で初演

第II期（～5年目）

- 北爪裕道と横山未央子が、3年目までの取組に引き続き、IRCAMでの滞在制作及びパリ・東京初演を行う

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 5名



野平 一郎 | 作曲家・ピアニスト

日本を代表する作曲家のひとりで、海外でのコンクールで審査員も務める。自身もIRCAMでの委嘱制作経験がある。2012年春に紫綬褒章受章の他、芸術選奨・文部科学大臣賞等多数の受賞歴あり



フランク・マドレーネ | アーティスティックディレクター・IRCAM所長

フランスとベルギーでピアノ、指揮、哲学を学ぶ。ヨーロッパ・モーツァルト財団、ブリュッセルのアルス・ムジカ音楽祭、ストラスブールのムジカ音楽祭で芸術監督を務めた

主な育成対象者

育成対象者数: 4名



向井 響 | 作曲家

第6回マータン・ギヴォル国際作曲コンクール （テルアビブ）およびORDA-2019作曲部門（アムステルダム）第1位。2018年ストラスブール現代音楽祭（フランス）にて、最優秀賞。第84回日本音楽コンクール作曲部門第1位



北爪 裕道 | 作曲家

2013年より、文化庁新進芸術家海外研修制度、ロームミュージック ファンデーション等から給費を受け約5年半の間パリに滞在。2015年、フランス財団音楽賞を受賞



横山 未央子 | 作曲家

東京藝術大学音楽学部作曲科および同大学大学院修士課程作曲専攻修了。ヤマハ音楽振興会留学奨学生としてヘルシンキ芸術大学シベリウス音楽院大学院修士課程作曲専攻へ入学。最優秀の成績で修了。2025年テオスト賞受賞



金原 直哉 | サウンドデザイナー

国立音楽大学コンピュータ音楽専修卒業。スペクトル楽派から強く影響を受け、ライブエレクトロニクス作品やフィクストメディア作品を中心に制作を行う。これまでに、コンピュータ音楽を今井慎太郎氏に、作曲を清水祥平氏に師事

採択事業名 **音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo & Paris to the NEXT**

実施施設 **東京文化会館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **共同委嘱者であるIRCAMとの協議（1年目~）**
  - 定期的にオンラインミーティングを実施し、連携を図った
  - クリエイション時期や内容、諸契約、初演時の公演プログラム、演奏者について調整を行った
- **広報活動の実施（1年目~）**
  - R7年度の東京文化会館自主事業記者発表会において、本企画についても言及し、内容説明を行った
  - 当初の苦手意識を乗り越え、記者懇親会を自発的に開催するなど新たな発信手法の習得を強化した
- **IRCAMでの創作活動（1年目~）**
  - フランス パリのIRCAMにて作品に関する意見交換と指導を行い、作品制作を進めた
  - 育成対象者の向井響は3回にわたりIRCAMでクリエイションを実施し、AIを活用した新しい試みに取り組んだ
  - 育成対象者の金原直哉はアカデミーを聴講した
- **ネットワーキングイベントの実施（2年目）**
  - 国内での関係機関との連携強化を視野にネットワーキングイベントを開催し、新たな関係構築の機会を創出した
- **館職員の知見拡大・制作力向上（2年目）**
  - 館職員が育成対象者に同行してパリに滞在し、現代音楽分野への知見を広めた
  - IRCAM、台湾のC-LAB、イタリアのミラノ・ムジカ、ポルトガルのカーザ・ダ・ムジカ等との接触・企画提案を行い、国際的な制作力の向上につなげた







©Tomoko Hidaki

今後の活動予定

- **海外公演の実施・準備（3年目~）**
  - 3年目から北爪裕道が、連携先のIRCAMにて滞在制作を実施
  - 3年目以降、横山未央子はIRCAMでの研修に参加するほか、第2期以降滞在制作を実施
  - 第2期には、北爪裕道と横山未央子が、1年毎にパリと日本で初演を行う
- **国内公演の実施（3年目~）**
  - 事業3年目以降に国内で公演を実施する
  - ネットワーキングを通じて、ハブ機能の強化
- **事業報告書の作成**
  - 事業期間内の全公演終了時に最終的な報告書を作成し、国内外の教育機関や文化施設等の関係各所に周知する

採択事業名 **音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo & Paris to the NEXT**

実施施設 **東京文化会館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 3年目から実施される国内外公演（向井響 新作 パリ、東京初演）に向けた取組により、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 育成対象者 横山未央子がテオスト賞受賞、向井響がモナコ・ピエール皇太子財団賞ノミネート受け、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	94	30	32	未達見込	R8年度は22本の実施を見込む ※R8年5月～長期休館、年度毎の事業精査により事業本数が減じた
②主催事業入場者数・参加者数（人）	118,230	72,533	53,190	達成	
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	5	0	3	達成見込（３年目）	これまで弱点であった広報面の強化を図り、記者との関係構築に注力し、記事掲載件数が上昇中。海外公演及び国内公演を合わせて5件の目標を達成できる見込み
④プロジェクトに関わった海外アーティスト・スタッフ等の数（人）	250	3	120	達成見込（３年目）	R8年度は、IRCAMでの活動、向井響の世界初演公演など海外での活動が活発化。150人の関与を見込む
⑤国外の劇場との連携	5	1	1	達成見込（３年目）	R8年度はフランスでの初演公演に加えて、台湾のC-LABやイタリアのミラノ・ムジカとの連携（それぞれの委嘱作品をお互いに演奏しあう）を予定している
⑥国内における大学等施設連携 ※現代（音響）音楽におけるハブ化	30	0	14	達成見込（３年目）	R8年度は、7年度より拡大したネットワーキングイベントを開催し、20施設と連携予定。現代音楽や電子音楽の協会等にもアプローチし、ネットワークを広げていく
⑦観客の多様化 （%） (本プロジェクトでの初来館者数の獲得)	13	0	0	達成見込（３年目）	R8年度の公演実施により初来館者数13%以上を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **音楽クリエイター育成プロジェクトTokyo & Paris to the NEXT**

実施施設 **東京文化会館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点



- 向井響は、IRCAMで3回にわたり創作を行い、著名な音響エンジニアとの協働のもと、AIを活用した音のモーフィング技術と日本の義太夫の声を掛け合わせる新たな作曲手法に取り組んだ。また、記者懇談会にて自ら作品を言語化し発信する力を高め、複数メディアで大きく紹介された。さらにR7年モナコ・ピエール皇太子財団賞へのノミネートや国内主要コンクール審査員への抜擢にもつながり、プロジェクト参加を通じた活躍の広がりが見られる
- 金原直哉は、IRCAMのマニフェストにおけるアカデミーを聴講し、セミナーや公演の視察を通じて現代音楽・電子音楽の最前線に触れ、その成果を特設ウェブページで報告した

館の機能強化的観点



- IRCAMと協定を締結し、共同委嘱、公演実施等連携のための国際的な基盤を整備した
- 館職員が台湾のC-LAB、ミラノ・ムジカ、カーザ・ダ・ムジカ、テロ・サーリネン・カンパニー、アスコ・シェーンベルク等と接触し、企画提案や交渉を進めたことで、制作力と国際交渉力の向上につながった。なお、台湾では向井響の作品、ミラノ・ムジカでは北爪裕道の作品上演が決定している
- 記者懇談会や記者回りの実施を通じて、広報を強化した。特設ウェブページを日英多言語対応で開設するなど、国内外の現代音楽・電子音楽分野に向けた新たな情報発信基盤を強化した
- クラシック音楽に留まらず、現代音楽を根付かせる方向へ挑戦し、ネットワーキングイベントを行い館のハブ機能を強化した
- 新分野に合わせた新たな広報手法を学び始めた

今後の取組において期待される点

- IRCAMとの関係を足場に、作曲家だけでなく館職員も含めた現代音楽分野の実践知を蓄積し、東京文化会館の新たな専門性として定着させる
- 台湾、イタリアなどに広がりつつある接点を、委嘱作品の相互上演や共同企画へ発展させ、パリ以外の国際展開基盤も強化する
- 記者との関係構築や多言語発信を継続し、現代音楽分野における広報手法を館の標準的な運営手法として強化する
- 休館期間も活用しながら、ホールや関係団体をつなぐネットワーキング機能を高め、現代音楽のハブとしての役割をより明確にする
- 第1期で得た人脈やノウハウを活かし、継続的な育成サイクルへつなげる
- 広報活動の充実化とプレス関係者との関係強化、海外関係者との人的ネットワーク向上による館プログラムの充実化、新たな顧客開拓につながるハブ機能を強化する

採択事業名 **Step into the world from Matsumoto**

実施施設 **まつもと市民芸術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

R6年度から着任した倉田翠舞踊部門芸術監督のもと、ダンス事業を強化。公演制作を当館自主事業として行い、制作した作品を地方からダイレクトに海外に発信する。まつもと市民芸術館 芸術監督団のコンセプト『ひらいていく劇場』の理念に即し、地域にも開かれた活動を展開する

活動計画

第I期 （～3年目）

- ダンス作家は松本市内での滞在制作後、国内公演を実施
- アートマネジメントを担う制作者の国内公演従事
- ルーマニア『シビウ国際演劇祭』等での現地調査を実施

第II期（～5年目）

- 欧州・アジア圏を含めて検討の上で国外公演の会場を決定
- 海外公演作品の制作、公演実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 6名



倉田 翠 ｜ 演出家・振付家・ダンサー
まつもと市民芸術館舞踊部門芸術監督。第18回日本ダンスフォーラム賞受賞。代表作で2023年にクンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル）とフェスティバル・ドートンヌ（パリ）に招聘され、海外ツアーを果たす

No Image

小川 知子 ｜ まつもと市民芸術館 プロデューサー
銀座セゾン劇場、RUP.、ホリプロを経て2014年よりまつもと市民芸術館プロデューサー。小劇場、商業演 劇、公共劇場で企画制作を行う。松本市在住

主な育成対象者

育成対象者数: 4名



女屋理音 ｜ 振付家
幼少よりクラシックバレエに親しむ。お茶の水女子大学入学後は作家研究を行い、ダンサーとしても様々な振付家の作品に出演。23年にシアタートラム・ネクストジェネレーション vol.15 －フィジカル－に選出され、初の主催公演を実施



櫻井 拓斗 ｜ 振付家・ダンサー・サウンドアーティスト
ccc振付コンペティション2011準グランプリ、『夢見の余韻』作・出演でセッションハウスアワード2024未来賞受賞。ダンサーとして、近藤良平らの作品、TOKYO2020開会式等に参加。サウンドアーティストとして、山下残、山瀬茉莉等の作品に参加



宮 悠介 ｜ ダンサー・振付家・アート企画者
筑波大学、大学院にて舞踊学を専攻。AJDF-kobeにて5度の文部科学大臣賞、ヨコハマダンスコレクション2022コンペII 最優秀新人賞、SAI DANCE FESTIVAL 2023 ソロ部門First Prize等受賞歴多数



八木 志菜 ｜ アートコーディネーター
京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）のアートコーディネーターとして京都国際舞台芸術祭をはじめ多数企画に従事。京都国際ダンスワークショップフェスティバル共同プログラムディレクター
※2026年5月まで

No Image

折田 彩 ｜ まつもと市民芸術館　制作
新国立劇場、高知県立美術館ホール、岡山芸術創造劇場ハレノワでダンス公演の制作に従事。日本初演を含む海外招聘公演を多数担当する。2026年4月より現職
※R8年4月～

採択事業名 **Step into the world from Matsumoto**

実施施設 **まつもと市民芸術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **自主制作作品公演を通じた実地研修（1年目~）**
  - 育成対象者をまつもと市民芸術館での自主事業公演（大阪公演を含む）に現場制作の一員として参加させ、実地研修を実施した
- **滞在講座・滞在制作の実施（1~2年目）**
  - ダンス作家は、松本で滞在して複数回の講座受講と集中的な制作や市内リサーチを行った
  - 講座では、ジャンルを超えた講師による学び、街とのコミュニケーション、稽古場での集中クリエイションを実施した
  - アートコーディネーターは、まつもと市民芸術館自主事業の現場制作アシスタントとして地方公演に参加した
- **中間発表・ショーイングの実施（2年目）**
  - 育成対象者作品のショーイング（試演会）を一般公開で実施し、有識者から意見・感想のフィードバックを受けた
  - 一般来場者向けのアフタートークも実施し、街に開く交流を行った
- **デジタルコンテンツ・事業サイト運営（1~2年目）**
  - 特設サイトを立ち上げ、レポート欄・コラム欄の随時更新、ショーケース情報公開等を実施した
- **海外公演準備に向けた関係構築（2年目）**
  - 指導者2名と事業担当制作者1名が、海外公演に向けて、新たに韓国とのコネクションを構築し、2回の渡韓によりネットワーク構築を進めた
- **国内公演の実施（3年目~）**
  - ショーイングでのフィードバックを踏まえ、作品の現在地を認識したうえで国内公演を行った







撮影：井上嘉和

今後の活動予定

- **海外公演に向けた視察・準備（3年目~）**
  - 国内公演終了後の下半期に、ルーマニア、韓国を対象に、海外公演の会場検討を兼ねた下見調査を実施し、ネットワーキングを行う
  - 海外上演用のトレイラーを作成し、海外への作品発信を行う
- **映像発信の実施（3年目~）**
  - プロジェクト公式サイトの運営を継続し、作品のアーカイブ化や、国内公演映像を収録したティザーを発信する
- **市内アウトリーチ・普及活動（3年目~）**
  - 市内でのコンテンポラリーダンス普及のためのワークショップやアウトリーチを実施する

採択事業名 **Step into the world from Matsumoto**

実施施設 **まつもと市民芸術館**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 3年目の国内初演（R8年5月まつもと市民芸術館での育成対象者3名の新作初演）により、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 育成対象者 宮 悠介：『ヨコハマダンスコレクション2025』コンペティション I のアーキタンツ・アーティスト・サポート賞を受賞し、長期アウトカムを1件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	70	27	25	達成見込（３年目）	R8年度は23本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者数（人）	68,700	17,696	4,078	未達見込	R8年度は4,300人の入場を見込む R7年度は主ホール6カ月改修／R8年度は主ホール12カ月、小ホール6カ月改修のため、主催事業入場者数も減少傾向である
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	5	0	2	達成見込（３年目）	既に連携ができている舞踊分野評論家・ライター7名を核に、R8年度は5件の評価を獲得見込み
④成果項目作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	30	3	12	達成見込（３年目）	R8年度はインタビュー記事1件、ティザー1件、コラム等転載2件、レポート12件の計16件以上の発信を見込む
⑤国内外からの特設サイト（デジタルコンテンツ）への年間アクセス数（回）	10,000	-	5,746	未達見込	国内公演情報やティザー映像の公開、コンテンツの差別化・充実化を図ることで、前年度比（R７比）120％を目指す
⑥市内外の他施設への波及・普及展開数（件）	15	0	0	達成見込（３年目）	国内公演後に３名が各５回ずつのワークショップ、またはアウトリーチを実施する
⑦自主事業による新たな育成の実施数（件）	3	1	1	達成見込（３年目）	育成アーティストによるアウトリーチ事業を継続し、R8年度は2件を実施見込
⑧国内公演の海外批評家・専門家等による来場者数、動画視聴者数（人）	10	0	0	達成見込（３年目）	コンタクト中の招聘予定海外劇場関係者２名のほか、公演終了後の映像提供８件を目標としている

採択事業名 **Step into the world from Matsumoto**

実施施設 **まつもと市民芸術館**

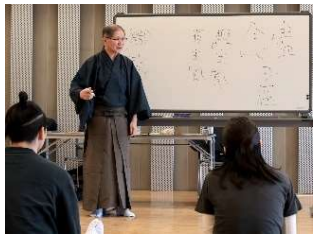
Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象ダンス作家の女屋理音、櫻井拓斗、宮悠介は松本での滞在制作を通じてそれぞれ作品を立ち上げ、上演まで到達した
- 自主事業公演への現場参加を通じて、育成対象アートコーディネーターは制作実務にも触れ、実地研修の機会を得ている
- 育成対象ダンス作家の視野は海外へ広がっており、宮悠介はドイツへ渡航し、櫻井拓斗はカンボジアでの創作を経験するなど、事業外も含め国際的な感覚が育ちつつある




館の機能強化的観点

- 育成対象ダンス作家3名の創作過程を記録・発信するため、日英対応のウェブ特設サイトを開設し、プロジェクトのアーカイブとプレゼンテーション基盤を整備した
- 2回の渡韓を通じて、韓国との新たなコネクションを構築し、海外公演に向けたネットワーク形成を進めた
- 演劇のイメージが強い館でありながら、ダンス作家育成を通じてコンテンポラリーダンスの拠点機能を育て始めている
- 地域との接点として、アウトリーチや市内でのリサーチ、街とのコミュニケーションを組み込んだ滞在制作が行われており、芸術監督団の『ひらいていく劇場』という理念にも接続している




撮影：井上嘉和

今後の取組において期待される点

- ダンス作家3名が切磋琢磨しながら創作を磨くことに加え、海外公演を見据えた作品構成、発信、対話力をさらに高めていく
- 海外公演先は未定であるため、韓国に加え他地域の劇場・プロデューサーとの接続を強め、具体的な上演機会へ結びつけていく
- アートマネジメント人材についても、国内公演から海外公演準備までの制作経験を通じて、海外公演を担えるスキルの蓄積を明示していく
- 特設サイトをさらに充実させ、コンテンポラリーダンス普及に特化した情報発信を強化することで、『まつもと市民芸術館といえばコンテンポラリーダンス』という一般的な認知形成につなげていく
- 松本市に既にある文化的リソース（他施設、コミュニティ、音楽イベント等）との協働体制を築き、メディア発信や地域での関係性強化を進める

採択事業名

子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト “劇場と学校の時間”

実施施設

山口情報芸術センター[YCAM]

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

同時代のテクノロジーを活用した作品制作と、市民・学校と連携した事業を展開してきた山口情報芸術センター[YCAM]が、AIやロボットを活用した新しい子ども向け舞台作品を制作。国内外で公演を展開し、国際的な創造環境・発信拠点の機能を高める

活動計画

第I期 （～3年目）

- 子ども向け作品、AIやロボティクス、教育についてリサーチを行い、使用技術の基礎知識を習得
- 国内公演ほか小学校と連携し、3年目にワークインプログレスを実施

第II期（～5年目）

- 海外巡回に向け海外アドバイザーとの連携や巡回先への売り込みを実施
- 5年目に海外公演を実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 4名



伊藤 ガビン ｜ 編集者

編集的手法を使い、書籍、雑誌、映像、ウェブサイト、展覧会のプロデュース、ゲーム制作等に従事。京都に在住し、京都精華大学の『メディア表現学部』で新しい表現について、研究・指導している



丸岡 ひろみ

東京芸術劇場事業企画課 芸術祭担当課長、PARC- 国際舞台芸術交流センター 理事長。2005年~2026年3月、YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング（旧TPAM）ディレクター。R6年度芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞

主な育成対象者

育成対象者数: 11名



撮影：脇田友

捩子 ぴじん ｜ ダンサー/振付家

ダンサー・振付家、neji&co.主宰。身体の細かな動きや消えゆく身振りに 焦点を当て、独自のダンス作品を制作している



撮影：Gottingham

竹下 暁子 ｜ プロデューサー（山口情報芸術センター[YCAM]）

安藤洋子+YCAM『Reactor for Awareness in Motion 』（研究開発プロジェクト）（2010-15）。大脇理智『The Other in You』でアルス・エレクトロニカでHonorary Mentionを受賞（2017）。イスラ エル・ガルバン『Israel & イスラエル』を山口とパリで上演（2019）



斧田 小夜 ｜ 作家

作家、ソフトウェアエンジニア、写真家。2019年『飲鴆止渇』で第十回創元SF短編賞優秀賞受賞、2021年同作でデビュー。2022年に初の単行本『ギークに銃はいらない』（破滅派） を刊行



時里 充 ｜ 映像（山口情報芸術センター[YCAM]）

1990年生まれ。2010年岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]， 2012年多摩美術大学卒業． 映像を軸にメディア・テクノロジーを使用した表現の研究開発を行う。2020年よりYCAMインターラボ所属

他、山口情報芸術センター[YCAM]スタッフ7名（舞台2名、照明1名、音響1名、映像1名、ネットワーク1名、制作1名）

採択事業名
子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト “劇場と学校の時間”

実施施設
山口情報芸術センター[YCAM]

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **作品制作活動（1~2年目）**
  - 作品制作の拠点となる山口情報芸術センター[YCAM]にて指導者と共に作品制作と体制構築を行った
  - 作品構成や演出コンセプトの検討を行い、子ども向け舞台作品の制作や関連のイベント開発を実施した
- **国内公演に向けた準備（1年目）**
  - 育成対象者との打ち合わせを行い物語内容等を概ね決定した
  - 作品テーマ（AI・ロボット）に関連する先行・類似事例等に関する調査を行い、育成対象者の理解を深めた
- **海外公演に向けた調査・ネットワーキング（1~2年目）**
  - 国内、韓国、台湾、オランダ、ドイツの国際芸術祭や劇場、学校、関係機関等を調査した
  - 国内外の芸術祭や見本市に参加し、現地舞台芸術の動向把握、ネットワーキング、作品内容の共有を進めた
  - 韓国、フランス、ブラジル、イギリスでの研修に参加した
- **国内公演の実施（2年目）**
  - 山口情報芸術センター[YCAM] にて公演を実施した
  - 国内外のディレクター、プロデューサーを招聘した
  - 国内公演後、制作過程を含め公演映像のアーカイブ化を進めた





撮影：守屋友樹



撮影：守屋友樹

今後の活動予定

- **国内公演の実施（3年目~）**
  - 創作作品を国内再演に向けてリクリエーションする
  - 山口市内小中学校3校にてワークインプログレスを実施する
- **巡回体制の強化（3年目~）**
  - 学校や劇場など国内外への巡回公演を見据え、作品の改変と技術の整理を進め、外部人材も登用しながら巡回チームを編成する
- **海外公演に向けた調査・研修・ネットワーキング継続（3年目~）**
  - 国内、海外（台湾、韓国、オランダ、ベルギー）の国際芸術祭調査や、海外研修を実施する
  - 横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）でプレゼンテーションし、アワードにもエントリーする。国内外の見本市・フェスティバルでのネットワーキングを継続する

採択事業名 子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト“劇場と学校の時間”

実施施設 山口情報芸術センター[YCAM]

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 国内外のディレクター、プロデューサーを招聘する2~4年目の国内公演に向けた取組により、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 創作作品『せいせいのせんせい』が、『秋の隕石2026東京』へ招聘されたほか、育成対象者 捩子ぴじん・竹下暁子が、韓国国立現代舞踊団 KNCDC Dance X Technology Open Week にて、講師・トーク登壇し、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	78	24	22	未達見込	R8年度は全館規模の展覧会を長期開催のため18件を見込む。なお、第Ⅰ期は運営方針により連携事業が多く、これらを含めるとR6年度が31件、R7年度が33件、R8年度が24件と堅調に推移している
②主催事業入場者数・参加者（人）	219,714	72,775	81,968	達成見込（3年目）	R8年度は80,287人の入場を見込む
③文化施設の企画・展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	15	0	25	達成	
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	10,000	0	6,909	達成見込（3年目）	R8年度は、デジタルコンテンツの動画公開および国内公演の実施により視聴機会が拡大する。再生数の合計10,000回以上達成の見込み
⑤新たな人材育成の実施数（研修等の件数）×人数と達成度	61	16	28	達成見込（3年目）	R8年度は国内外にて研修、調査（12件、延べ21人参加）を予定
⑥公演の多言語対応数（言語）	5	0	3	達成見込（3年目）	R8年度に予定している国内公演において、さらなるアクセシビリティの強化を計画しており、日本語以外の多言語や手話、要約筆記などでの対応を検討している

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名

子ども×テクノロジー作品の制作を通じた人材育成プロジェクト “劇場と学校の時間”

実施施設

山口情報芸術センター[YCAM]

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定

実施状況

数値実績

定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象者捩子ぴじんは、これまで経験の少なかったAIやロボットを用いた子ども向け作品をYCAMと共に制作し、評価され、日本経済新聞にレビューが掲載された。竹下暁子、秋山きららは韓国での調査・ネットワーキングを起点に、2025年度の韓国国立現代舞踊団KNCDC Dance X Technology Open Weekへの参加を実現し、作品紹介とワークショップ実施へつなげた
- 斧田小夜は原作担当として創作に参画し、テクノロジーを扱う舞台作品のコンセプト形成に関わった
- テクニカルスタッフは海外研修・実地調査を戦略的に行い、今後育成対象者が中心となって海外巡回を担うための技術基盤を底上げした





画像提供: 韓国国立現代舞踊団

館の機能強化的観点

- 台湾の教育機関等へのプレゼンテーションと意見交換、さらに現地小学校調査を実施し、海外展開に必要な教育環境への適応視点を得た
- 台湾・香港の主要劇場担当者を初演に招聘し、台湾国家歌劇院から共同制作提案を受けた。また日英二言語のプレゼンテーション実施や、アルス・エレクトロニカのコンペへの応募により海外展開の具体性を高めた
- 山口市教育委員会、小中学校、山口大学教員、認定NPO法人こどもステーション山口との対話や試演会、市民ボランティア約30名向けの対話研修を通じて、学校・地域に根差した実装基盤も築いている





今後の取組において期待される点

- 台湾や韓国との接点を、単発の紹介にとどめず、共同制作や海外巡回公演へ接続していく
- AIやロボティクスをめぐる技術進化に対応しながら、作品と技術を各国の教育状況に応じて最適化するノウハウを蓄積していく
- YCAM本体が、作品制作、教育連携、国際発信を横断する拠点、かつ技術×舞台芸術分野の先進事例として発信していく
- 『せいせいのせんせい』を国内国際芸術祭で再創作・再演し、初演で得た国際的視点を反映して作品の完成度をさらに高めていく
- 山口市内の小中学校でのワークインプログレスを通じて、子どもたちの反応や教育現場の知見を作品改良に還元し、学校巡回可能なモデルへ発展させていく

採択事業名 **ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス**

実施施設 **ロームシアター京都**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

美術館・博物館 / 劇場・音楽堂

大規模 / 中規模 / 小規模

事業概要

若手アーティスト（育成対象者）と共に新作創造や旧作のリクリエイション、戯曲翻訳、情報発信を行い、京都からダイレクトに世界へ才能を発信。人材育成や国内外公演を通じ、京都舞台シーン全体の機能強化を目指す

活動計画

第I期 （～3年目）

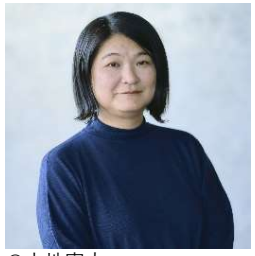
- 新作クリエイション/旧作リクリエイション実施
- 指導者によるレクチャーや勉強会、海外研修の実施
- 京都、豊岡、横浜での公演実施
- 海外公演の実施

第II期（～5年目）

- 海外公演に向けたリサーチ、プロモーションの実施
- 新作/旧作ブラッシュアップ
- 海外公演の実施

中核的な指導者・アドバイザー

指導者等数: 11名



©山地憲太

小倉 由佳子 | プロデューサー

ディレクターとして、アイホール（伊丹市立演劇ホール）のダンスプログラム公演、ワークショップを企画制作。2015年文化庁新進芸術家海外研修制度でロンドンに1年間滞在。2016年度よりロームシアター京都勤務、現在ロームシアター京都プログラムディレクター

他、国内外で活躍するプロデューサー、劇作家・演出家、テクニカルコーディネーター等 10名

主な育成対象者

育成対象者数: 3名



©shimizu kana

野村 眞人 | 演出家・俳優

演出家、レトロニム（自身が演出家を務めるクリエイターチーム）のメンバー。京都にて演劇作品を制作・発表。『景観と風景、その光景（ランドスケープとしての字幕）』等を手がけ、利賀演劇人コンクール優秀演出家賞受賞。俳優として2024年度文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンで研修。



©井上嘉和

垣田 みずき | 制作・プロデューサー

ロームシアター京都 事業課スタッフ。主に演劇やダンス、ワークショップの事業制作を担当している



©宇治田 峻

西田 悠哉 | 劇作家・演出家

1993年東京都生まれ富山県育ち。大阪大学を母体に2015年劇団不労社を旗揚げ、代表として作・演出を担当。歪な人間像を描く作劇が特徴。関西演劇祭ベスト演出賞、若手演出家コンクール優秀賞受賞。青年団所属、京都大学大学院修了

採択事業名 **ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス**

実施施設 **ロームシアター京都**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

主な活動実績

- **作品創作活動の実施（1~2年目）**
  - 育成対象者の旧作のリクリエイション、新作創作の計画を立案した
  - 育成対象者である西田悠哉の新作に対し国内の演劇祭との共同制作・演劇祭招聘が決定した
- **海外キュレーターとのネットワーキング（1~2年目）**
  - 横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）、KYOTO EXPERIMENTにて、育成対象者の作品や活動に関するプレゼンテーションを実施した
  - 台湾、韓国、ドイツ等のキュレーターに対しての作品紹介を実施した
  - 台湾国立劇場プロデューサーの招聘や上演に向けてのミーティングを実施した
- **国内外への情報発信（1~2年目）**
  - 日英の本事業特設サイトを設立、英語字幕を付して育成対象者のトークセッション映像や作品制作過程を公表した
- **海外フェスティバル視察・研修事業（2年目）**
  - 育成対象者の垣田みずきがベルギー・ブリュッセルで開催された国際舞台芸術祭（クンステン・フェスティバル・デザール）を視察し、制作業務OJTを実施した
  - 国際的に活躍するプロデューサー、ディレクター、テクニカルコーディネーターによるレクチャーを受けた





©井上嘉和



©中谷利明

今後の活動予定

- **作品制作の継続（3年目~）**
  - 継続して新作のクリエイション、旧作のリクリエイションを実施する。指導者によるレクチャー・勉強会も開催し、作品制作に生かす
- **海外公演の実施（3年目）**
  - 育成対象者 野村による旧作『吉日再会』を北投小戯節（Beitou Art Festival）にて台湾公演を実施した
- **国内公演の実施（3年目~）**
  - ロームシアター京都に加え、豊岡演劇祭、横浜等、京都府外での公演を行う
- **海外公演に向けた視察・プロモーション（3年目~）**
  - 海外公演候補地にて視察・研修し、プロデューサー等との面会を実施する
  - R7年度ワークインプログレスを経て関係を構築している台湾国立劇場を中心に、アジアやヨーロッパへのプロモーションを継続する

採択事業名 **ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス**

実施施設 **ロームシアター京都**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

本支援事業の初期アウトカム・長期アウトカムへの貢献状況

初期アウトカム KPI1 高い評価の獲得※	■ 3年目以降の国内公演に向けた育成対象者のインタビューが掲載となり、初期アウトカムを達成
長期アウトカム KPI3 評価の高い賞の受賞・世界的フェスティバル等に招聘された件数※	■ 3年目の野村眞人『吉日再会』の台湾公演、西田悠哉『暗黒の喜劇』の豊岡演劇祭公演の実現により、長期アウトカムを2件達成

【団体個別】第I期（3年目まで）の採択事業設定成果目標に対する達成度合い

成果項目	目標	1年目実績値	2年目実績値	達成状況	達成に向けた予定 / 成果に関連する特記事項
①主催事業本数（本）	125	43	47	達成見込（３年目）	R8年度は42本の実施を見込む
②主催事業入場者数・参加者数（人）	183,147	70,680	55,284	達成見込（３年目）	R8年度は61,050人の入場を見込む
③文化施設の展示・公演活動に対する専門誌・専門家等評価数（件）	4	0	1	達成見込（３年目）	R8年度の国内公演に向けて、各種メディアへ取材案内送付しているほか、すでに関係性を築いている新聞記者には個別に依頼する。4件の評価を見込む
④デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数（件）※ KPI2	-	-	-	-	-
⑤国内公演を観劇する海外キュレーター、批評家の数（人）	80	-	10	達成見込（３年目）	国際的に知名度のある舞台芸術プラットフォームと時期を合わせて開催することで、海外キュレーター観劇推進を画策。2年目までの取り組みで繋がりを得たキュレーター約30名に対しては、個別での案内も行い、70人の観劇を見込む
⑥本事業を紹介するメディア（新聞、雑誌、ウェブメディア等）の数（件）	40	-	10	達成見込（３年目）	各種メディアへの仕込みを実施（③に同じ）。 40件の掲載を見込む

※本支援事業のKPI全文は本報告書10頁を参照

採択事業名 **ロームシアター京都 レパートリーの創造 ホープス**

実施施設 **ロームシアター京都**

Japan Creator Support Fund FOR CULTURAL FACILITIES

活動実績・予定 | 実施状況 | 数値実績 | 定性実績

関係者の育成状況および館の機能強化にむけた進捗 等

人材育成的観点

- 育成対象者 西田悠哉は、ワークインプログレスにおいて一般参加者とのディスカッションや、各指導者らからのフィードバックを受け、作品を国際展開に耐える形へ磨くための視点を獲得した
- 育成対象者 野村眞人も旧作・新作のワークインプログレスを通じて、旧作『吉日再会』は台湾公演決定につながった
- 若手制作者の垣田みずきは、ベルギー・ブリュッセルでの国際舞台芸術祭視察や制作業務OJT、国際プロデューサーによるレクチャー、海外公演に向けたテクニカル実務講座を通じて、国際制作の実務知を蓄積した





館の機能強化的観点

- 国際プラットフォームを通じて、台湾国立劇場、Seoul Performing Arts Festival、Marginal Festivalなどを含む約30名のキュレーターとの個別接点を形成した
- 日英の特設ウェブページを開設し、育成対象者2名の過去作品や活動を紹介する英語字幕付きトークセッション映像を公開。育成対象者野村の創作過程を劇場ウェブメディアで英語展開するなど、海外向け発信基盤を整備した
- 豊岡演劇祭との共同制作、京都・横浜・豊岡をまたぐ公演展開、関西地域のテクニカル・制作スタッフ約10名の巻き込みにより、劇場単体にとどまらない地域的な人材育成と発信のハブ機能を強化した



©井上嘉和



©中谷利明

今後の取組において期待される点

- 育成対象者のワークインプログレスで得たフィードバックを、R8年度の国内公演で作品の質向上につなげる
- 野村の台湾公演を契機に、台湾を中心とする東アジアのネットワークをさらに深め、継続的な国際協働や他作品の海外展開へつなげる
- 台湾・韓国をはじめとするアジア圏に加え、ヨーロッパ圏との接続を第Ⅱ期で強化し、展開先の地域的バランスを拡大する
- 劇場が介在することで、個人では届きにくい国際プラットフォーム、招聘、共同制作機会を生み出している点を、より明確に打ち出す
- 少数精鋭の育成スキームを継続し、関西近辺の演劇拠点地として館外へノウハウ共有を進め、国内外から波及的なアクションを生み出す


Japan
Creator
Support
Fund